

久留米大学附設高等学校同窓会 会報



久留米大学附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862 久留米市野中町20-2
TEL 0942-44-2222
FAX 0942-44-8257
◎卒業生数 13,874名

同窓会ホームページ <http://fusetsu-dosokai.com/> 随時更新していますので是非ご覧ください。

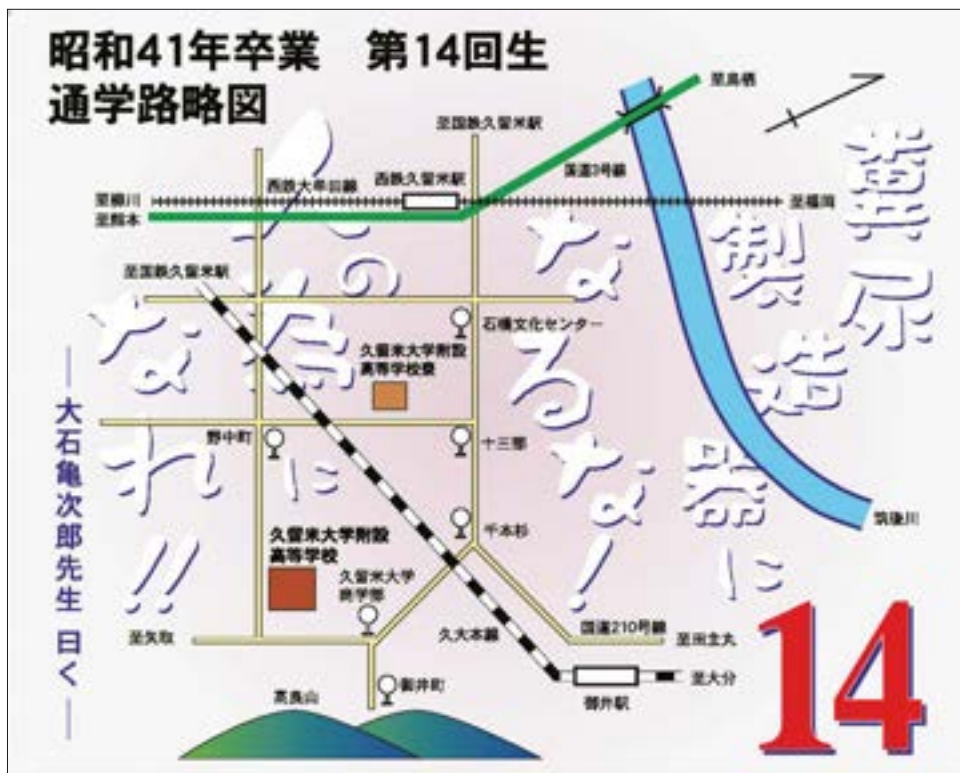


附設のシンボル『思考廻廊』

13回生のパネル/朋友有信 (ほうゆう しんあり 孟子)

13

13回生のパネル/朋友有信 (ほうゆう しんあり 孟子)



14回生のパネル/糞尿製造器になるな！ 人の為になれ！！



■ 挨拶	第8代会長 吉田清隆(23回生)、学校法人久留米大学 理事長 永田見生、 久留米大学学長 内村直尚、久留米大学附設中学校・高等学校校長 町田 健(23) 後援会会長 藤本剛史(41).....	3
■ 支部だより	全国9支部の活動(福岡・北海道・中部・関西・中四国・佐賀・長崎・沖縄・東京).....	8
■ 海外だより	松村 悟(35)、寺崎康展(40)、桑野秀章(54).....	25
■ 古稀を迎えて	砂場泰浩(21)、吉家清貴(21)、行武俊行(21)、青沼隆之(21)、中島健治(附設高校数学科教員).....	28
■ 還暦の会	祝部幹雄(30).....	31
■ 高良随想	小川 進(20)、橋本和幸(20)、片渕秀隆(22)、村石昭彦(26).....	32
■ エピソード	松尾弘徳・坂田真一・吉武忠正・前田篤宏(41).....	38
■ 会務報告	定期総会報告、活動報告、会計報告、役員・世話人名簿.....	42
■ 卒業生への支援	50
■ 在校生への支援	進路講座.....	51
■ 大学だより	中村孔星(67)、萩原芽衣(69)、吉富力良(69)、中山 寛(70).....	61
■ 母校のいま	大学合格状況、生徒会長 前田大翔(73)、文化祭実行委員長 高島啓嗣(73)、 令和5年度中学鉄道研究部部長 坂井利優(75)、教育振興基金報告、在校生の活躍、 附設グッズ紹介.....	65
■ 名簿利用手引き	72
■ 会費・寄付・広告	73
■ 会告・編集後記	154

久留米大学附設中学校・高等学校全景



- ① 正門
- ② 校舎東棟
- ③ 校舎西棟
(この西側(写真右側)の現・駐車場
に新特別教室棟を建設)
- ④ 1号館
(解体後、跡地に第二体育館を建設)
- ⑤ 体育館・食堂
- ⑥ 第1グラウンド
- ⑦ 第2グラウンド
- ⑧ 高校寮
- ⑨ 中学寮
- ⑩ 陶芸教室棟

校 歌

久留米大学 附設中学校
附設高等学校 校歌

大石亀次郎 作詞
藪 文人 作曲

一、高良山下の学園に
万朶の桜咲きそろい
若き血潮の高鳴るを
見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の
流れは遠し 千歳川
高き彼岸の光明を
見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく
平和の偉業 任として
築く不朽の真善美
見ずや 我等の大使命



同窓会会長 挨拶

来年11月2日に高校創立75周年・ 中学創立55周年をお祝いしましょう！ 今年4月に沖縄支部を設立しました！

久留米大学附設高等学校同窓会 第8代会長 吉田 清隆 (23回生)

同窓会会員の皆様には日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り大変ありがとうございます。

さて、同窓会の目的は規約第2条により「会員間の互助親睦並びに母校の発展を図る」とあります。母校の発展を図る目的の目玉としては、来年11月2日開催の高校創立75周年中学創立55周年を同窓会として最大限支援し、母校・後援会（保護者会）と一体となってお祝いすること、また、個人として最も貢献できるのは募金活動に協力することであり、皆様にはご協力の程よろしくお願い致します。

記念事業は久留米大学にて実施いただく事業と同窓会をはじめ後援会・教職員他関係者による募金により実施する事業の二本立てとなります。大学が実施する事業は、特別教室棟（現1号館の代替）・第二体育館の建築と中学寮の建て替えで、特別教室棟は来年8月頃に竣工見込みです。

募金による事業は、サッカーグラウンド南側にある「憩いの森」の整備、第二体育館への緞帳寄贈、周年史の発行、久留米シティプラザでのシンポジウムや記念式典、翠香園ホテルでの祝賀懇親会、出席者への記念品贈呈などです。

くり返しとなりますが、募金への協力と11月2日の式典や祝賀懇親会へのご出席をお願いします。

また75周年事業に加えて、思考廻廊の補充・新設を3月に工事予定ですので、是非、母校を訪ね階段塔に並ぶ思考廻廊をご覧ください。

「母校の発展を図る」ための事業としては、現役生徒向け進路講座の講師を派遣し、文化祭（男く祭）や体育祭、クラブ活動への援助を行っています。

同窓会のもうひとつの目的である「会員間の互助親睦」については、長年の夢がかなって、今年4月に「沖縄支部」を設立することができました。東京在住の沖縄出身同窓生には種々ご尽力いただき感謝申し上げます。沖縄支部は同窓会12番目の支部で、11番目は2015年12月の中部支部設立でした。沖縄県から附設中高への進学者は130名を超え、現在は、琉球大生や県外から移住の社会人を含めて70名程の同窓生が沖縄県

内在住です。来年4月には沖縄支部総会・懇親会が開催される予定なので、日程を合わせて沖縄旅行をしませんか。

「会員間の互助親睦」を活性化し発展させるために同窓会組織があるのであり、具体的には各地の支部やOB会を中心に互助親睦活動が行なわれています。支部があるのは北海道、東京（関東圏）、中部、関西、中四国（中国・四国）、山口、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本と沖縄です。福岡県内には地域別にOB会が、東北にも支部はないがOB会が、東京や福岡には職域別のOB会もあります。人数の多い福岡支部や東京支部では、回生代表世話人会、サロン・ド・附設（福岡）、附設塾（東京）、就職セミナー（東京）など、シニアから若手まで楽しく参加でき懇親を深める活動が行なわれています。

2020年春からのコロナ禍により同窓会活動が停滞を余儀なくされ、支部総会・懇親会も中止か、オンラインやハイブリッドの開催に追い込まれましたが、ようやく昨年からの以前のような懇親会ができるようになってきました。宴会好きの私は嬉しくて、スケジュールが空いている限り参加させていただいたし、ふたつの支部総会・懇親会をダブルヘッダー参加したのもよき思い出です。

同窓会報においては、皆様からの広告協賛のおかげで、福岡支部総会・定期総会、東京支部総会、本部活動の財政基盤を支えていただいております。

2024年度の大プロジェクトとして、同窓会ホームページをリニューアルし、ネット上での互助親睦を深める場を提供するために色々なコンテンツを検討中です。来年3月の完成まで楽しみにお待ちしております。

最後になりますが、今年の同窓会報は少し遅れて12月の発行とさせていただきます。WEB名簿の住所変更がまだの学生や若手が実家で受け取れるように、シニアの皆さんがコタツに入ってお楽しみいただけるように、餅代やお年玉に加え75周年募金への協力も頂けないかなあ、と考えてみたものです。

日本一！世界一！の同窓会を目指します。



理事長 御挨拶

修羅道の世を救う

学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

この原稿を書いている時点の社会・経済情勢ですが、海外においては、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルと周辺諸国・地域との紛争などが激化するなど、戦禍に見まわっております。また、大統領選挙が行われているアメリカでは、2大政党の政治的理念の分極化が進み、社会の分断が叫ばれている状況です。ソーシャルメディアの普及がもたらす影響も見過ごせません。一方、国内においても、物価高騰や為替相場の不安定化などにより厳しい経済情勢が続いており、これらは貧困、教育格差等の問題にもつながっております。急速な少子高齢化の進行や地震・台風・大雨等の気象災害の頻発も憂慮すべき事象です。まさに、修羅道の世と言えるような状況ではないでしょうか。これらに対する解決策を見出すのは、決して容易なことではありません。しかしながら、複眼的な視野の下、様々な分野の叡智を結集しつつ、平和で差別のない社会を目指す必要があると考えており、そのような社会を創るためには、大局観を持った優れた人材が必要となります。

「修羅道の世を救うべく 平和の偉業任として 築く 不朽の真善美 見ずや我等の大使命」これは、皆様ご存知の附設高校校歌の一節ですが、この歌詞は附設高校草創期に活躍された国語（漢文）教師の大石亀次郎先生が作詞されたものです。大石先生は、1950年3月末に、時の板垣政参校長と檜崎広之助副校長から、「人物の薫陶（すぐれた人間をつくること）はこの機にある。国家有用の人物養成の為に高等学校が誕生した。ついては、育英壇上に出馬せよ（英才教育をするために教壇にたつて欲しい）」と懇願されたことから、一晩熟考の上、「天下の英才を得て、国家奉公の任に当たることに踏み切った。」と記録されております。そして、その後、大石先生は漢詩・漢文の教育を通じて人間教育をされ、また、久留米大学初代学長の小野寺直助学長や板垣政参校長の意を汲んで校歌を作詞されたのです。現在の社会・経済情勢は当時とは全

く異なりますが、国内外の情勢が緊迫化している昨今において、大石先生のような気概に満ちた教員が代々に亘り社会に貢献する優秀な人材の育成に努めている附設高校の重要性は増す一方であり、また、修羅道の世を救うという使命を果たさんとする同窓生の方々の益々のご活躍が期待されているところです。

多種多様な人材を数多く輩出してきた附設高校も、2025年には創立から75年目を迎えることとなります。同窓生の皆様方におかれましては、感慨もひとしおのことと存じます。学校法人久留米大学といたしましても、現在の学び舎で学んでいる皆様方の後輩に対し、従前以上の教育環境を提供し、更なる教育効果を得るべく、施設・設備の拡充を主とした周年記念事業を展開しております。同窓生の皆様方におかれましては、引き続きご支援いただきますよう、よろしく願い申し上げます。



学長 御挨拶

創立75周年に向けて

久留米大学 学長 内村直尚

日頃より同窓会会員の皆様には温かい御支援と御協力を賜り、心より感謝致しております。附設高校は1950年に創設され、来年2025年に75周年を迎えることとなります。75周年に向けて、同窓会会員の皆様のご支援をお願い致したいと願っております。

2028年4月に創立100周年を迎える久留米大学は、1928年創立の九州医学専門学校を礎に発展した西日本有数の総合大学で、「人間性豊かな実践的人材の育成」と「地域への貢献」を理念に掲げています。

本学は今年で6学部14学科となり、多くの卒業生を輩出し、各分野で活躍をしております。今年より医学部に新設となった医療検査学科とともに、看護学科は30周年を迎えました。

今年の7月に、旭町キャンパスに新しい校舎「看護学科・医療検査学科1号館」が完成しました。既存施設と調和する落ち着いたデザインの1号館には、看護学科および大学院看護学専攻の講義室や実習室があります。また、医療検査学科や認定看護師教育課程と共有する学食や多目的スペースもあり、活気あふれる場になります。来春には、現在の看護学科A棟が2号館として、医療検査学科の教育・研究の場に生まれ変わります。

本学の教育・研究・地域貢献・医療のビジョンは社会情勢や環境の変化に順応し、今後も地域や時代のニーズに適応しながら進化していく必要があります。学生さんには、常識にとらわれず、視野を広げて、性差、人種、言語等多様な時代の変化に対応しながら学び続けてもらいたいと思います。

ところで、今年の骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針）に睡眠対策が盛り込まれました。最近は大谷選手が「睡眠が心身を回復して最高のパフォーマンスを発揮する一番の方法である」とコメントしたり、企業でパワーナップ（昼寝で活力）が取り入れられ、睡眠の効用が叫ばれてきています。さらに、2024年2月に厚生労働省が「健康づくりのための睡眠ガイド2023」を世代別に公表しました。中・高校生は8～

10時間、20歳から59歳の成人は6時間以上の睡眠時間を確保することが、また、60歳以上の高齢者は床上時間（床に横たわる時間）を8時間以内に制限して、30分以内の昼寝を取ることが生活習慣病、心血管イベント、癌、うつ病、認知症等の予防となり、健康寿命を延長し、死亡リスクを低下させると多くのエビデンスに基づき発表されました。もし人生が100年とすると、その内の約30年は眠っています。30年の眠りを大切に人が覚醒している70年の生活の質（QOL）を高め、幸福感を向上させます。すなわち、睡眠を制する者が人生を制するのです。皆さん、是非、健やかな睡眠で幸せを掴んでください。

令和は心の時代です。心に余裕をもって、家族や同僚、友人と心を通わせ未来を信じ、一步ずつ進むことが大切です。挫折やつらさ、悲しみを体験すると人は強くなり寛容になります。人との出会いや出来事から人生は形作られ、体験や笑い、悲しみ、怒り、喜びなどの感情を分かち合えることでコミュニケーション能力が高まり、信頼関係が生まれます。自分に厳しく、周囲に寛容に振る舞うことが安心、つまり心理的安全につながり、変化に強い組織形成の根幹となります。学問や仕事の力量、能力は高いに越したことはありませんが、人としての魅力、すなわち人間性が大きな成果や幸せを生み出します。

個人が心を育み、人間力を高めることが重要です。久留米大学および久留米大学附設中・高校、そして、同窓会全体が「One team」となって未来に向かって邁進していきたいと思っております。

今後も久留米大学学長として久留米大学、附設高校および附設高校同窓会の発展に少しでも寄与できるよう励んで参ります。至らない点も多々あろうかと存じますが、同窓会会長を始め同窓会役員の皆様、会員の皆様には引き続きご協力をお願い申し上げますと共に、皆様のご多幸と御健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶と致します。



校長 御挨拶

高校創立75周年・ 中学創立55周年を目前にして

久留米大学附設中学校・高等学校校長
(高校23回生・中学1回生) 町田 健

令和6年も、本校の教育は順調に進んでおります。1月末に実施された入学試験への応募者数は例年と同様であり、高校からの入学者もほぼ期待通りの人数を確保することができました。大学への合格者は、東大32名、京大10名、九大医学部医学科22名と、昨年より幾分か減少しましたが、熊本大や佐賀大など近辺大学の医学部医学科への合格者数が例年より多かったこともあって、国公立大学医学部への現役合格力が全国1位だと判定されることになり、本校が実現させている教育が十分に実り多いものであることの証左だと考えております。今後も医学部だけでなく、人類の幸福と発展に寄与するすべての分野に貴重な貢献をなすことができる人材を輩出することができるよう、教職員一同全力を注入していく覚悟でおります。

来年令和7年に迎える高校創立75周年・中学創立55周年に向けては、同窓会の皆様方よりの寄付をはじめとする多大な支援を賜り、心より感謝申し上げます。募集期間はまだまだ残っておりますので、附設の力を内外に示すべく、皆様方からのさらなるご支援を賜りたく、ここに改めてお願い申し上げます。

創立75周年・55周年の記念事業の重要な一環として、第二体育館と新校舎の新営がすでに始まっております。まずは現在の1号館に代わる新校舎を、現在の西門前にある駐車場の位置に建造します。新校舎が令和7年の夏に完成したあと、半年をかけて現在の1号館を解体し、同じ場所に1年をかけて第二体育館を建設します。この作業が終了する予定が令和7年の夏頃ですが、その後、すでに皆様にお知らせしており、同窓会からのご寄付によって実現させる予定の、憩いの森および現体育館南の三角地帯の整備を進めて参ります。憩いの森がある場所には、最初は古代ギリシア風の野外劇場を作る予定でしたが、近隣に対しての騒音を配慮して舞台の向きを決定すると、劇場としての機能を果たすことが難しいことが判明しました。このため、劇場の計画は断念し、その代わりに、

イタリアの都市シエナにあり、世界的に有名なカンポ広場を模した擬似円形空間を建造し、この空間を導入する施設として、アテネのアクロポリスの入り口に立つ壮麗な門であるプロピュライア風の門を麗々しく配置することにしております。さらに、現体育館南側の三角地帯には、エジプト文明を象徴するモニュメントの一つであるオペリスクを造営し、ご寄付をいただいた皆様のお名前を刻んだ石板を貼付することにしております。これらの記念建造物が完成した暁には、エジプトと古代ギリシア、そしてイタリア・ルネサンスという人類史を彩る最高の諸文明の成果を集めた、至高の人間知を高らかに謳うシンボル群が、附設の地に出現し、本校が輩出してきた世界的にも優れた人材を誇り高く称揚する役目を担うこととなります。これらの記念モニュメントは、すべて同窓生や保護者の皆様からのご寄付によって実現するものであり、それだけに格別のご配慮を改めてお願いしたく存じます。

附設高校・中学も長い歴史を閲し、我が国でも有数の学校として広く知られるようになりました。今後もこの輝かしい成果を維持し発展させるべく、教職員、同窓会、保護者会が一体となって優秀な生徒たちをさらなる高みへと導けるよう、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



後援会長 御挨拶

御挨拶と母校の近況

後援会会長 **藤本 剛史** (高校41回生・中学19回生)

一昨年度より引き続き後援会会長を務めさせていただいております藤本剛史です。附設中学校19回生、高校41回生として卒業し、久留米大学を卒業後に産婦人科医として研鑽ののちに2015年より実家の産婦人科医院を継承開業しております。

父が高校14回生でありまた子供が高校2年生に在学中で、三世代にわたり縁のある学校に後援会として携われることを大変嬉しく存じます。

例年のように昨年度の本校の卒業生の合格実績は国公立大学、医学部ともにすばらしい結果となりました。同窓生として毎年大変誇らしく、今後も楽しみです。

2020年度～2021年度は新型コロナウイルスの影響で行事がかなり制限されましたが、2022年度はまだ影響がありながらもすべての行事が行われました。さらに2023年度からは文化祭をはじめ、コロナ禍以前の通常通りの生活が戻ってまいりました。

今年度は附設高校75周年、中学校55周年記念事業の工場の影響で体育祭が久留米アリーナで開催されております(写真)。私も観覧に行きましたが、初めての会場での開催にもかかわらず、生徒たちは何の支障も感じさせず、素晴らしい体育祭になりました。改めて附設生の学業以外もそつなくこなすポテンシャルの高さに感服いたしました。

くり返しになりますがいよいよ来年度は附設高校75周年、中学校55周年記念事業が控えております。引き続きの募金や、記念式典、記念史などすべての業務には同窓会の皆様の御支援が不可欠です。後援会としても微力ながら協力してまいります。

今年度も後援会に御支援、御協力賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



令和6年度 附設中学校高等学校後援会役員名簿

役 職	氏 名 (数字は回生)	学年
会 長	藤本 剛史 (41)	高 2
副 会 長	横倉 義典	高 3
副 会 長	今泉 裕登 (35)	高 1
副 会 長	前山 泰彦 (44)	高 1
会計主任	林 ひろみ	高 2
庶務主任	木内 美音湖	高 3
庶務主任	徳永 久美恵	高 2
庶務主任	森 龍祐 (46)	高 1
庶務主任	大神 久美子	中 3
庶務主任	中川 智治 (38)	中 3
庶務主任	樋口 桂子	中 3
庶務主任	田島 誠	中 2
庶務主任	徳永 紀子	中 2
庶務主任	二木 知子	中 2
監 事	出口 弘子	高 3
監 事	田島 智子	中 3

全国各地で様々な同窓会活動が繰り広げられています。

この『支部だより』コーナーでは、
各支部からの活動報告をお届けします。

● 福岡支部 ●

福岡支部活動報告
サロンド附設復活

福岡支部長 実藤 光二郎 (26回生)

福岡支部の運営は、各回生及び職域の代表世話人に参集頂く回生代表世話人会で、支部総会をはじめとした諸活動・諸取組を共有し、代表世話人より各回生への伝達や総会出欠の取り纏め等をお願いしています。代表世話人はまさに要の役職であり、福岡支部にとって欠かせざる存在です。本当にありがとうございます。

他方、県内で、有明・筑後・久留米・朝倉・筑豊・北九州の6つのOB会が運営されており、OB会が地域内同窓生の繋がりを深め、県内同窓生のネットワークを支えていただいています。コロナ禍で停滞を余儀なくされていたOB会ですが、令和5年度は12月開催の有明OB会を皮切りに、久留米、筑後、朝倉の4つのOB会に開催頂きました。また、朝倉OB会では、町田校長による公開講座も同日開催頂きました。

OB会は、回生を越えて附設同窓生としての親睦を深めるのはもちろんですが、地域内の先輩・後輩の繋がりの中で、ビジネスの幅が広がる機会ともなっています。今後も、各OB会の自主性と特色を尊重しつつ、



福岡支部としてバックアップしてまいりたいと考えております。開催スケジュールについては、同窓会HP等で適宜ご案内いたしますので、是非ご参加下さい。

今回のトピックスとしては、サロン・ド・附設の復活です。コロナ禍で長らく中断してしまいましたが、

- 多方面で活躍している附設卒業生とゆるやかなネットワークが作れる場所とする
 - 同窓生が定期的集まって話ができる場を作る
- をモットーに、2ヶ月に一度福岡市内で開催頂いています。附設同窓生の新たなネットワークとして、今後も盛り上げてまいりたいと考えております。



●福岡支部●

福岡支部 R5年度(令和5年4月1日～令和6年3月31日)決算書

●収入の部

科 目	決算額	備 考
広 告 協 賛 金	2,640,000	
総 会 会 費 収 入	1,879,000	ゴルフ会参加費46,000円を含む
寄 付 金	0	
回 生 世 話 人 会 会 費	301,000	
新 入 歓 迎 会 会 費	0	
本 部 か ら の 補 助 金	451,800	回生世話人会補助
そ の 他 収 入	0	
受 取 利 息	33	
収 入 計	5,271,833	

●支出の部

科 目	決算額	備 考
1. 事 務 費	157,911	
2. 事 業 費		
① 総 会 支 出		
総 会 会 場 費	3,700,004	ゴルフ会経費191,675円を含む
総 会 準 備 会 議 費	611,590	
来 賓 交 通 宿 泊 費	294,811	
印 刷 費	168,610	
消 耗 品 費	0	
総 会 雑 費	74,052	合唱部記念品
小 計	4,849,067	
②その他の支部活動支出		
支 部 会 議 費	0	
交 通 宿 泊 費	0	
OB会・他支部総会への祝金等	173,400	
回 生 代 表 世 話 人 会	752,800	
新 入 歓 迎 会	0	
就 職 セ ミ ナ ー	0	
渉 外 費	0	
雑 費	880	振込手数料
本 部 へ の 協 力 金	1,000,000	
小 計	1,927,080	
支 出 計	6,934,058	

当 期 収 支 差 額	-1,662,225
-------------	------------

前 年 度 繰 越 金	5,848,337
翌 年 度 繰 越 金	4,186,112

久留米大学附設高等学校同窓会福岡支部の令和5年度収支決算は妥当と認めます。

令和6年4月1日

令和6年4月1日

34回生会計幹事

35回生会計幹事

秋本 丈司

服部 剛

● 福岡支部 ●

令和6年度 定期総会・福岡支部総会報告

幹事長 津 福 一 宏 (35回生)

令和6年7月28日(日)、ソラリア西鉄ホテル福岡にて久留米大学附設高等学校同窓会 令和6年度定期総会・福岡支部総会が開催されました。当日は、同窓生216名、来賓(恩師)8名の同窓会関係者が一堂に会し、懇親の輪を深めることができました。

今総会のスローガンは、『乾坤一擲』(けんこんいつてき=のるかそるかの大勝負)を掲げました。いまこの時は一度かぎり、35回生の同窓会設営も一度かぎり、リレートーク(余興)も一度かぎり、それぞれの瞬間瞬間が大勝負、という気概で企画・運営にあたりました。

前日の7月27日(土)には、J R内野カントリークラブにて親睦ゴルフを開催。同窓生17名が参加。酷暑の中でしたが、今年は山間のJ R内野C Cをチョイスし、カートを利用したので、すこしは気持ちよくラウンドしてもらえたかと思います。



7月28日(日)13時30分より、福岡支部総会が開催され、引き続き14時より定期総会が開催されました。

その後、金井直君(かない・ただし、35回生)に『私の美術史研究』という演題で講演を行っていただきました。美術品を見る環境は、作られた光の美術館がベストではないんじゃないか。彫刻は白、という思い込みによって、洗浄されすぎていないか。作家の意図した状態で保存されていると言えるのか、などの問い



かけ。昨今の美術鑑賞のトレンドとして、「参加・対話・交流。リレーションアート。作家を絶対視しない」経験、能動性、諸価値の記憶などのキーワードが心に残りました。

懇親会のイメージは「イブニング附設」。司会の山本カヨ氏からのご指名により、懐かしい話やエピソード、俺のウリなどをリレートークで楽しみました。

最後の校歌斉唱は、記念行事のさいに作成されたプロの合唱団による音源の厳かな響きに合わせ、同窓生が一つになり、修羅道の世を救うべく、我らの大使命を思いあらためて誓った懇親会になったものと思います。

最後になりますが、総会企画ならび運営におきましては、学校関係者、同窓会幹部の皆さま、回生世話人の皆さま、この会報に広告を掲載していただいた皆さま、幹事団として共に活動していただいた同期の仲間、心より感謝申し上げます。母校ならびに同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご報告とさせていただきます。



●北海道支部●

久留米大学附設高校同窓会
北海道支部報告

北海道支部支部長 西見寿博 (20回生)

北海道の秋はあっという間にやってきました。今年の夏は「久留米」や「太宰府」の真夏日報道を何度も耳にしました。ご存じの通り、北海道では暑い日がありました。例年通り涼しく穏やかな日々でした。

さてコロナ禍が過ぎ、日常生活も元に戻ってきた感じがあります。北海道支部もこの影響を受けて、同窓会開催が不規則なものになっていました。

ご報告が遅れていますが、現在北海道支部は支部長 西見寿博(20)、副支部長 中島泰志(35)、副支部長・評議員 草場鉄周(41)、幹事・事務局 桜木修(43)と体制が代わっています。

今回事務局桜木くんの奮闘で6月15日に支部会を開催することが出来ました。3回卒松永視幹先輩を始め、20名近くの同窓生が集まりました。今年は吉田清隆会長、中村和徳副会長、古賀善彦副会長、田中英治副会長の4名の方が本部からはるばる来道され会に参

加頂きました。コロナ禍以降、学生さんの連絡が途切れたため、主に北海道で働いている方々が中心でした。しかし、北大からは現役生も参加され、将来像を中心に色々と話にのめり込んでしまいました。今回は佐賀から角田幸太郎(46)さん(北海道大学出身、現・佐賀大学 経済学部 就職委員長)も参加頂きました。本当にありがとうございました。

ところで悲しいお知らせがあります。2回生の末永義円先輩が1年近くの闘病生活を経て、8月24日ご逝去されました。北海道大学解剖学助教授でご活躍された先生です。附設高同窓会北海道支部を作られた大先輩でした。お酒の大好きな先輩でもありました。末永先生と共に支部活動に一番長く携わった檀浦くんに以下の追悼の言葉を頂きました。

追 悼

先日、2回生の末永義円先生が亡くなりました。

私が学生の時、末永先生は北大の解剖学教室で講師をされていました。実習の後など、よく飲み連れて行ってもらいました。飲むと、北大獣医学部に入られた頃、鉄道、青函連絡船を乗り継いで、2日かけて九州から北海道にきた話を、よくされていました。

同窓会の北海道支部を作るきっかけも、九州から遠方で学生さんも心細かろう、何らかの繋がりがあれば心強かろうという理由からでした。

平成元年6月3日に第一回支部同窓会を開き(狸小路札幌ビール直営ライオン店)、先生が初代支部長に就任されました。以来、毎年同窓会に出席され、思い出は尽きません。

ここ2年位体調を壊され、同窓会も欠席されていました。心よりご冥福をお祈りします。

檀浦龍二郎 (20回生)



末永先生 (2017年6月)

●中部支部●

中部支部だより 尾張名古屋は〇〇で持つ??

中部支部支部長 守瀬善一 (29回生)

本年度、安井健三前支部長から支部長を引き継いだ29回生の守瀬善一です。

中部支部は毎年11月第4土曜日夜に、本部からのご出席も頂き、支部総会（支部総宴会?）を開いています（参照画像1 左先頭が安井前支部長、守瀬は同列後ろから2番目）。交通の便の良い名古屋駅付近で昨年は令和5年11月25日に開催し、今年の開催予定は令和6年11月23日 18時からです。例年20名ほどの同窓生（大部分はそれなりの高齢者、ごく一部2-40歳代）が集まって楽しく歓談しています。大学で中部地区に出てきた若手?の会員もいますが、この地区はトヨタをはじめとした製造業が盛んなところで、支部会員もそのような様々な企業に就職されて中部地区を終の棲家に定めた人が多く、宴会では久留米近郊の地元話で盛り上がりたりしています。

私は2005年の愛・地球博（愛知万国博覧会）の3年前に名古屋に移り住んで在20年を超しましたが、愛知万博跡は一昨年11月からジブリパークになり、“尾張名古屋は城とジブリで持つ”という新しい言葉が作られたようです（参照画像2）。私自身は、今、尾張ではなくその西の三河の岡崎市で働いています（住居は名古屋）が、昨年は大河ドラマの徳川家康で大変盛り上がりしていました。

久留米→福岡→大阪・京都→東京と素通り（名古屋飛ばし?）せず、中部地区にも是非お立ち寄りください！



参照画像1



参照画像2

寄稿者Profile ● 守瀬善一・29回生・久留米市津福本町出身（今や実家は無くなってしまいました!）慶應義塾大学医学部 昭和62（1987）年卒・現在、藤田医科大学岡崎医療センターというところで消化器外科（主に、肝臓）医をやっています

関西支部活動報告

(2023年度後半～2024年8月)

関西支部長 甲斐田 郁夫 (21回生)

ここ4～5年を振り返りつつ、関西支部の活動をお知らせします。2019年11月29日(金)大阪での支部総会開催直後から日本国中がコロナ禍に見舞われ、対面での活動はできなくなりました。その後2021年9月11日(土)にZoomによる定期総会を開催し、東京や海外在住の方を含め多くの方に参加いただきましたが、対面での活動は依然としてやり辛い環境が続きました。

祇園祭後にコロナ患者が激増した京都にて、2022年8月6日(土)に新入生歓迎会を半ば強行開催しました。参加者は13名(学生7名+社会人6名)に留まりました。京都での新入生歓迎会の参加者は一時51名(学生33名と社会人18名)を数えた事もありましたので、一気に2014年6月の初回開催時のレベル20名(学生11名+社会人9名)以下に低下しました。

その後2023年12月1日(金)、大阪で関西支部総会を4年ぶりに開催することができました。22名(学生7名+社会人15名)の方に参加いただきましたが、依然としてコロナ禍前に比し半減以下の参加者数でした。とは言え遠路、東京から吉田会長、福岡からは田中副

会長にもお出でいただき、マスクを気にすることなく楽しい時間を過ごす事ができました。その故か、少しく聞こし召された大先輩の気分が優れなくなりましたが、居合わせた医師3人に直に応急措置をとっていただき、大いに安心し又誇らしく思いました。

さて直近の本年8月24日(土)に、京都駅前にて本年度の新入生歓迎会を開催致しました。61回生の佐伯洋輔さんに運営等全てをお願い致しました。夏休み中の為か、学生参加者は7名(内新入生は4名)でしたが、社会人は京都開催にも拘らず14名に参加いただき計21名の盛会でした。ご連絡が間近になりましたのに、吉田会長にもお出でいただき感謝の念に堪えません。

私も古希を迎え、より若い方に引き継いでいただく時期かと存じます。毎回の決まり文句ですが、知己に関西在住の同窓生がおられましたら、甲斐田(taretare_ikutan@yahoo.co.jp 090-9623-8244)までご連絡いただけるようお伝えください。一読いただきありがとうございます。



●中四国支部●

附設高校同窓会中四国支部活動状況 附設高校同窓会(2023.4~2024.9)報告

中四国支部長:理事 近藤 治幸 (16回生)

やっと、コロナ感染が終息に向かい、長かったコロナ禍を乗り越えてきました。

中四国支部も、この三年間のブランクを脱し、おかげさまで「2023.11.18定期支部総会」を開催するに至りました。3年毎の開催なのですが、この度から初の試みとして2,3,4回生の先輩の「米寿」をお祝いいたしました。〈次回は、5,6,7回生の先輩に米寿祝!を〉

2024年度も、引き続き、同窓会活動に尽力したいと思います。同窓会本部をはじめ、会員の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

《活動状況》

- 1 2023.5.22(月) ①同窓会報の広告掲載依頼及び②支部活動報告のお知らせ、を登録会員宛てメール配信しました。
- 2 2023.5.27(土) 理事・評議員会に出席しました。〈今回は、懇親会も久し振りに開催〉なお、2025年の創立75周年に向け「募金目標1億円」を目指すこととなりました。
- 3 2023.5.28(日) 定期総会会場(広島ガーデンパレス担当者)と、11.18定期総会開催の打ち合わせを行いました。
- 4 2023.8.19(土)、10.28(土) 定期総会に向け事務局打合せ、準備を行いました。〈*なお、これまでの間は、事務局打合せを適宜メール等により行っています。〉
- 6 2023.11.18(土) 附設高校同窓会中四国支部定期総会(第13回)を開催しました。
定期総会概要:ご来賓:附設高校校長;町田 健様(23回生)2回生から56回生まで幅広く、総勢24

名、和気藹藹の交流となりました。《写真1枚》
7 2024.3.9(土) 2023年度の総括と2024年度の活動計画等について協議しました。
〈2024.5.25(土)理事・評議員会【出席】、7.28(日)附設高校同窓会定期総会【日程合わず欠席】〉〈夏の納涼懇親会=島根県丸山知事表敬訪問・松江地区懇親会の企画【開催】〉〈新年懇親会〉〈事務局打合せ会〉等

2024.8.31(土)

「丸山知事を囲む松江地区懇親会」を開催できました
知事をはじめ島根から5名、徳島から1名、広島から4名、総勢10名、11回生から48回生と幅広く、和気藹藹の内に近況報告、熱心な意見交換で盛り上がりました。

《ご報告》

- (1) 2023.4.9(日)の島根県知事選挙で、丸山達也氏(36回生)が再選されましたこと、二期目のご活躍を祈念いたしますとともに、少なからぬエールをお贈りしたいと思います。
《*2023.4.10(月)に、「ご再選祝意メッセージ」をメール送信しました。》
- (2) 2023.4.18(日)【広島大学75+75周年記念事業シンポジウム】「核兵器の廃絶に向けて一放射線災害への備え」が開催され、田代聡教授(28回生)が「核の脅威に備える医療開発」のテーマで講演されました。〈支部長他オンライン参加しました。内容詳細はインターネットで【広島大学75+75周年記念事業シンポジウム】を検索してください。〉



2023.11.18定期支部総会(第13回)

中四国支部活動の一環として、 2024.8.31(土)松江地区懇親会を開催しました。

幹事 関 太一 (45回生)

鳥根県知事丸山達也氏(36回生)を囲み、参加者の近況報告をする中で、和気藹藹と話が弾みました。また、鳥根を思う熱心な意見交換をすることができ、盛況のうちにお開きとなり、二次会場へと移りました。

参加者は、鳥根県内から、古野俊彦(11回生)、中川昭生(19回生)、相川義智(28回生)、原孝平(48回生)。徳島県から、櫻木章司(23回生)。広島県から、今田忠則前支部長(19回生)、近藤治幸支部長(16回生)、田代聡副支部長(28回生)、関太一会計幹事(45回生)、と総勢10名が集まりました。

今後も、引き続き鳥根の附設同窓生でも定期的に集まりたいと思っていますので、鳥根にお越しの際は、ぜひご連絡ください。

なお、鳥根県に限らず、各地域でこのような地区懇親会の開催が増えていけばなあ、と思っています。事務局としても、各地域の附設同窓生の皆さんへの開催協力支援を惜しみませんので、お気軽にお声をかけて下さい。



松江地区懇親会二次会



松江地区懇親会 前列中央丸山知事

●佐賀支部●

佐賀支部だより
第32回芙蓉医会報告

佐賀支部長 志田正典 (22回生)

2020年より三根 茂氏(17回生)に代わり佐賀支部長および同窓会理事を拝命しておりますが、同年に始まった新型コロナウイルス感染症禍の中、引継ぎ後は思うような活動が出来ず、約4年半が経過してしまいました。佐賀県支部では基本的に2月に芙蓉医会(佐賀県に在住もしくは佐賀県内に勤務している医師と佐賀大学医学部生の同窓会)、8月に全体同窓会を年間行事として毎年開催してきましたが、私が佐賀県医師会の役員を務めている関係から、7月~11月にかけての週末がほぼ県・九州・日本医師会の行事で埋まっており、本年は8月の全体同窓会の開催がどうしても叶わず、3月に芙蓉医会のみを開催しましたので、今回の支部だよりでは、その報告をさせていただきます。

芙蓉医会は例年2月の第1金曜日の開催と決めていましたが、同時期は佐賀大学医学部生の学年末試験や医師国家試験前と重なるため、学生の参加者が年々少なくなっていたことから、今年は3月の開催としてみました。コロナ禍で4年ぶりの開催となりましたが、36名の参加がありました(医師:28名うち研修医4名、薬剤師:1名、学生7名)。ただ、私の上級生は前支部長の三根 茂氏(17回生)が1名参加されただけで、若手医師や学生の参加が増えたことは喜ばしい反面、先輩方の出席が得られなかったことが残念で、私の開催への配慮が足りなかったのかと反省しております。

会は例年の様に同窓生の講演に始まり(無礼講で、アミューズのような洒落たものは付きませんが、飲みながら講演を聴くというスタイルです)、支部長挨拶、乾杯、歓談、参加者全員の近況報告、校

歌斉唱、写真撮影の流れで進み、久しぶりに膝をつき合わせた飲みにケーションが出来、楽しいひと時を過ごしました。その後は、これも恒例になっていますが、希望者で焼鳥屋へ移動して二次会を開き、今回も約半数ほどが参加してくれました。二次会も例年同じ店で開いており、焼鳥やサイドメニューも美味しいのですが、この店の牛のたたきが絶品で、特に学生や若手にしっかりと食べてもらい、上級生が奢ることで威厳を示し、上下関係を植え付けています。

今回の講演は芙蓉医会ということもあり、「医師会の存在意義」という題で、私が話をしました。詳細は省きますが、現役医師として、医療や介護が国の思惑通りに動かされている現況に危機感を抱いており、その絡みで少し話をさせていただきました。

最後になりますが、来年は例年の同窓会行事が開催できるよう、早めに準備に取りかかりたいと考えております。支部の皆さま、どうぞ宜しくお願いいたします。



2024.03.01. 芙蓉医会 椅子席の右から4人目が私です。

寄稿者Profile ● 志田正典 (しだ まさのり) 22回生・佐賀県佐賀市出身・志田病院(現、医療法人正和会 志田内科)勤務・連絡先: 医療法人正和会 志田内科 (TEL 0952-23-3720、info@shida-hp.com)

●長崎支部●

久留米附設高校 同窓会長崎支部だより

長崎支部の振り返り

昭和55年5月、長崎大学裏門に立ち返り

長崎支部長 川口 哲 (28回生)

長崎支部の活動は毎年11月に支部総会とゴルフコンペ(附設コンペ)を行っています。令和5年は支部総会が11月11日に長崎市の中野町の会楽園で、附設コンペは翌日の12日に長崎パークカントリークラブで開催されました。総会の社会人参加は、同窓会会長、副会長2名を含め18名、学生参加は19名(学生は無料)あり、合計37名で盛會に執り行われました。附設コンペは参加9名で優勝は加瀬真一郎君(36)でした。

長崎大学への入学者が主になりますが、毎年6月頃に新入生の歓迎コンパ(新歓コンパ)を長崎大学病院在籍の社会人が中心になり学生幹事が手足となって行っていました。現在は、コロナ禍で休止状態ですが、来年には再開したいと考えています。なお、コロナ禍でもリモートでは行っていますが、締めめの校歌斉唱が締められません。

昭和55年5月某日朝、長崎大学の裏門でビラを配っていた見覚えのある方から、「お前、附設やろ」と新入生の私は声をかけられました。その方は藤下敏先輩(27)で、高校時代にお話をしたことはないのですが、一学年約200人の高校の先輩後輩、お互いに顔見知りでした。その時に新歓コンパがあることを知りました。40年以上前から長崎では長崎大学に入学した学生を長崎在住の先輩が歓迎・応援をする習慣がありました。6月に中華料理飯店で諸先輩とお会いした時に、眼科で開業なさっている柿本末人先輩(3)のところ

に後輩が集まって食事会をしたことから始まったという起源を伺いました。出席者の多くは医学部生と医者でしたが、工学部の先生もおいででした。社会人と宴席をともにする初めての機会に緊張しましたが、附設出身という「男くさい」感覚で気軽にお話をしていただけました。同年の11月には「追い出しコンパ(追いコン)」となり、お世話になった同郷の生駒三省先輩(22)他、卒業生のお別れ会が開かれました。この「新歓・追いコン」が長崎支部の年中行事でした。場所の手配や卒業生を含めて先輩・後輩たちへの連絡は幹事学年の学生がしていました。新歓では新入生が、追いコンでは卒業生が無料でしたが、その他は会費制で学生・社会人(2倍)を徴収しほぼトントンになっていたようですし、勿論、二次会からは社会人の諸先輩持ちでした。学生手配ですから、どなたが参加するかは当日にならないとわからないハラハラ運営でした。当時から参加者は約40名はいたようです。同窓会の正式な名簿もなく、固定電話しかない時代でしたが、先輩後輩の絆が強かったのか本当にたくさんの方が参加しておられました。こんな、昭和の伝統が今も息づく長崎支部です。なお、令和の現在は、スマートな支部運営が行われています。11月の総会は学生は無料です。出席者等も事前にメールで確認しています。以上支部の歴史を振り返った報告です。



久留米大学附設高等学校同窓会—長崎支部—
日時：令和5年11月11日(土)
会場：長崎 中国料理館 会楽園



附設コンペは2023年11月12日
長崎パークカントリークラブで開催
川口は総会の写真の前列、右から3番目です。

寄稿者Profile ●川口 哲・28回生・福岡県直方市出身・長崎大学卒・島原こころのクリニック院長

● 沖縄支部 ●

沖縄支部発足!

第1回通常総会・懇親会を2025年04月13日(日)に那覇市において開催予定。ぜひご参加下さい!!

沖縄支部長 清水 明 (23回生)

附設高校同窓生の皆さん、こんにちは。私は、沖縄支部長の清水明(23回生)と申します。

既にご案内のとおり、2024年4月14日(日)に那覇市のホテルJALシティ那覇にて「沖縄懇親会」が同窓会本部主催で開催されました。当日は、沖縄県内及び本土各地から、なんと、総勢39名もの同窓生の皆さんが参加され約3時間に及ぶ「沖縄県にゆかりのある(ない方も含む)附設高校同窓生の宴」が繰り広げられたのでした。

もちろん、当日は吉田同窓会長と町田校長先生もご出席されたのですが、その「沖縄懇親会」の式次第は、以下のとおりでした。

- 13:00 開 会
吉田清隆同窓会長(23回生)挨拶
町田健校長(23回生)挨拶
乾杯挨拶(一瀬徹夫さん(13回生))
参加者スピーチタイム
閉会挨拶
校歌斉唱
- 16:00 閉 会(当初の予定から30分延長)

なお、同窓会本部では、上記の「参加者スピーチタイム」向けに、「顔写真付き自己紹介」冊子を事前にご準備いただいたのですが、ここでは、その冊子に掲載された「顔写真一覧」を皆さんにお示しさせていただきます。当日の母校愛にあふれる大宴会をイメージいただけますと幸いです。

さて、このように「附設高校同窓会沖縄支部」はその支部活動をスタートしたのですが、小職と3名の副支部長(江頭重宏(21回生)、島袋昭彦(36回生)、城間

有(39回生))の計4名で、来年4月に開催予定の第1回沖縄支部総会・懇親会に向けて準備を進めております。

第1回沖縄支部総会・懇親会は、2025年4月13日(日)に那覇市にて開催予定です。

数多くの同窓生の皆様にご参加いただき、懐かしいお仲間とのひとときをお楽しみいただけるよう、準備万端整えて、那覇市にてお待ち申し上げます。

宜しく願いいたします。



注: 当日、ご参加いただきました、内藤主税さん(20回生)は、2024年7月25日に急逝されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

寄稿者Profile ● 清水 明 (しみずあきら) 23回生(中学1回生) 福岡県柳川市出身・東京大学農学部農業生物学科卒(育種学)・1982年麒麟麦酒(株)入社・1983年中国北京外国語学院語学留学・1997年Oxford Univ. Templeton CollegeにてAMP(Advanced Management Program)終了・1997年~2001年Kirin Agribio EC B.V.(在オランダ)CEO&President・2016年~2020年協和キリン(株)常勤監査役・2020年~現在(株)ギックス常勤監査役

東京支部だより

東京支部長 栗木 康幸 (21回生)

昨年度の支部だよりを見返しますと、会計報告と活動報告(2022年度)が1ページに収まっていましたが、次ページ以降にご覧のように活動内容だけで1ページを占めるような2023年度になりました。支部長を拝命したのがコロナ初年度で、通常開催予定だった支部総会の中止、翌年度からはリモート開催、昨年度からようやくフルオプションでの開催と個人的には毎年新しさを感じながら過ごして来ました。

本来2023年度の振り返り中心の支部だよりになるところですが、この会報が発刊される頃には2024年度も3四半期が過ぎて、すでに当年度の支部総会も終えていることから支部総会報告も2年度分続けて掲載しております。

東京支部としましては今後状況が許す範囲で支部総

会の開催時期を少しずつ早めて行き、数年後には、前年度の報告と新年度の計画を次期相応のタイミングでお伝えできるようにしていきたいと考えています。

東京支部の会計報告では、コロナ期にリモート開催、飲食無の開催等で開催費用が少額だったこと等により剰余となった資金を本部会計に移動したことにより若干の赤字となっています。

活動の方は別表のように支部単独、本部・他支部関連、在京の他校・他団体活動への参加などで非常に活発でした。

このような活動を支えて下さる支部役員が下表の方々です。

今期から増員もお願いして、世代継承とともにさらなる拡大に努めていく所存です。

2024年度 東京支部役員体制 (敬称略)

回生	氏名	支部役職	本部役職	異動
19	小田 恵介	顧問	評議員	役職変更
20	安部 政信	顧問	評議員	役職変更
21	栗木 康幸	支部長	理事	
22	中村 尚昭	副支部長	理事	
28	高木 裕康	副支部長	理事	
29	日高 雄三郎	副支部長	評議員	
30	坂本 格	副支部長	評議員	
36	諸岡 健雄	副支部長	評議員	
37	丸山 剛弘	副支部長	理事	新任
38	高井 良輔	副支部長	評議員	
39	金城 順之介	副支部長	理事	新任
40	岡 泰宏	副支部長	理事	新任
43	深野 章	副支部長	評議員	
47	浅枝 謙太	副支部長	評議員	
47	中嶋 雅宏	副支部長	評議員	
50	山口 雅彦	副支部長	評議員	
51	大津 良太	副支部長	評議員	
57	竹下 知宏	副支部長	評議員	
59	尾家 杏奈	副支部長	評議員	

支部在住本部役員

回生	氏名	本部役職	異動
19	高橋 友作	顧問	
20	山下 喜弘	評議員	
21	砂場 泰浩*	評議員	役職変更
23	吉田 清隆	会長	
27	中村 和徳	副会長	
33	勝連 治*	評議員	役職変更
35	高尾野 健	副会長	新任
36	飯沼 良介	副会長	
51	福島 智史	評議員	
60	岩崎 里子	評議員	

* 支部のサポートを依頼

●東京支部●

久留米大学附設高等学校同窓会 東京支部
2023年度会計報告書（令和5年4月～令和6年3月）

会計担当副支部長 深野 章

(単位:円)

●収入の部		備考
1. 事業収入		
広告協賛金	2,625,000	
総会会費収入	1,855,000	Net: ¥1,467,000、現金: ¥388,000
総会関連収入	178,000	物品販売
寄付金	0	
回生代表世話人会会費	369,000	
新入歓迎会会費	136,000	
就職セミナー	0	
本部からの補助金	545,000	
受取利息	33	
収入計	5,708,033	
●支出の部		
1. 事務費	17,421	メディア総研立替金¥14,176、手数料等¥3,245
2. 事業費		
① 総会支出		
総会会場費	2,276,650	
総会開催経費	1,918,076	コンテンツ作成:¥870,412、ネット運営:¥360,252、等
総会準備会合費	143,127	
来賓交通宿泊費・謝礼等	265,000	
小計	4,602,853	
② その他の支部活動費		
支部会議費	43,000	実費:¥90,000、会費:¥47,000(支部役員会1回)
交通宿泊費	0	
OB会支部総会への祝金等	0	
回生世話人会	756,000	会費:¥369,000、本部補助:¥387,000
新入歓迎会	391,500	会費:¥136,000、本部補助:¥158,000
就職セミナー	0	
その他支部イベント	172,000	実費:¥248,000、会費:¥76,000(附設塾2回)
渉外費	12,000	つつじ会、他校同窓会
雑費	9,020	ゴルフロフイー代補助(2回)
对外寄付等	20,000	久留米市水害(高牟礼会)
小計	1,403,520	
3. 本部への協力金	1,000,000	
支出計	7,023,794	除)2024年度支部総会先払い予約金(¥40,000+¥440)

当期収支差額	▲ 1,315,761
(内広告協賛金含む総会収支)	55,147

前年度繰越金	3,779,441	含)支払済予約金(¥40,000+¥440)除)前年度経費(¥14,000)
翌年度繰越金	2,463,680	

東京支部 2024年度予算案

収入	6,000,000	広告2,700,000、総会2,300,000、他1,000,000
支出	5,800,000	総会4,600,000、他1,200,000
翌年度繰越金	2,700,000	

上記は当会の財産の状況を正しく表しているものと認めます。

監査担当 高木 裕康

●東京支部●

久留米大学附設高等学校同窓会 東京支部
2023年度活動報告(令和5年4月～令和6年3月)

東京支部		
2023年	4月15日(土)	第27回 回生代表世話人会・懇親会
	5月15日(月)	支部役員会
	5月20日(土)	第16回 附設ゴルフコンペ
	6月17日(土)	第9回 附設塾
	7月29日(土)	第28回 回生代表世話人会・懇親会
	9月30日(土)	第10回 附設塾
	9月30日(土)	新人歓迎会(合同若手交流会)
	11月18日(土)	第17回 附設ゴルフコンペ
	11月25日(土)	東京支部総会
	12月16日(土)	第29回 回生代表世話人会・懇親会

本部・他支部・対外参加 関連		
2023年	毎月	拡大正副会長会議
	5月26日(金)	創立75周年記念事業委員会
	5月27日(土)	理事評議員会
	7月16日(日)	福岡支部総会・定期総会
	12月1日(土)	関西支部総会
2024年	1月27日(水)	筑後OB会・久留米OB会
	2月16日(金)	創立75周年記念事業委員会
	高牟礼会	2023/4/11、6/12、8/8、10/10、12/12、2024/2/13
	くるめつつじ会	2023/5/12、7/4、9/5、10/31、11/14、2024/3/5
2023年	6月18日(日)	南筑東京同窓会参加
	7月22日(土)	明善東京同窓会参加
	10月14日(土)	久留米高校東京同窓会参加
	11月11日(土)	久留米商業東京同窓会参加
2024年	1月10日(水)	久留米同郷会水天宮参拝

2024年度経過		
2024年	拡大正副会長会議	4/6、5/25、6/21、7/28、9/14
	4月14日(日)	沖縄支部集会(支部設立準備)
	4月20日(土)	東京福岡県人会主催 同窓会交流会
		第30回 回生代表世話人会・懇親会
	5月25日(土)	理事・評議員会
	6月1日(月)	第18回 附設ゴルフコンペ
	6月10日(月)	幹事団キックオフ
	7月12日(土)	支部役員会
	7月28日(土)	福岡支部総会・定期総会
	8月3日(土)	第31回 回生代表世話人会・懇親会
	9月28日(土)	第10回 附設塾
	9月29日(日)	新人歓迎会・若手交流会
	対外参加	
	同窓会	6/2(明善)、6/23(南筑)、7/7(浮羽工)、9/29(信愛)
	高牟礼会	4/9、4/18(ゴルフ)、8/6
	くるめつつじ会	5/21、7/9

● 東京支部 ●

令和5年度 東京支部総会・懇親会のご報告

～祭のあと、続く旅～

幹事長 齋藤 崇之 (40回生)

2024（令和6）年10月5日（土）、大手町サンケイプラザホール4階のステージ上には、東京支部総会・懇親会幹事団としての大仕事をやり遂げた宮武博史幹事長（41回生）以下の諸君の晴れ晴れとした姿があった。1年前、自分達もあのステージ上で挨拶したことを、懐かしくもどこかし寂しい心持ちで思い出しつつ、大きな拍手を送り続けた――

約1年前の2023（令和5）年11月25日（土）、同じ大手町サンケイプラザホールで、東京支部総会・懇親会を開催した。主に関東地区在住の同窓生、町田健校長（23回生）・恩師の中島健治先生（21回生）・来賓の方々含め、総勢220名の参加を得て、コロナ禍以来四年振りとなる飲食を伴う懇親会も併せて開催し、旧交を盛大に温める機会となった。



四年振りの鏡開き。右から二人目は中島健治先生

コロナ禍で我々を取り巻く環境は大きく変化したが、そんな中だったからこそ『再会一再開、新たなバトンをつなぐ』をテーマに、総会の運営・参加者登録や企画・会計に至るまで、あらゆる世代が参加しやすく、翌年も来たくなる仕掛け・雰囲気作りを目指した。結果として、2024年度も同規模の参加者を得て、共学世代を含む若い回生の同窓生がより多く参加してくれたことは、それは41回生諸君の熱意と奮闘によるものに違いないが、40回生の我々にとっても大きな喜びだった。

2023年度懇親会の企画は3つ。高校60回生3名の先端医療や生成AIに関するプレゼンテーション。丸山剛弘（元）幹事長（37回生）による校歌のルーツを探る研究発表。そして、母校の立地・校舎にまつわる歴

史・地理の謎を解き明かす渾身の動画コンテンツ。ご来場の皆さんに楽しんでいただきつつ、全世代で母校への想いを一つにしなが、次の世代にバトンを繋ぐきっかり作りになったのだとすれば、望外の喜びである。



歴代幹事長（敬称略）。左から高井良輔（38回生）、金城順之介（39回生）、筆者、宮武博史（41回生）

率直な告白と共に思い返せば、自分自身、褒められた学生でもなければ同窓生でもなかった。学生時代は先生方を随分困らせたし、40回生の大学進学を巡って41・42回生の諸君を中心に後輩たちには多大な迷惑をかけてしまった。卒業してからも今回幹事長を引き受けるまで同窓会活動への参加は皆無だったが、総会準備の過程で吉田清隆会長（23回生）・栗木康幸東京支部長（21回生）を始めとする同窓会執行部・学校関係者・前後の回生を中心とした同窓生の皆さんの母校への想い・熱意に圧倒され続けた。

筆を擱くにあたり、二年分の想いと共に一抹の寂寥感を禁じ得ない。それは、高校三年生の時の「男く祭」が終わろうとしているあの瞬間にも似る。祭のあと、続く旅。それぞれが家庭や仕事を持ち、他者に言えない苦難もあろう中で、斯様に集い附設生であることを思い出させてくれる場。それが同窓会であり支部総会なのだと、高校卒業して三十年余を経て気付いた。それが早いのか遅いのか、今の自分にはまだ分からない。修羅道の世が俄に良くなるとは思えない時代・世界情勢ではあるが、一つだけいま言えるのは、附設の同級生・同窓生と親しく語らう場を通じて、それぞれの「修羅道」に立ち向かう勇気と力を手に入れられる、ということだ。

以上

寄稿者Profile ● 齋藤崇之（さいとうたかゆき） 中学18回生、高校40回生・北九州市小倉北区出身・東京大学文学部卒・伊藤忠商事株式会社勤務

令和6年度 東京支部総会・懇親会のご報告

～知らない附設に会いに行く～

幹事長 宮武博史 (41回生)

令和6年10月5日(土)、大手町サンケイプラザホールにて東京支部総会および懇親会を開催いたしました。

主に関東地区在住の卒業生、町田校長・白水教頭・恩師の佐々木・江上・國吉・坂田の諸先生、また高牟礼会幹部の皆様等の来賓含め、総勢200名の参加を得て、盛大に旧交を温めました。

まもなく75周年という歳月を重ねることになる附設。同窓会参加者の年齢層も年々幅広くなり、お互いが知っている附設像には相当なギャップがでてきました。

それでも、「もと附設生」ということではみな同じ。そこで「知らない附設に会いに行く」をテーマに、若い世代は知らないかつての附設の意外な秘話、ベテラン世代は知らないこんにちの附設の進化をそれぞれが発見しあうという懇親会にいたしました。



幹事学年で恩師を囲んで(前列左から5番目が筆者)



吉田会長ご挨拶

栗木支部長ご挨拶

町田校長ご挨拶

企画の大きな軸は「附設クイズ」。40歳・30歳・20歳という比較的若い同窓生をパネラーに、「意外と知らない附設」のトリビアをテーマにクイズを出題。来賓恩師からの出題や若手お笑い芸人として活躍されている同窓生・友田オレさん(68回生)の登壇もあり、賑やかなステージとなりました。



懇親会での附設クイズの様子

また昨年に引き続き好評のVTR企画は、ナレーターに生命学者・上田泰己(42回生)さんを起用。各種メディアでも紹介されることが増えた附設の「芸術選択授業」通称ゲーセンの成立秘話、そして1992年に奇跡的に実現したノーベル賞学者・利根川進博士講演をめぐる人間模様を、丹念な取材を通してドキュメンタリーにまとめました。



ドキュメンタリー(附設の世紀)上映の様子

それぞれご来場の皆様楽しんでいただきつつ、全世代で母校への思いを一つにしながら、次世代にバトンをつなぐことができましたと思います。

来年は10月4日に同じく大手町サンケイプラザホールで開催いたします。42回生の清田陽司幹事長を中心とした幹事団がすでに結成され、鋭意準備を進めております。進化し続ける東京支部総会・懇親会の今後を楽しみに見守りたいと思います。

久留米大学附設高等学校同窓会 支部所在地

○長崎支部
 支部長 **川口 哲** (28回生)
 ✉ shimacoro@poem.ocn.ne.jp

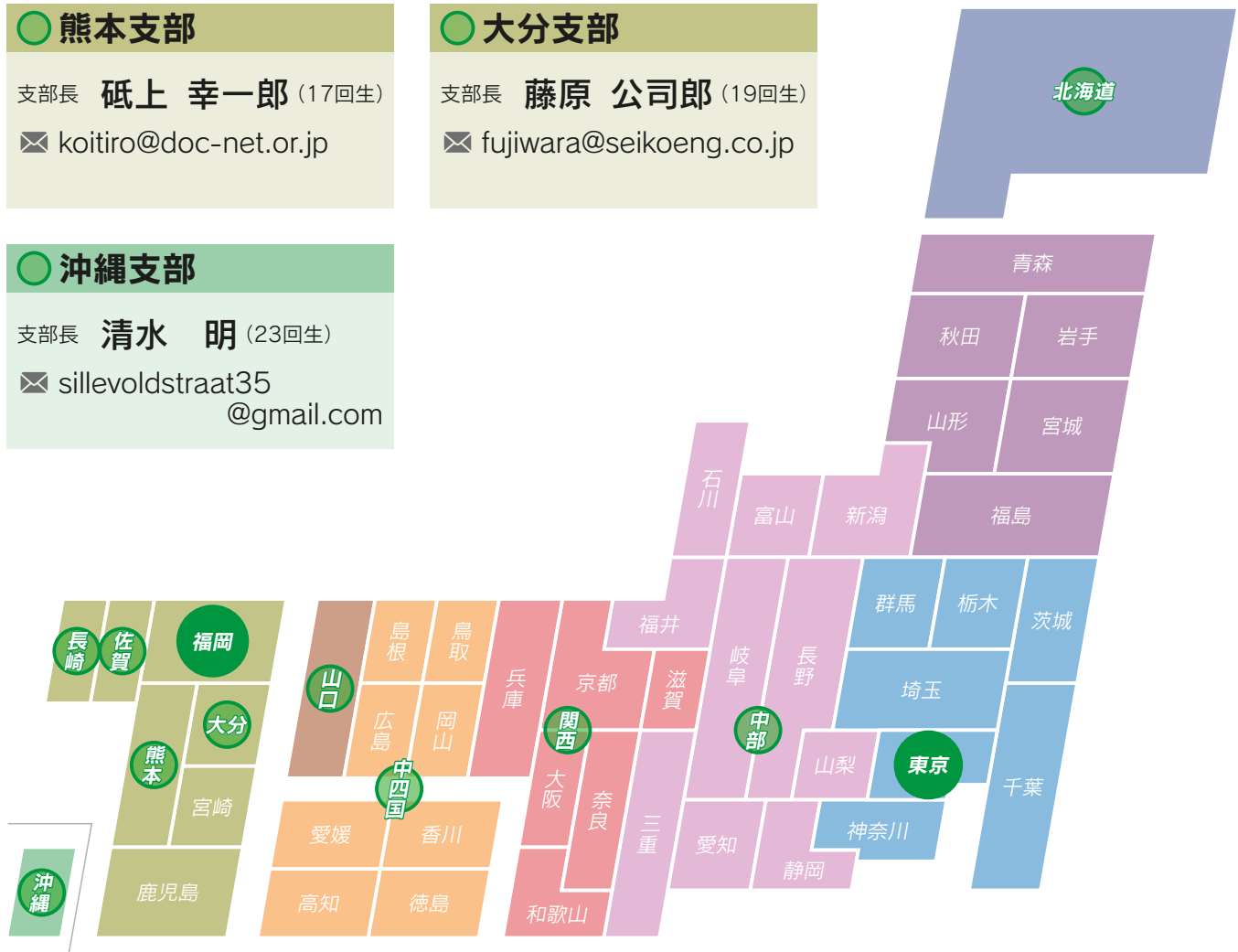
○佐賀支部
 支部長 **志田 正典** (22回生)
 ✉ info@shida-hp.com

●福岡支部
 支部長 **実藤 光二郎** (26回生)
 ✉ sane0408@gmail.com

○熊本支部
 支部長 **砥上 幸一郎** (17回生)
 ✉ koitiro@doc-net.or.jp

○大分支部
 支部長 **藤原 公司郎** (19回生)
 ✉ fujiwara@seikoeng.co.jp

○沖縄支部
 支部長 **清水 明** (23回生)
 ✉ sillevoldstraat35@gmail.com



○中四国支部
 支部長 **近藤 治幸** (16回生)
 ✉ nonaki-kuyura-h0416@outlook.jp

○中部支部
 支部長 **守瀬 善一** (29回生)
 ✉ zmorise@fujita-hu.ac.jp

○北海道支部
 支部長 **西見 寿博** (20回生)
 ✉ nishimikodomo@forest.ocn.ne.jp

○山口支部
 支部長 **原 好弘** (10回生)
 ✉ hara531@oregano.ocn.ne.jp

○関西支部
 支部長 **甲斐田 郁夫** (21回生)
 ✉ taretare_ikutan@yahoo.co.jp

●東京支部
 支部長 **栗木 康幸** (21回生)
 ✉ James-yk@outlook.jp



まつむら さとる
松村 悟 (35回生)

経歴

福岡県大牟田市出身
1987年 久留米大学附設高校卒業（翌年：補修科）
1992年 東京大学工学部化学工学科卒業
1994年 東京大学大学院工学系研究科化学工学専攻卒業、日本石油(株)（現ENEOS(株)）入社
1998年 シンガポール現地法人（Nippon Oil Asia Pte. Ltd.）へ出向（～2002年）
2006年 USA現地法人（Nippon Oil USA Ltd.）ロサンゼルス支店へ出向（～2012年）
2024年 シンガポール現地法人（ENEOS Oil & Energy Asia Pte. Ltd.）へ出向

連絡先

s.matsumura0@gmail.com



25年前の路線図



現在の路線図

四半世紀ぶりのシンガポールより

日本石油（当時。現ENEOS）に入社してから30年間潤滑油という商品の営業・マーケティングに従事しています。主な顧客が海外に生産工場・販売拠点を持つ日系四輪・二輪メーカーであることもあり、過去シンガポール（1998-2002）、USA（2006-2012）の駐在の機会を得て、燃費向上（ひいてはCO₂排出削減）に寄与する潤滑油製品の製造・販売に取り組んできました。妻の両親に結婚前の挨拶に行ったのが彼らが駐在していたシンガポール（1995）、そして2024年4月から2度目のシンガポール駐在と、シンガポールには浅からぬ縁を感じております。四半世紀を経て感じたこの国の変化点を中心に現地事情をお伝えします。

国土面積と人口

当時東京23区とほぼ同じ面積（約630km²）でしたが、現在は約730km²と約100km²も増えました。これは埋め立てによるもので、特にマリーナベイエリアの拡大には目を見張るものがあります（シンガポールの顔ともなったマリーナベイサンズも埋立地に建設）。

人口も当時の400万人から約600万人へ増加（うち外国人（含む駐在員）は当時約70万人から160万人へ）し、労働力確保、内需拡大に貢献しています。

公共交通機関

東京の地下鉄もここ20年で新線拡張しましたが、ここシンガポールでの地下鉄網整備には驚きました。

当時は東西線と南北線しかありませんでしたが、左図の通り津々浦々に張り巡らされています。ただ乗りこなすにはスマホが欠かせません。

当時からバスは市民の足として利用されていましたが、当時はどこで乗ってどこで降りたらいいかが分からないのと、ベビーカーでの移動だったためもっぱらタクシーを利用していました。今はスマホの地図アプリで系統番号・乗車地・降車地を教えてくれるので通勤も含めバスを利用しまくっています。

さらにタクシーに加え配車サービス（Grab）が普及しておりスマホで簡単に利用できるようになりました（当時タクシーに遠回りされて不当な請求を受けたことがあります、配車サービスではそんなトラブルもなく安心です）。

日本企業（小売り・飲食）進出

当時、高島屋、伊勢丹、大丸（2003年に撤退）に大変お世話になりました。今回、赴任して生活立ち上げにあたって買い物をしてみると、DAISO、ドンキ、MUJI、HANDS、UNIQLO、NITORI、ベスト電器（これは当時もお世話になりました）などと日本の小売店が進出してとにかく便利。

また日本の外食チェーン店も増えて、日本食が恋しくなったら利用できるのありがたいです。すき家、かつ庵、てんや、サイゼリア、ココ壱番屋、スシロー、一風堂などなど。ちなみにラーメンは平均15S\$（税込みで約1,800円）の相場観（20年前の約2倍）です。

ペット

当時と大きく変わった点のひとつが犬を飼っている人が激増したことです。所得増加によりペットを飼う余裕が生まれたこと、飼育を認める公団住宅やコンドミニアムが増えたこと、核家族化が進み癒しを求めている人が増えていることが背景にあるようです。ただ犬と散歩しているのがほとんどメイドであるというのがシンガポールらしいです。

九州で過ごした高校・補修科時代にはまさか自分がこれほど長い期間海外で生活するとは想像もしていませんでした。USA（ロサンゼルス）駐在時には現法社長から「シンガポールとロスに駐在したくらいで駐在を語るべからず」と言われましたが、改めて社内の他国駐在員と話をするにつけ、シンガポールは日本人にとってとても住みやすい国であり、現法社長の言葉はその通りだったと再認識する今日この頃です。海外でご活躍されている附設同窓生の方も大勢いらっしゃるなかで恵まれた環境下での駐在生活ができることに感謝しつつ、これまでの経験を後輩や現地スタッフに継承していくとともに、省エネ・省燃費潤滑油の販売を通じてCO₂削減にも取り組んでいきます。



「昭和基地」の看板がある19(イチキュー)広場前。遠くに南極大陸も見えます。

てら さき やす のぶ
寺崎 康展 (40回生)

1973年三潁郡(現久留米市)生まれ
1992年3月 久留米大学附設高等学校卒業
2001年3月 久留米大学医学部医学科卒業
2001年4月 北海道大学第一外科入局以降、北海道大学病院をはじめ市立札幌病院、札幌厚生病院、釧路労災病院など道内の病院勤務
2005年4月 北海道大学大学院医学研究科入学
2009年9月 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了
その後も町立中標津病院、岩見沢市立病院、市立稚内病院などの病院を経て
2023年7月 第65次南極地域観測隊員として国立極地研究所南極観測センター勤務
2023年11月 しらせに乗って南極昭和基地



昭和基地にアデリーペンギンが来る事もあります。

昭和基地での越冬生活

周りを見渡せば、一面に凍った海とその向こうに広がる広大な南極大陸。そして毎日それらを眺めながらの外作業。時折くるブリザードや、晴れた夜にはオーロラ。時にはアデリーペンギンやウェッデルアザラシを見かける事も。そして夏には白夜、冬になると極夜。

そんな環境の中、第65次南極地域観測隊越冬隊の医療隊員である僕はここ昭和基地で越冬生活を送っています。期間は2023年12月から2025年2月までの約14カ月間。最初は長く感じたものですが、越冬も後半に入ると段々忙しくなり、一日一日があっという間に過ぎていっています。

今次越冬隊は26歳から60歳までの27名で構成され、気象庁職員など観測を行う観測系隊員と、電気や水道のメンテナンス、車両整備、建物修繕、ゴミ処理、通信など基地の維持運営を行う設営系隊員とに別れています。みんなそれぞれの持ち場で仕事をしているので、毎朝のミーティングでは天候や各作業内容の確認などを行います。そんな中で僕ら医療隊員はというと、滅多に病人や怪我人もいないので(いたらいで看護師も技師もいないので大変ですが)、日々機械や建築など他の隊員達のお手伝いをして過ごしています。除雪や基地設備の維持管理、修繕、通信などなど。おかげで建築道具の使い方や重機の乗り方などのスキルが上達する一方、医師としてのスキルはどんどん落ちてきているのも実感している今日この頃です。

昭和基地は南極大陸から約4km離れた東オングル島という所にあります。この平均気温は年間-10.5度、南半球なので6~8月頃が冬となり、一番寒い8~9月は平均-20度程度、-35度くらいまで下がる事もあります。最近では寒さにも慣れてきて、-10度くらいではあまり寒と感じなくなってきました。しかし体は正直で、顔など肌の露出部や指先などは油断しているとすぐに凍傷になってしまうので、そこは医療隊員として注意を払っている所ではあります。

このように外は極寒の世界ですが、一旦室内に入るとそこは日本と変わりません。建物内は暖かく保たれており、Tシャツで過ごす事もできます。そして聞こえてくるのは日本語ばかり。食事も毎日プロの調理隊員が美味しく作ってくれます。お風呂も毎日入れます。インターネットも使えるのでLINEで家族とビデオ通話もできてしまいます。そして仕事終わりや休日には食堂でくつろいだりBarでお酒を飲んで騒いだり。カラオケやダーツ、卓球などもあります。外にでて散歩や魚釣りもできます。なんだかんだで快適に過ごさせています。そしてそれらに全くお金を使う事はありません。ここでの生活に慣れてきた今、日本に帰った時にうまく馴染めるかが心配です。



昭和基地はオーロラ帯に位置するため、オーロラを頻繁に見ることができます。



桑野 秀章 (54回生)

経歴

福岡県福岡市出身
2007年 東京大学文科II類入学
2011年 東京大学文学部国文学科卒業
2011年 住友商事株式会社入社
英国(ロンドン)駐在を経て
現在ノルウェー駐在

連絡先

hideaki.kuwano@sumitomocorp.
com



オフィスで日本の同僚達と
(筆者右手前)



ノルウェーのフィヨルドで友人と
(筆者右)

欧州から世界を、日本を、 そして人生を考える

中学以来不真面目を極め続け、成績も下位中の下位に甘んじていた高校3年生の夏。福岡を飛び出し何か自分の夢を叶えたくばそうすれば良いが、この底辺から東京大学に受かる程の覚悟なくば許さない、ダメだったら後を継ぎ医師となる道を生きよと父から言い渡されました。

それから20年。あの日生まれて初めて自分の夢と向き合い、いつの日か日本を、そして世界を渡り、自分が生きた証となるこの世界への貢献を残したいと思った気持ちのまま、東京、ロンドン、ノルウェーと流れてきました。

欧州は大変興味深い一つの世界であると、今でも毎日の様に思います。数多の人種、宗教、共同体、その背景にある地理や歴史、全てが融和や軋轢を繰り返しながら一つの巨大な欧州という社会を形成しています。そしてそれは日夜ダイナミックに変化し続け、そこに住む人々もまた、そうした社会の連関を常に意識しながら生きなければなりません。例えば私は今ノルウェーのエネルギー産業に従事していますが、ロシア・ウクライナや中東を取り巻く状況や、伴うエネルギー産業全体の影響、人々の生活の変化、諸国の対応など、変化を捉えて考える習慣無くば、真に日々の仕事の正しさなど考えるべくもなからうと思います。

このような外の世界から祖国を考える時、何と素晴らしい国であろうかと思うものです。有史以来主たる民族、文化や国土が入れ替わる事なく継承され、島国ゆえ現在欧州各国で最大の論点となりつつある移民の問題も深刻でない等、多くの国が経験する脅威もありません。しかし同時に、日本という一つの国家も、国際社会という巨大な共同体との連関において生き、活かされているという、欧州に生きる人々が当然に持つ様な感覚を育てきれない十分な環境とも言えるのではないかと思います。

日本のエネルギー、食糧自給率は極めて厳しい水準にあり、外国から売って貰わなければ食卓のライトもつかなければ皿も並ばない。外国から買う為のお金はかつて栄華を極めた自動車を始めとする製造業、重厚長大産業によって獲得してきましたが、世界諸地域での技術力は目覚ましく進歩している中、現在の日本には当時程の競争力のある製品はありません。ではモノやサービスを売る人材はどうか。まず日本人の英語能力指数は世界の中でも極めて低い順位にあり、能力以前に通じる言葉すら話す事が出来ないのが実態です。

こういった自国が抱える問題とその影響について、欧州では若者が考え、自分の人生を選ぶ指針としています。ロンドンのパブで大学卒業したての4人組と知り合ってアレコレ話している内に「Brexitの日何をしていた？」という話題になり、人種や出自も異なる4人がそれぞれに自分や家族はどう思っていた、影響をどう思う、それを踏まえ自分は今後どうキャリアや生活はと口々に話した事が日本から出てきたばかりの私にはとても遅く見えました。しかし彼らにとってはそれは日常的に考える事の一つでしかないのです。

とはいえ、近年では各国に散らばる知人友人後輩などを見ていて、ひと昔前には考えにくかったようなキャリア形成、チャレンジを続ける日本人の若者も増えてきたと感じています。私の好きな言葉の一つが“Noblesse oblige (=高貴たるものの義務)”ですが、附設に入り卒業するような優秀な皆様には常に人より高く広い視座で物事を捉え、学び、その力を世界や母国への貢献に繋げていく責務があると思っています。拙稿が在校生、卒業生の誰の目にどう留まるのか、私には知るべくもありませんが、誰か一人の、何か少しのきっかけにでもなれば幸いです。

なお、私自身は今でもこういった事を考える基礎として附設時代に西原先生を始めとして教わってきた事が生き続けている事を実感しています。どうしようもない学生だった私に入試に受ける為だけではない知恵を授けて下さった附設と、教職員各位、同窓生各位に改めてこの場を借りて御礼を申し上げます。有難うございました。

最後に、私が現在住むノルウェーについて。フィヨルドに代表される美しい自然に囲まれ、16時には皆仕事は終わらせて家族や趣味の時間をゆっくり過ごし、差別は無く、隣人愛に満ちた豊かでそれは美しい国です。有り余る緩やかな時の中で、物事をじっくり考えられるのは人生の贅沢ですね。お越しの際には是非ご一報頂ければ歓待申し上げます。



すなば やす ひろ
砂場泰浩 (21回生)

大学院を卒業後、専門学校専任講師を経て、外資系企業にてFP&Aの業務を行った後、ソフトウェア会社を設立するとともに、行政書士業務を行い現在にいたる。

2018年-2021年 同窓会副会長



よし いえ きよ たか
吉家清貴 (21回生)

九大医学部卒業。鹿児島大学微生物学教室の助教授を退官後、鹿児島のリハビリテーション病院と看護専門学校(大学含む)の非常勤医師・講師として勤務中。

私達、古希を迎えて 「今と附設高校に残してきたもの」

附設高等学校を卒業して早いもので半世紀が経ちました。私たちが生まれたのは、戦後10年目のこと。生まれた年の半世紀前は、日露戦争。遠い歴史なのでしょう。

自らを島(抛り所)とし、附設を島としてきました。そのことをオムニバス形式で一文とします。

「古希記念同窓会」 吉家清貴 Aクラス

コロナ禍もひと段落した2023年10月21日に、古希記念同窓会を開催しました。西鉄グランドホテル・プレジールB会場に、69名が元気に集まりました。「古希記念同窓会」と冠しましたが、数えの69歳よりも1年前倒しです。卒後50周年の節目に当たることと元気なうちに会おうという趣旨でした。実際、附設21の会のわれらが会長、池田くんが同窓会後に入院する予定となっており、彼の発声で同窓会を開始することができ幸甚でした。恩師は、半田先生がご逝去、大津留先生は体調すぐれませんでした。佐々木先生と野村先生は、元気に参加していただき昔話に華を咲かせてくださいました。全員の集合写真撮影、池田くんの開会宣言、長谷川くんの乾杯後、各テーブルで歓談。憩いの森ベンチ作成の話やら大山スキーの秘話やらで盛り上がりました。東京や福岡では定期的に同窓会を開催していくことが確認されて、校歌斉唱でお開きとなりました。みな、元気ではつらつとしてよかった。なお、参加できなかった関西方面の同窓生とは、京都で番外記念同窓会も開催しました。

古希記念同窓会の記念品として、母校の思考回廊陶板のデザインで記念マグカップを作成し、卒業時のクラス写真とともに配布しました。まだ、残数ありますので参加できなかった方はご連絡ください。



「文化祭」 行武俊行 Dクラス

【第2回文化祭の開催】

- 我々久留米大学附設高21回生が生徒会役員を担当したのは1972年度の事ですが、その際私は文化委員長として、第2回文化祭の企画・実行を担当しました。
- 既に20回生文化委員長の久保東洋先輩が、第1回文化祭を秋の体育祭と並ぶ春の学校全体行事と位置付けて実施されていましたので、第2回目は更に体育祭と同様に「全員参加」で内容を実の有るものとする事に方針を定めました。



【全員参加型の文化祭】

- 全員参加の文化祭では、次の3つを第2回文化祭で初めて企画しました。
 - ①クラス対抗コーラス大会
 - ②弁論大会
 - ③全校生徒が車座になっての大討論会
- 5月6・7日の開催という時期も良かったのでしょうか、コーラス大会は大変好評で、その後も代々引き継がれて更に発展し、久留米文化センターのホールを借り切ったの大盛会となっていることを伺い、企画者として大変嬉しく思っています。
- 特に新入生にとっては入学直後からクラス全員での練習となるのですから、クラスのマード作りにも一役買っているのではないかと推察しています。

【現在の久留米大学附設中学・高校】

- 現在の久留米大学附設中学・高校はコーラスだけではなく、演劇、器楽、美術工芸、書道等多岐にわたる文化・芸術活動で対外的にも活発に活動しているという事です。
- 単なる進学校ではなく、明確な答えが出ない芸術にも集中的に挑戦する経験は、社会人となってからも大きな心の糧となるでしょう。

【これからの久留米大学附設中学・高校】

- 久留米大学附設中学・高校は男子高から中・高一貫校へ、更に男女共学へと環境に即応して変化を遂げてきましたが、日本の教育は大学全入時代を迎えて大きな変革期にあります。
- 環境の変化に柔軟に対応できる組織だけが生き残ることが出来ると言われる現在、久留米大学附設中学・高校が更なる新たな価値観を持った組織となる事を大いに期待しています。

【いこいの森のベンチ】 Dクラス 青沼隆之

卒業アルバムをめくると「いこいの森にベンチを作ったのだ」と題する頁にモノクロの写真が並んでいる。そこにはD組の懐かしい面々が、体操着姿でコンクリをこね、ブロックを積んでいる。写真を見返しても、半世紀も経つとほとんど覚えていない。野村先生に久方ぶりの電話を掛けて話すうちに、記憶が少し蘇ってきたような気がした。しかし、何せ齢を重ねた者同士の会話が全く信用性がない。ホントかなあと思いつつも、どうやら次のような経緯らしい。21回生は卒業記念に桜を植樹することになった



ゆく たけ とし ゆき
行武 俊行 (21回生)

1954年7月 福岡県朝倉郡生まれ
1974年3月 久留米大学附設高等学校卒業
1978年3月 九州大学工学部建築学科卒業
1978年4月 戸田建設(株)入社
2015年9月 戸田建設(株)退職
2021年2月 合同会社 空間経営研究所 設立

一級建築士、技術士



青沼 隆之 (21回生)

1982年検事任官、東京地検検事正、次長検事などを経て名古屋高検検事長を最後に退官。2018年2月シティユーワ法律事務所弁護士



が、D組でも何か残そうとなったようで、当時、憩いの森と言っても殺風景だったことからベンチでも作ろうとなったらしい。そういえば、野村先生から言われて、皆で話し合いながら、円形のテーブルの外周に沿ってベンチを配置した、簡単なスケッチを描いた記憶がある。こんなもんでベンチができるのかと思っていたが、あれよあれよという間に柳君の実家からブロックやコンクリが運ばれ、日曜日に全員集合がかけられて、写真のような作業となった。指導役の職人さんに教えられながら、慣れない墨引きをしたり、こねたコンクリをブロックに流し込んで積み上げていった。皆がほぼ初めての体験であったが楽しい作業だった。さすがに、最後の仕上げは素人には無理で後日左官さんにやってもらった。円形テーブルの真ん中には久留米ツツジを植栽して完成し記念撮影となったが、アルバムを見ても肝心のベンチが全く映っていないのはご愛嬌か。その後は、卒業までの間、まさに、このベンチで憩いの時を持つことができた。21回生にとっては思い出のベンチである。そのベンチが、今回撤去されることになりそうとのこと。憩いの森とともに消え去るのは何とも残念だが、齢を重ねた我々と同様、潔く退場するのも悪くないかな。

【現在のベンチ】 中島健治 Aクラス

中島健治君にお願いをして現在のベンチ風景を撮影してもらいました。



中島 健治
附設高校数学科教員



高1の生徒たちの協力を得て、生徒たちがベンチでくつろぐ写真を撮りました「生徒たちの憩いの場、円形ベンチは附設のパワースポット」

創世記の中にソドムとゴモラのように神の怒りに触れて壊されると考えるのではなく、(近年の研究であるように隕石の落下により都市が消滅したと考えて、)一休禪師ではありませんが、形あるものは必ず滅するとして、その時節が到来したということなのでしょう。それと共に、その対偶として形なきもの(文化祭)は滅することなしを思うことで、バランスするのですね。





還暦同窓会で盛り上がる
「元バンドマン」

ほうり みき お
祝部 幹雄 (30回生)

北九州市出身
東京農工大学農学部環境保護学科卒

エフコープ生活協同組合地区担当、
毎日新聞社記者・編集委員、
医療法人医和基会職員 等

連絡先

090-2588-8676
北九州市戸畑区在住

平和の偉業 そして大使命

令和5年9月17日。愛車のスズキソリオバンディットの荷台にキーボードとエレキギター、ギターアンプ、フォークギターを放り込み、筑紫野市の大丸別荘を目指した。30回生約50人が集まる「還暦同窓会」に参加するためだ。

北九州市内で同級生3人を拾い、取り留めもない話をしながら、旅館に着いた。別の同級生もベースとサックスを持ち込んできた。

僕らが「フセツ」に通っていた昭和54年～57年、世はバンドブームの真っただ中だった。文化祭前にはいくつもバンドが生まれ、武道場のメインステージの座を争った。

だから、参加者には「元バンドマン」も多い。

二次会が始まると、彼らは周囲に促されて前に現れ、懐かしいヒット曲を演奏し、マイクを握った。周囲の同級生も手をたたいて、声を合わせた。フィナーレはチューリップ「心の旅」。会場は最高潮となった。

◇ ◇ ◇

とはいえ、同窓会で歌といえば、やはり校歌である。

中学、高校時代には歌詞の意味を深く考えなかった。そんな「フセツ」校歌の三番の歌詞が、最近気になってしょうがない。

修羅道の世を 救うべく
平和の 偉業 任として
築く 不朽の 真善美
見ずや 我等の 大使命

「フセツ」は、戦後の学制改革に伴って旧制・九州医学専門学校が新制・久留米大学に生まれ変わる中で昭和25年に産声を上げた。この年6月に勃発する朝鮮戦争を契機に（朝鮮半島での悲劇をよそにして）日本は戦争特需で一気に戦後復興を遂げた。ただ、「フセツ」が産声を上げたのは、その直前。第二次世界大戦の陰が色濃く残る時期である。

初代校長の板垣政参先生は、戦前に関東軍高級参謀などを歴任し、戦後の極東軍事裁判でA級戦犯として死刑判決を受けた板垣征四郎・元陸相の兄でもある。板垣先生、そして周囲の先生方は「フセツ」創立の時、かの戦争、そして戦後日本社会をどうとらえていたのか。

「修羅道の世」とは、何を指していたのか。なぜ「平和の偉業」を大使命と掲げたのだろうか。そんなことも思う。

還暦同窓会の翌朝も、ふとそのことを思い起こしていた。

僕自身は、大学卒業後に新聞記者として「少しだけいいから、世の中を変えたい」とも思い、仕事をしてきた。ただ、還暦に至って自問自答する。

僕は果たして、「平和の偉業」という大使命を少しは果たしてきたのだろうか。「修羅道の世」を救ってきたのだろうか、と。

◇ ◇ ◇

還暦同窓会の翌日。僕は同級生3人と久しぶりに高良大社を訪ねた。高台から広大な筑紫平野を望み、はるか遠くに続く千歳川の流れをたどった。その先、西方には「平和」という高さ彼岸の光明は見えるのだろうか。

世界は今も戦いに明け暮れている。



すすむ
小川 進 (20回生)

朝倉郡杷木町松末うまれ・久留米育ち
日本大学文理学部応用物理学科卒
宮城県県立高校教諭 (理科・数学)
2016年定年退職

「地域教材・地域学習」を提唱

- 2010年 国立博物館野依科学奨励賞
- 2011年 第5回教育実践宮城教育大学賞
- 2013年 国立博物館野依科学奨励賞

「段ボールによる集団造形」を提唱

- 最盛期には北海道～沖縄の中学校で展開
- ダンボール教育造形普及会代表



活動478日の記録



メンバーの回想録



新聞記事



3.11 東日本大震災 被災高校生支援金(修羅救世基金) 「仙台の高校生で考える防潮堤の会」への 支援お礼とその後のご報告

<はじめに>

2015年2月に当時の副会長であった一瀬先輩より連絡があり、「支援金は陸前高田高の生徒2名の短大学費として支給し、この春に2名は卒業する予定だが、基金に残金が出た。しかし募金の際に「被災高校生支援のため」として募ったので、他の用途には使えない。」「小川さんが被災高校生とやっている活動に役立ててもらえないだろうか」との話であった。この活動は2013年から始めていたが、学校を超えた高校生の自発的な活動なので予算があるわけでもなく、全部自分の持ち出しになっていたの喜んでお受けし、2015年2月末に**94.4万円**を振り込んでいただきました。

今年(2024年)に入り吉田会長さんから同窓会報に紙面を頂く機会をいただきました。2015年に終了した活動ですが、遅まきながらご支援いただきました同窓生の皆様にご場を借りてお礼申し上げます。おかげで大変充実した活動となりました。

またこの時に一瀬先輩より「良かったら東北支部を立ち上げて欲しい」ともお願いされた。しかし東北には附設OBは少なく支部としての活動は無理と判断し、その年の暮れに東北OB会として立ち上げております。(2016年会報23号P12で報告)

<宮城県での児童生徒の被災>

県立高校では2011年3月11日(金)は高校入試後の集計作業日であり、生徒は休業日だった。また県内の中学校は入試結果発表の前に卒業式を実施するためこの金曜日は卒業式かその予行であり、午前中で放課になっていた。そのため中高ともに授業中の死者は出なかった。亡くなった生徒は在宅中かアルバイト先で津波に遭遇していた。

ところが幼稚園・小学校は平常日であったために石巻大川小学校や幼稚園では多数の死亡者が出る悲惨な事態となった。

<高校生の会の活動と防潮堤建設>

高校生の会は仙台市蒲生と七ヶ浜町で中学生の時に津波を経験した生徒たちであったので、被災経験の継承と、自分の浜に防潮堤が建設されることへの問題意識もった生徒たちでした。そこで生徒たちに、「社会の動きを自で確かめ、自ら考える」活動を勧めかれらが3年間継続した活動でした。

以下は支援金についてのご報告となります。高校生の活動にご興味があられる方はQRコードから回想録や記録写真、TV番組などがご覧になれます。

支 出	
旅費	24万円
国連防災会議	28万円
印刷費	28万円
参考図書購入	2万円
事務費	12万円
交通費	3万円
合計	97万円

—— <旅費>24万円 (仙台～東京12名) ——

<葛西臨海公園>2014/11/19(日)

国連防災世界会議への参加相談に向いたところ、「高校生の会の提案は防災面が考慮されていないのでこのままでは参加できません」とアドバイスされた。しかし防災公園など東北には無く困っていたところ、環境系教授から葛西臨海公園が防災公園であることを教えてもらい、公園内の水族園元園長さんも紹介して頂いた。葛西臨海公園はディズニーランドの隣駅で生徒たちのほうが慣れていて、園内では園長さんの案内で歩道の下に防潮堤が埋めてあることや、公園内のホテルは災害時の指揮所になる事など防災公園としての機能を学び、自分たちの公園案に大いに役立った。

<日本自然保護大賞授賞式>2015/3/8(日)

高校生の会の活動が日本自然保護協会から表彰を受けることになった。大賞は8団体ありその一つに選ばれた。直前の2月末に附設高同窓会支援金が入ったため、全員を授賞式に連れて行く事が出来た。全員でプレゼンを行ったことは、このあとの国連防災世界会議への大きな自信になりありがたかった。



＜国連防災世界会議＞28万円（参加費15万円、施設使用料など13万円）



震災後に計画された防潮堤に反対する住民はいなかった。しかし各地で親しんできた浜を少しでも残そうとする提案は相次いだ。しかし行政側の縦割り弊害でほとんどが実現することは無く、県内に閉塞感蔓延したころ「国連防災世界会議」を仙台市で開催されることとなり、参加希望団体が殺到した。仙台市は当初参加団体を選抜する予定であったが、選抜出来なくなり全ての団体が参加出来るようになった。おかげで「高校生の会」の参加も実現した。

このフォーラムは高校生が主催する唯一のパブリックフォーラムであったためにマスコミの注目を浴び、民放3局が高校生の会に張り付き当日はパブリックフォーラムの予告まで流してくれた。(3年間NHKからの接触が一度も無かったのは今でも不可解)

とここまで聞くと美談に見えるが、仙台市は「国連防災世界会議」の冠がほしかっただけで、運営は企画会社に丸投げしていた。そのため参加費がなんと15万円、そして会場の仙台シルバーセンターの研修室の使用料などは通常数千円のところ、とんでもない料金設定になった。通常は使用料にはパイプ椅子、机、マイク、看板プレートなどは含まれているのだが、期間中はパイプ椅子1脚360円、マイク1本3000円、アンプ使用料別ととんでもない金額であった。これは顧問が個人的に負担できる限度を超えていた。**これが実現したのは附設高同窓会支援金のおかげで、これをお伝えたく今回紙面を頂いた幸いです。** 詳細は下記の動画をご覧ください。

＜事務費＞42万円

印刷費（チラシ冊子など9種、のべ52800部）28万円 文具・印刷用紙・インク費12万円 図書購入費2万円

「高校生の会」活動として留意したのは以下の点でした。

- (1) 必ず自分で見聞きし、自分で判断する。(うわさで判断しない)
- (2) 自分たちの提案は広く広報し地域の意見を聞く。(提案には責任を持つ)

提案は毎回印刷物にし、仮設住宅や行政を回って配布させた。提案を個別配布したり、集会所でプレゼンする事は、自分たちの活動を再認識し提案に責任も持たせることの支えになった。

＜絵地図＞

ここで毎回困ったのはメンバーに絵が描ける生徒がいなかったこと。このような地域活動に関心を持つ高校生は生徒会役員をしているような生徒が多く、アニメ好きは居なかった。

たまたま自分が世話していたもう一つのグループに「ガンダムチーム」があり、こちらはアニメオタクが揃っていた。その中で漫画が描ける女子2名に絵地図をお願いすることにした。「必要な画材は何でも買っていい」と話し仙台の画材屋に連れて行ったところ、二人とも憑依したごとく画材を買い漁った。聞くと「微妙な色の画材はなかなか買えない」と満足げ。総額2万円!! **目玉が飛び出したが支援金に助けられた。**

＜専門書＞

活動が深化してくると、「防災公園ハンドブック」のような専門書必要になってきた。この本は葛西臨海公園事務所で紹介されたがこれが高い! **ポケットマネーで気軽に買える価格ではなかったが、支援金のおかげで購入。**



＜交通費＞3万円（蔵王山口養魚場・宮戸島・浦戸諸島フェリー代）

＜山口養魚場＞

蒲生で養鯉場を営んでいた山口さんは津波後も蒲生での再開を希望した。そのため当初の防潮堤計画では山口養魚場を残す位置であった。ところが環境団体から干潟が狭くなると反対され県は干潟を内陸へ移動した。この位置は養魚場を通る位置であり事業が再開出来ない位置であったが、マスコミも環境団体もこのことを無視した。そこで高校生たちは蔵王町の山口宅を訪問し考えを伺い自分たちの提案にいった。



＜宮戸島・浦戸諸島の防潮堤＞

宮戸島の防潮堤は仙台湾では最も早く完成していた。そこで防災会議前に防潮堤を見学に行く。民家も無い狭い水田を守るために数億円の防潮堤が必要だとは思えなかった。防潮堤が住民の意思を無関係なところで動いていた。

足掛け3年、6案まで改訂を続けた高校生たちの提案は行政に届きませんでした。その間多くの住民意見を伺いに回りまわした。高校生が訪問すると今まで寡黙であった高齢者が人が変わったかの如く話はじめます。この経験はメンバーにとって一生の財産となったと思います。これが実現できたのは附設高同窓会支援金のおかげでした。

＜TV 報道＞



140524 マンモス防潮堤



141227★県との懇談



150309★高校生が描く町づくり



150317★国連防災世界会議



150402★FNNふりかえり



150720 TBCガンダム



150809★活動の振り返り



橋本 和 幸 (20回生)

1953年 11月17日 大牟田市生まれ
 1972年 久留米大学附設高校卒業
 1977年 山口大学経済学部卒業
 大沢商会大阪支店勤務
 1978年 橋本事務機(株)入社
 1998年 同上 社長就任
 現在に至る

久留米商工会議所常議員
 情報文化部会会長
 NPO法人ちくご出会いサポートセンターJUNOALL専務理事
 附設高校同窓会評議員・20回生代表世話人
 遠州流茶道久留米支部支部長

高良随想

長年同窓会活動を通じて想う事

私は24歳で久留米に戻り、数年後から附設高校同窓会活動に参加し、先輩・後輩諸兄との交わりから、様々な人生観を学び、生き方を参考にさせて頂いた様に思います。2回生・工藤徳次先輩が久留米支部長を務められ、会社を挙げて会員名簿作成・管理等献身的なご努力により附設高校同窓会組織の「礎」を作られました。後年幹事役をする機会もあり、その時の写真(D)をご披露し、皆さんにも懐しんで頂けたら幸いです。

昨年秋「古稀の会」を開催しました。我々20回生は、3年間唯一クラス替えの無い学年で、他クラスとの交流が少ない現状でした。その様な事も有り、各クラスのA武藤・西見、B内藤、橋本(和)、C安部・森山、D橋本(信)・後藤の幹事各位と(敬称略)、入念に何度もメールでの打合せをしました。

年齢を重ねると私を含めマイペースな人が多く、意見の相違が有りましたが、皆さん大人の対応で纏まりました。お蔭で全国より46名が参加し、大いに旧交を温め有意義な時間を共有出来た事に感謝です。(写真A)

昨年の会報誌の「古希特集」に寄稿の機会を頂戴披露した、50年来の親しい友人池田稔君が6月に、内藤主税君が7月に、相次いで急逝し私は大変なショックを受けました。家族ぐるみで40年来の付き合いがあり4人共「跡を継がねば」というプレッシャーの中で、人生の生き方・愉しみ方を語り合い、濃厚な時を過した仲だったので驚愕至極でした。二人共苦しまずに亡くなった事がせめてもの救いです。二人に合掌!

年甲斐もなく今年も2年続けてシンガポールを訪問し、「流麗デスクの



(写真A) 久留米大学附設高校20回生 古希お祝い会 2023年10月14日 於 萃香園ホテル



(写真B) 遠州茶道宗家十三世 小堀宗実家元と共に
(シンガポールにて) 2024.8.22



(写真C) 左から福井さん、筆者、江口さん、陣内さん

DEMO」をしました。(写真B、広告P.98) 事前に小田恵介先輩(19回生)から「シンガポール附設会」の事を詳細に亘りアドバイス頂き、幹事の江口公一様(38回生)をご紹介頂き、福井信雄様(44回生)陣内裕太様(51回生)と会食し熱い交流をしました。(写真C) ただ単に附設卒業生というだけで、外国で初めて会って会食し盛り上がり、有意義な時を過ごす事が出来た事は、大変幸運であり感謝致します。その内の両氏(福井、陣内)には翌日の「流麗デスクDEMO & 呈茶」にも参加頂き、とても有難かったです。

素晴らしいニュースが9月に飛び込んできました。江藤義行先輩(14回生)が77歳という年齢にも拘らず一念発起して「大川市長選」にチャレンジされ、見事「**当選**」されました！ 大変素晴らしい背中を見せて頂き、勇気を頂きました。

今までを振り返り、附設高校の同窓生との様々なご縁を頂き、素晴らしい先生方、先輩・同輩・後輩から人生の道標を示して貰い、私は大変恵まれていると感謝しています。

現在、日本の文化とりわけ「茶道」を子や孫の世代、更には世界に広める事を「ライフワーク」にしています。「利他の心」で座右の銘とする「知行合一」を実践しなければと思う今日この頃です。寄稿の機会を頂いた実藤光二郎(26回生)福岡支部長に、この場を借りましてお礼を申し上げます。

附設高校同窓会に感謝！



(写真D) 14回生・江藤氏は2列目 左から3人目



かた ぶち ひで たか
片 渚 秀 隆 (22回生)

略歴

佐賀県鳥栖市出身
熊本大学医学部卒業
熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座教授 (2004~2021年)
久留米大学附設高校同窓会評議員、熊本支部副支部長 (現在)

時節因縁 母校での授業、合原先生、尚昭君

2024年2月2日、立春前の温かな午後、熊本から車で1時間、高良山を右手に仰ぎ、筑紫次郎を向こうに眺めつつ久留米インターチェンジを降りると間もなく附設に到着しました。この日は5回目となる母校での授業です。

附設が縁で得た知己はかけがえのないものです。私の熊本大学在任中には、当時名古屋大学文学部教授であった町田 健校長に講演やセミナーを担当いただきました。2021年3月、私の退任に際して作成した記念DVDでもご講演をお願いしています。熊本県内外の高校で私が実践していたがん教育と性教育を一体化した授業について、養護教諭の本山尚子先生からのご依頼で附設でも実施する機会を得て、2018年5月に卒業後44年ぶりに附設を訪れました。

校歌にもある春には万葉の桜が咲き誇る校門から玄関までの200メートルほどの緩やかな坂道を懐かしく感じつつも、母校での初めての授業はそれまでの100回を超える授業とは勝手が違い、異様な緊張感の中で臨むことになりました。授業のタイトルは附設向けに新たに用意した『ノーベル医学生理学賞とがん予防ワクチン：ティーンエイジにこそ知って欲しい産婦人科、子宮、妊娠、そして子宮頸がん』。2世代ほどに歳の離れた真っ白なキャンパスとも言える若者の集団に、医学というアカデミアの世界を伝えることで、何がどう返ってくるのか、いつも見当がつかません。附設での授業では、生徒それぞれが考えを巡らしている無言の圧力をその表情から感じ、それは授業後の矢継ぎ早の質問となって現れました。これまで経験しなかった奇抜な発想や鋭い視点での質問が投げかけられ、その主役は女子生徒でしたが、終了後の校長室や帰り際の駐車場まで続く質問は男子生徒からのものでした。

授業後には毎回、生徒たちの感想文が手元に届きます。ティーンエイジの既成概念に囚われない素直な感情と豊かな感性にはいつも驚かされます。5回目の高校2年生の感想文を少し紹介します。まず女子生徒の感想です。『性に関するこれまでの授業のような「相手を選ぼう」とか「自分を大切に」とかの曖昧な表現ではなく、何故私たちが今この話を聞かなければならなかったのか、また今後どうしたらいいのかがこの授業ではっきり分かった』。『産婦人科医は母親と赤ちゃんの二つの命を助けてかっこいい。当事者である母親は、もっと自分と赤ちゃんの命のことを考えて行動をしなければならぬと思う』。『がんは生活習慣に多く依存することなので、不健康で不衛生な生活を決してしないように心がけたい。知識をつけることが自分の身を守ることを、自分の子ども世代にも伝えたい』。『私に相手ができたら、子宮頸癌の正確な情報と予防を絶対に知って欲しいと思う。我が家はHPVワクチンの「母ブロック」があるので母を説得して私も受けたい』。『国別のチョコレートの摂取量とノーベル賞受賞数の相関関係はとても面白かった。今日からしっかりチョコを食べるぞ』等々。次に男子生徒の感想です。『赤ちゃんは、排卵、受精、着床を経て妊娠し、流産や死産を乗り越えて生まれてくることを知って、自分が生まれてきたのは奇蹟以外の何ものでもないというだけで僕は感動した』。『医学にかなり踏み込み、性行為などの統計もダイレクトに伝えることで生徒たちは子ども扱いされていないし、特定の考えを知る前の多くの知識で自発的に対策をとるようになると思う』。『自分のパートナーが出産のタイミングで子宮頸癌にかかっていたらと思うとぞっとする。男性として、性に関することは分別を持ってしっかり考え判断していきたい』。『僕は将来厚生労働省に入省し、現在の医療や医学を担う大学や医療機関への補助金対策を解決し、安心安全な医療体制の提供を支援できるように一所懸命に頑張りたい』。『68という歳に負けず、これからも様々な人々に知識を伝えてほしい』等々。有り難い激励の言葉もありました。女子生徒の感想は現実的で、精神的に男子生徒より格段に大人びています。一方、男子生徒の感想は無邪気で純粹ですが、基本的に真面目です。附設生には悪びれず奢らず、男女にかかわらず今年の米国大統領選挙戦の中で話題になった“brat”のまままでいて欲しい、そんな気持ちです。

昨年秋の熊本支部総会に合原俊光先生（高校1年時の担任）ご夫妻をお招きしました。私の退任の際にお電話をいただきましたし、先生のお嬢様は同じ産婦人科医として活躍なさっております。また熊本大学法学部の良永彌太郎教授とある会で雑談する中で、先生の従兄弟にあたられることを知り、お互いとても驚いたことでした。

今年5月の附設同窓会の理事会・評議員会では、議長を務めた中村尚昭君と50年ぶりに再会しました。尚昭君は同じ鳥栖中出身で、幼稚園から高校まで一緒でした。理詰めで円滑に会を進行する姿に、顔を真っ赤にして先生の質問に答えていた小学6年生の彼を懐かしく思い出しました。今秋の熊本支部総会に参加してくれることになり、楽しみにしています。





むら いし あき ひこ
村石 昭彦 (26回生)

福岡県柳川市 出身
佐賀医科大学卒(昭和60年)
久留米大学第三内科
(昭和60年～平成10年)
ペンシルベニア医科大学内科および
ペンシルベニア大学循環器科留学
(平成3～6年)
村石循環器科・内科を開業(平成10年)
現在に至る

連絡先

832-0827
柳川市三橋町蒲船津370-1
村石循環器科内科
0944-73-0099



1994年当時のカリコ博士と私。
ペンシルベニア大学循環器科の彼女の
研究室にて

偉大なノーベル医学賞の受賞者と 平凡な町医者との30年前の出会いの物語

今も校舎に飾られているだろうポーリング博士から附設生に宛てたメッセージを有難く聞いた50年前のことを覚えている。文系の私が医学部へと志望変更した理由の一つは、博士のその言葉だった。後に、それほど偉大だと思ったノーベル賞受賞者の若き無名時代の姿を間近に知る機会を得たことは、平凡な私の人生にとり大きな幸運だった。

昨年ノーベル生理学・医学賞を授与されたカタリン・カリコ博士とは、留学先で出会って以来、帰国後は研究者と臨床医として全く違う道を30年間歩んできた。

初めてワクチン接種を受ける頃、テレビで「ワクチン開発の立役者」として紹介されたカリコ博士の現在の姿に接した。顔貌には歳月を感じたが、話し方も声も私が知る彼女だった。「なぜ彼女がワクチン？」と不思議に思ったが、mRNAを研究していたことは昔から知っていたので、直ぐに理解できた。そして、我がことのように嬉しくなった。

2022年4月に日本国際賞の授賞式に来日した時、29年振りに彼女との交流が再開した。私を覚えていてくれ、互いに若い頃の思い出が一気によみがえり、再び身近な存在になれた。父をコロナで亡くし、私が重症肺炎で長期入院したことを知り、「もっと早くワクチンを開発してあげたかった。ごめんなさい」と言ってくれたことが忘れられない。

私がペンシルベニア大学循環器科に留学していた1993年、85年にハンガリーから渡来し、89年にペン大に移籍していた当時の彼女は全く無名の英語が苦手な研究者だった。同じ科でも別々の研究室なので、雑談をしに研究室を訪問する友達のような間柄だった。仲間に紹介された瞬間、あの人懐っこい人柄に魅了され、夜遅くまで居残って研究している彼女を訪ねていくたび、快活でチャーミングな魅力にはまっていった。

私はアメリカで黎明期だったウイルスベクターを用いた遺伝子治療の研究をしていたが、彼女はmRNAを用いた治療を志向していた。当時mRNAを細胞に導入してタンパク質を作らせる非常に重要な実験に成功したにも関わらず、大学上層部が彼女の研究を評価せず、私が帰国した直後に彼女たちの研究室は無情にも閉鎖に追い込まれた。

私は彼女を評価した人も、評価せずに潰した人も両方よく知っているので、後にそれを彼女自身から打ち明けられた時は複雑な心境だった。が、人間万事塞翁が馬の喩え通り、その時に大きな挫折をし、後に他科に移籍したことで、同時受賞したワイスマン博士との出会いや今回の大偉業へと結果的につながることになった。彼女はノーベル賞を受賞する直前に、「あの挫折が、幸運をもたらしてくれた最大の要因かも？」と、今となっては「笑い話」を私に披露してくれた。

受賞会見した彼女は、「研究は思い通りにならないことばかり。大変だが、楽しくて幸せなことも知って欲しい」と科学を志す若者を励まし、「夢をかなえる助けとなってくれ、子育てにも協力してくれる適切な相手を見つけること。問題解決が好きならば、科学はあなたのものよ」と、後に続く女性たちにもエールを送った。当時も今も、裏表のない純情な女性だと眩しく感じる。

無名時代の彼女の努力と苦悩の一時期を知る旧友として、根っからの明るく前向きな性格で信念を抱いて苦勞を克服してきた長い30年間のことを改めて思い返すと、当時から今回の受賞につながる面影が彼女にはあった。受賞後に送った祝福メールの返信には、既に新しいプロジェクトに邁進している情熱が溢れていた。まだ彼女は果てしない夢の途中にいる。

ひとつの研究の陰には、先人たちの研究の数々がある。偉大な研究者たちの苦悩時代に思いを馳せ、科学研究の喜びを知り、ノーベル賞を目指す附設生たちが続くことを期待したい。

もし興味あれば、小説「カリコ博士と町医者」を出版し、附設の図書館でも読めるので、是非どうぞ。





山内正行先生

松尾弘徳

(41回生 元3年A組)

出身地

熊本県荒尾市

学歴

久留米大学附設高校－九州大学文学部
－九州大学大学院文学研究科

職歴

鹿児島国際大学
国際文化学部（教員）

連絡先

matuwoh@gmail.com

私の礎を 築いてくださった先生

山内先生からは主に古典（古文・漢文）を教えていただき、また文系クラスに進んだ私の高校2、3年次のクラス担任でいらっしゃいました。高校から附設入学した当時の私は古典に関する知識が皆無で、先生には放課後の補習でたいへんお

世話になった記憶があります。入学直後の中間試験の物理科目で「7点（100点満点中）」をたたき出し、果たしてここで3年間学び続けられるのだろうかという暗澹とした気持ちにもなりましたが、いっぽうで国語科目だけは比較的成績が安定しておりましたのは、先生の丁寧なご指導のおかげです。

高校3年次の進路面談で地元の九州大学文学部を志望する私に対して、先生は首都圏の某大学を薦めてくださったのですが、その大学は実は文学部を設置していない大学でした（笑）。そういった大らかなところも含めいつもニコニコと穏やかな笑みを湛えていらした山内先生が高校最後のホームルームか何かの折に、ご息のことやご友人の元プロ野球選手（王貞治の一本足打法による第1号ホームランを浴びた稲川誠〔修猷館高校出身〕選手であったと記憶しております）のお話をなさったこと、プライベートなことはめったに語られることのなかっただけに強く印象に残っております。

現在私は鹿児島県内にある私立大学に奉職し、日本語学（とくに「日本語の歴史」「日本語諸方言」）に関する研究を行っております。その根底にあるのが古典の授業で先生から学んだことであることは言を俟ちません。残念ながら鬼籍に入られたと聞き及びましたが、先生の教えは私たち卒業生の心にしっかりと刻まれております。



高3体育祭での集合写真より

坂田 真一

(41回生 元3年B組)

平成9年 北海道大学理学部化学第二
学科卒業

平成15年 京都大学大学院理学研究科
生物物理学専攻修了 博士
(理学)

大阪大学医学部などでの研究生活を
経て平成23年より附設に赴任、現在生徒
指導部長

恩師の思い出…なのか？

「白水孝典先生の思い出」を書いてほしい、という依頼を受けたとき「いや思い出も何も毎日顔を合わせとるんやけど…」という感じでしたが、先生に最もお世話になった「直の弟子」ということで41回生を代表して筆を取らせていただきます。

我々41(中学19)回生が初めて先生に出会ったのは中学2年生の時に、当時年配の先生が多かった中、白水先生は最も若手の先生でした。前年度の高賀直先生からのギャップから、第一印象は「なんだこの頼りなさそうな兄ちゃんは!」という感じだったのを覚えています。見た目と裏腹にテストは妙に難しく、毎回ヒーヒー言わされていました。ある回では、みんな点数が気になっているのに返却が遅く、直前にテニスをしている姿が見られたことから、今日こそ返ってくるかと思っていたら結局返却されず「あんたさっきテニスしとったやん!」と多くの生徒が突っ込んだ、なんてこともありました。(先生曰く、「あの頃の僕が直先生の誘いを断れるはずがない」ということだったらしいです。)

しかし、高校2年生の時に、41回生の担任として再会したときの印象は全く別人でした。文系と理系生物・物理選択者が入り混じった個性豊かなクラスをまとめ、学校行事にも積極的に協力・参加される「頼れる兄貴分」でした。もちろん、授業や特講の添削でも大変お世話になり、生物学における最初の師匠であったことは言うまでもありません。

今でも忘れられないのは、前期試験で本命に落ちてしまい、失意のまま後期試験に旅立った私に、わざわざ電話をかけて激励していただいたことです。携帯電話などない時代、相当な手間だったと思います。「お前は大学で研究をやりと思っているんだらう? だったら浪人は時間の無駄だ。理系なら大学院からが勝負、日進月歩の科学の世界で1年のロスは大きい、必ず合格してこい!」との言葉に正気にかえった私は、現役で進学し、その後、利根川進先生も学んだウイルス研究所で修行を積むことができました。

我々の卒業から30年以上の時間が流れ、白水先生は、進路指導部長、教務部長を歴任され、今や高校教頭を務めていらっしゃる附設一筋40年の大ベテランです。紆余曲折を経た私が附設に赴任してからは、お互いの手の内を理解しているからこそその相乗効果で楽しく仕事をさせていただいております。一緒に仕事をできる時間もあと残り数年ですが、ご恩返しできるように頑張りたいと思っています。



附設職員室での近影



よし たけ ただ まさ
吉武 忠正
(中学19回生／高校41回生)

出身
佐賀県佐賀市

学歴
九州大学医学部卒

職歴
1999年 九州大学大学院医学研究院
臨床放射線科学分野入局
九州大学病院や関連病院での研修、修
練を経て
2009年～ 九州大学病院放射線科勤務

連絡先
yoshiitake@gmail.com

佐々木健治先生 の思い出



卒業アルバムに附設コンピュータークラブの写真。
佐々木先生の右にこっそり写っているのが筆者

自分は目立つことが苦手で、学校のイベントも積極的に企画・運営するタイプではなく、先生方と関わることは少なかったのですが、佐々木健治先生は自分にとって高校時代の最も忘れられない恩師です。佐々木先生は、高校2年、3年の担任であり、数学という多くの生徒にとって難解に感じられる科目を、いつも情熱をもって教えてくれました。また、自分が所属していたFCC（附設コンピュータークラブ）の顧問でもありました。もっとも、先生はクラブの活動にはほとんど関わらず、あくまで名目上の顧問という立場だったかと思います（自分の知らないところで関わられていたのなら申し訳ないです）。

佐々木先生の思い出として、特に心に残っているエピソードがあります。それは、あるホームルームか授業開始前の出来事でした。その時自分は後ろを向いて、友人と話をしていました。もっと騒いでいるクラスメートがいたので、怒られるならまずそっちが注意されるだろうと油断していました。しかし、突然、佐々木先生の大きな声が教室に響き渡りました。「吉武！チヨロチヨロするな！」という一喝に、自分が怒られると思っていなかった私は驚きました。よくよく考えると怒られて当然なのですが。これ以降、「他にもっと悪いことをしているひとがいても、悪いことをすると処罰される」ということを心に留め、高速道路で飛ばしている車がいっても、自分は飛ばさないように自制して、そのたびに佐々木先生のことを思い出しています。

とはいえ、佐々木先生は私たち生徒に厳しく接することはほとんどなく、どちらかというところ“いじられキャラ”だったと記憶しています。生徒たちから“いじられ”でも、いつも愛嬌のあるガミースマイルで笑って対応しておられ、大変人気のある先生でした。高校1年時の体育祭では、やぐらのモデルも佐々木先生でしたし、別のクラスのやぐらにも佐々木先生が登場していました。卒業して30年ぐらい経ちますが、附設会など卒業生が集まった際には佐々木先生との思い出話がよく話題に上がります。

なお、娘の附設中受験のために母校を訪れた際に、佐々木先生とお会いする機会がありましたが、自分のことは覚えておられませんでした。自分は基本的に目立ちたくない生徒だったので、しょうがありませんね。佐々木先生は昔とあまり変わらない印象でしたので安心しました。これからもお体に気をつけて健康にお過ごしください。

2024年6月の九州大学病院キャンパス附設会にて
(筆者は前列左から3人目)





右：中島文昭先生。中央：筆者。

まえ だ あつ ひろ
前田 篤宏 (41回生)

佐賀県伊万里市出身

848-0027

佐賀県伊万里市立花町2742-1
maedaatuhiro@mopera.net

2000年3月 福岡大学医学部卒業

2000年5月16日～2001年5月15日
福岡赤十字病院 内科・麻酔科 研修医

2001年5月16日～2002年5月15日
九州大学第二内科・心臓外科・救急部 研修医

2002年5月16日～2003年5月15日 福岡赤十字病院 腎臓内科医員

2003年5月16日～2004年5月15日 新日鐵八幡記念病院 腎臓内科医員

2004年5月16日～2007年3月31日 済生会八幡総合病院 腎センター医員

2007年4月1日～2012年3月31日 麻生飯塚病院 腎臓内科医長

2012年4月1日～ 幸善会前田病院 副院長

2005年 日本内科学会認定医(27600)

2008年 日本透析医学会専門医(18期:4629)・日本内科学会専門医(14069)

2009年 抗加齢学会専門医(2562)

2011年 日本透析医学会指導医(2142)

2014年 日本臨床腎移植学会腎移植認定医(140007)

2020年 日本腎臓学会専門医(215237)・指導医(3662)

2023年 透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会認定専門医(249)・血管内治療認定医(0130)

大好きだったハルティ

2018/6/7に天に召されましたハルティこと中島文昭先生は久留米教会の牧師でもありました。

先生は5歳の時、長崎の爆心地から1.3kmの地点で被爆され、爆風で家の下敷きになっていた所をお兄様に掘り起こされ、九死に一生を得られたそうです。

5歳の中島先生の脳裏に焼きついた戦争の悲惨さは、一見明るく楽しい先生の中に悲しさと儚さを内包させていたように思います。

僕はそんなチャップリンの様なハルティが大好きでしたし、僕のようなやんちゃ坊主が医師になれたのもハルティのお陰です。

附設のみんなの学力について行けず、不登校の様になった僕を。

励ます訳でもなく(笑)、怒る訳でもなく。

『前田が本気になった所を見てみたいなあ、いつかなあ。』

しか言わずにただ見守ってくれていた。

のか、あきらめていただけなのか(笑)

そんな飄々としたハルティが大好きでした。

2003/3/29の僕の結婚式で牧師をして頂き、卒業以来10年ぶりに

『新郎前田篤宏君!』

と呼ばれた時には、懐かしい野中町20-2の風景がよぎりました。

医師になった、夫になった僕の晴れ姿を見せる事で恩返しができたと勝手に思っています。



右：中島文昭先生。中央：筆者。

同級生の南史朗が急逝したのを報告に行くと、大粒の涙を流していましたね。

大切な人との急な別れは、自分の持つ砂時計も有限である事に気付かせてくれ、限られた時間の中でチャレンジする力を与えてくれているように思います。

今でも天から

『自分の好きな道を進みなさい』

と見守ってくれているハルティへ。

僕の本気、どうですか(笑)?

大好きでした。ありがとう! あなたは僕の一生の恩人です。

定期総会報告

副会長 古賀善彦 (23回生)

令和6年7月28日(日)、ソラリア西鉄ホテル福岡(福岡市中央区天神)にて定期総会が開催され、すべての議案が承認されましたので、ここにご報告申し上げます。

◆令和6年度定期総会

古賀善彦副会長(23回生)より開会宣言および執行部の紹介があった後、物故者への黙祷が行われた。栗木康幸東京支部長(21回生)が議長に選任された。

議題の報告・審議に先立ち、吉田清隆会長(23回生)より挨拶があり、12番目の支部である沖縄支部が設立されたこと、高校創立75周年、中学創立55周年の記念事業にあたり募金のお願いがあった。

議題1 報告事項

本部・支部活動報告 中村和徳副会長(27回生)

- ・コロナが第五類に移行され、拡大正副会長会議が毎月開催された。各支部の支部総会がリアルに開催された。在校生向けの進路講座を2回行った。

広報委員会報告 勝連治副会長(33回生)

- ・令和5年8月末に同窓会報第30号を発刊した。同窓生が利用するZOOM運営管理を行った。

思考廻廊推進委員会報告 飯沼良介副会長(36回生)

- ・75周年事業の一環として、現在歯抜けになっている10枚、新しく対象となる13枚の計23枚の陶板の対象のうち、15回生分前後の応募が見込まれている。

高校創立75周年・中学55周年記念事業委員会報告

吉田清隆会長(23回生)

- ・募金活動では募金者の人数が伸び悩んでいる。
- ・特別教室棟、第二体育館、中学寮については大学の事業費が充てられ、同窓会の寄付金で賄う事業のひとつとして「憩いの森」が整備される。

沖縄支部設立の報告 吉田清隆会長(23回生)

- ・沖縄からの附設入学生は130名以上おり、現在約70名が沖縄に在住している。令和6年4月14日に県内外から39名による沖縄で初の同窓会懇親会が開催され支部設立の機運が高まり、5月25日の理事評議員会で支部発足が承認された。

議題2 決議事項

第1号議案 令和5年度決算報告

田中英治副会長(23回生)

- ・一般会計収支決算案につき、収入が23,570千円となった。名簿関連の積立金2,000千円を一般会計雑収入に振替えたことに加え、福岡・東京両支部より各1,000千円、計2,000千円の資金協力があつたことで、例年と比較すると4,000千円の増収となった。募金活動活性化のため各支部への出張費が増加したことを差し引いた結果、令和6年度への繰越金は

4,200千円増え、12,940千円となった。

- ・特別会計決算は、令和5年度の終身会費(旧制度)が990千円となり全額特別会計に振替えられた。

監査報告 古澤生敏監事(15回生)

- ・監査の結果、令和5年度一般会計収支決算書、同特別会計収支決算書および関係帳簿の内容は妥当であった。

第2号議案

(1) 同窓会ホームページリニューアル、同窓会バーチャルクレジットカード作成 飯沼良介副会長(36回生)

- ・イベントや支部ごとのカテゴリーを設けたホームページのリニューアルが提案され、併せて、同窓会LINEの作成や同窓会バーチャルクレジットカードの導入が提案された。

(2) 令和6年度予算案 田中英治副会長(23回生)

- ・収入についてはほぼ例年通りだが、支出はホームページのリニューアル初期費用1,150千円、その後の保守費用1,200千円を計上することに加え、75周年事業活動のための予算1,500千円を計上するため、繰越金を有効活用した予算とする。

第3号議案

(1) 「会長選考委員会」の結果報告と「次期会長候補者」の推薦 古賀善彦副会長(23回生)

- ・令和6年5月25日に栗木康幸東京支部長(21回生)を委員長とする会長選考委員会が開催され、吉田清隆会長(23回生)の再任の推挙があり、理事・評議員会でも再任の推薦となった。

(2) 「副会長、監事の改選」 吉田清隆会長(23回生)

- ・任期2年の経過により、田中英治副会長(23回生)、勝連治副会長(33回生)、古澤生敏監事(15回生)の3名が退任。代わって、江藤宏(23回生)、高尾野健(35回生)が副会長、田中英治副会長(23回生)が監事の候補者とした。

(3) 「理事、評議員の改選」 古賀善彦副会長(23回生)

- ・6名の新しい理事、9名の新しい評議員の候補者の選出があつた。

以上の議案報告および決議に先立ち、中村和徳副会長(27回生)より事前の書面による質問事項がなかったこと、理事評議員会で、HPを含む広報活動にもっと大きな予算を組んだ方がよいのではという前向きな発言や特別会計の運用方法・活用方法について検討をしてみてもという意見があつたことが報告された。

全ての決議事項につき、拍手をもって賛同を得られた。最後に吉田清隆会長(23回生)の挨拶により閉会となった。

令和5年度 本部・支部活動報告

副会長 中村和徳 (27回生)

【本部】

2023年

- 4月8日(土) 母校入学式出席 (@母校)
- 75周年記念事業についての個別会合 (@母校)
- 4月15日(土) 拡大正副会長会議 (メディア総研およびZOOMにて開催)
- 5月26日(金) 75周年事業委員会 (第4回) (@母校)
- 5月26日(金) 久留米大学評議員会 (高橋顧問出席)
- 5月27日(土) 拡大正副会長会議 (同窓会事務室にて開催)
- 5月27日(土) 理事評議員会開催 (@母校)
- 7月16日(日) 拡大正副会長会議 (@ソラリア西鉄ホテル福岡)
- 定期総会 (@ソラリア西鉄ホテル福岡開催+動画配信)
- 8月31日(木) 『同窓会報第30号』 発刊、送付
- 9月9日(土) 拡大正副会長会議 (会議室利用+ZOOM)
- 9月22日(金) 75周年事業委員会 (第5回) (@母校)
- 10月14日(土) 拡大正副会長会議 (会議室利用+ZOOM)
- 10月21日(土) 第1回在校生のための進路講座 (母校)
- 11月11日(土) 第2回在校生のための進路講座 (母校)
- 11月25日(土) 拡大正副会長会議 (@大手町サンケイプラザ)
- 12月16日(土) 拡大正副会長会議 (メディア総研およびZOOMにて開催)

2024年

- 1月13日(土) 拡大正副会長会議 (メディア総研およびZOOMにて開催)
- 2月10日(土) 拡大正副会長会議 (メディア総研およびZOOMにて開催)
- 2月16日(金) 75周年事業委員会 (第6回) (@母校)
- 3月2日(土) 母校卒業式 (吉田会長、島添副会長参列)
- 同窓会より卒業記念品 (フォトフレーム付き電波時計) 贈呈
- 3月9日(土) 拡大正副会長会議 (会議室利用+ZOOM)
- 3月22日(金) 久留米大学評議員会 (定例) (高橋顧問出席)
- 4月6日(土) 拡大正副会長会議 (会議室利用+ZOOM)
- 4月8日(月) 母校中高入学式 (吉田会長、島添副会長参列)
- 5月11日(土) 拡大正副会長会議 (会議室利用+ZOOM)
- 5月25日(土) 理事評議員会、拡大正副会長会議 (@母校)
- 6月21日(金) 75周年事業委員会 (第7回)、拡大正副会長会議 (@母校)
- ※7月28日(日) 定期総会、拡大正副会長会議 (@ソラリア西鉄ホテル福岡)

【支部 (含むOB関連行事)】

2023年

- 4月13日(木) 広告募集開始 (HPアップ)
- 4月15日(土) 福岡回生代表世話人会 (@八仙閣)
- 4月15日(土) 東京回生代表世話人会 (@新橋亭)
- 5月20日(土) 東京支部ゴルフコンペ (@千葉新日本GC)
- 6月10日(土) 九州大学病院キャンパス附設会 (@九州大学医学部百年講堂)
- 6月17日(土) 東京支部附設塾 (@銀座貸会議室)
- 7月15日(土) 福岡支部親睦ゴルフ (@古賀GC)
- 7月16日(日) 福岡支部総会 (@ソラリア西鉄ホテル福岡にてリアル開催)
- 7月29日(土) 東京支部回生代表世話人会 (@新橋亭)
- 9月10日(日) 朝倉OB会 (@COWANO(元藤井呉服店))
- 9月22日(金) サロン・ド・附設in福岡 (@朝日プラザ天神)
- 9月30日(土) 東京支部附設塾 (@銀座貸会議室)
- 9月30日(土) 東京支部新人歓迎会
- 10月22日(日) 熊本支部総会 (@日航ホテル熊本)
- 11月11日(土) 長崎支部総会 (@会楽園) 支部長 (安武亨氏(24) ⇒川口哲氏(28))
- 11月17日(金) サロン・ド・附設in福岡 (@朝日プラザ天神)
- 11月18日(土) 中四国支部総会 (@広島ガーデンパレス)
- 11月18日(土) 東京支部ゴルフコンペ (@千葉新日本GC)
- 11月25日(土) 東京支部総会 (@大手町サンケイプラザ)
- 11月25日(土) 中部支部総会 (@シルクロード) 支部長 (安井健三氏(14) ⇒守瀬善一氏(29))
- 12月1日(金) 関西支部総会 (@住友クラブ)
- 12月2日(土) 有明OB会 (@だいふく)
- 12月16日(土) 東京回生代表世話人会 (@新橋亭)
- 12月23日(土) 福岡回生代表世話人会 (@八仙閣)

2024年

- 1月19日(金) サロン・ド・附設in福岡 (@朝日プラザ天神)
- 1月27日(土) 久留米OB会 (@ホテルマリタレー創世)
- 1月27日(土) 筑後OB会 (@日若屋)
- 2月3日(土) 朝倉OB会 (@朝倉市 里川海)
- 3月15日(金) サロン・ド・附設(第289回) (@朝日プラザ天神)
- 3月20日(水) 熊本支部卒業生祝賀会 (@瑞恵)
- 6月15日(土) 北海道支部総会 (@夜空のジンギスカンGOGO店)
- 7月28日(日) 福岡支部総会
- 10月5日(土) 東京支部総会

令和5年度 一般会計収支決算書

副会長 田中英治 (23回生)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	880,000	820,000	△ 60,000	4,000円×205名
会費(年会費)	3,700,000	3,683,500	△ 16,500	500円×612名×12ヶ月、500円×1名×7ヶ月、500円×1名×6ヶ月 500円×2名×3ヶ月、500円×2名×2ヶ月
終身会費新制度分	5,700,000	5,668,800	△ 31,200	800円×612名×12ヶ月、800円×1名×7ヶ月、800円×1名×6ヶ月 800円×2名×3ヶ月、800円×2名×2ヶ月 △ 返還800円×281ヶ月(前年度転退学者14名分)
広告料協賛金収入	7,200,000	7,875,000	675,000	
支部よりの協力金	0	2,000,000	2,000,000	東京・福岡支部 各1,000,000円
寄付金	0	105,000	105,000	
預り金	0	431,200	431,200	38・41・67・72回生思考回廊預り金
雑収入	100	125	25	普通預金・定期預金利息
雑収入(名簿発行関連積立から振替)	2,000,000	2,000,000	0	
終身会費旧制度分	2,000,000	990,000	△ 1,010,000	
当期収入合計	21,480,100	23,573,625	2,093,525	
〔支出の部〕				
1. 事務費				
事務消耗品	10,000	3,740	△ 6,260	
事務備品費	0	0	0	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与と負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰出し
東京事務所費	607,200	607,200	0	東京事務所賃借料
通信費	120,000	106,735	△ 13,265	インターネット利用料 Zoomアカウント利用料 切手他
印刷費	30,000	42,312	12,312	72回生会員カード 名刺
事務雑費	30,000	23,100	△ 6,900	
事務費計	1,797,200	1,783,087	△ 14,113	
2. 事業費				
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	700,000	615,660	△ 84,340	
正副会長会議費	200,000	29,090	△ 170,910	
総会関連支援費	400,000	246,004	△ 153,996	
役員活動費	400,000	120,460	△ 279,540	
支部総会関連(旅費)	300,000	601,176	301,176	
(寸志)	150,000	150,000	0	熊本・長崎・中四国・中部・関西支部
支部分配金	4,800,000	5,526,000	726,000	福岡・東京支部 各2,625,000円 中四国支部 132,000円 熊本支部 144,000円
(支部活動支援費)				
回生世話人会費	700,000	838,800	138,800	東京支部 387,000円 福岡支部 451,800円
新人歓迎会補助	100,000	230,000	130,000	熊本支部 22,000円 長崎支部 38,000円 東京支部 158,000円 関西支部 12,000円
就職セミナー補助	250,000	0	△ 250,000	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	450,000	407,250	△ 42,750	文化祭援助 300,000円 体育祭援助 107,250円
部活動援助費	390,000	209,200	△ 180,800	サッカー部 30,000円 柔道部 30,000円 合唱部 30,000円 美術部 30,000円 軟式野球部 30,000円 演劇部 30,000円 バスケット部 29,200円 フォトフレーム付き電波時計 204個 クラス写真 203枚
卒業記念品代	400,000	392,804	△ 7,196	卒業生模擬試験経費援助
進路指導費	500,000	130,000	△ 370,000	
校外活動援助費	0	0	0	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	646,800	798,600	151,800	会員管理システム・ホームページ管理料等
会報	5,000,000	4,812,549	△ 187,451	会報誌(10,300部)の作成代、CPP袋印刷、発送料 会報広告募集費用
思考回廊関連引当	100,000	100,000	0	定期預金にて積立中
思考回廊預り金繰出	0	431,200	431,200	107,800円×38・41・67・72回生分
慶弔費	50,000	2,365	△ 47,635	
事業費雑費	50,000	48,263	△ 1,737	72回生卒業アルバム 振込手数料
事業費計	15,586,800	15,689,421	102,621	
3. 予備費	500,000	17,464	△ 482,536	沖縄懇親会案内
3.2 母校支援費	0	0	0	
3.3 75周年事業活動費	2,000,000	891,124	△ 1,108,876	
当期支出合計	19,884,000	18,381,096	△ 1,502,904	
当期収支差額	1,596,100	5,192,529	3,596,429	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△ 2,000,000	△ 990,000	△ 1,010,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	8,733,321	8,733,321	0	
次年度繰越金	8,329,421	12,935,850	4,606,429	

在籍数／	1年	205名	7月より退学1名	10月より転学1名
	2年	213名	6月より転退学2名	7月より転学1名
	3年	203名	会費なし3名	11月より転学1名
合計	621名			

財産目録	
普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	12,114,194円
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	821,189円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	467円(下記定期預金の利息累計)
小計	12,935,850円(※補記 当該金額が次年度繰越金と一致)
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	1,783,200円(引当金累計 思考回廊関連)
合計	14,719,050円

令和5年度 特別会計収支決算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

〔収入の部〕	(円)	〔支出の部〕	(円)	財産目録
前年度繰越金	185,989,710	貸金庫使用料	13,200	普通預金(筑邦銀行 本店営業部)
一般会計より繰入	990,000 (30,000円×33名)	次年度繰越金	186,969,572	定期預金(筑邦銀行 本店営業部)
雑収入	3,062	計	186,982,772	定期預金(福岡銀行 久留米営業部)
計	186,982,772			振替口座(ゆうちょ銀行)
				計
				186,969,572円

終身会費納入状況

(カッコ内は令和5年度中に完納された方の人数です)

2024年3月31日現在

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	69 (1)	195名 35%	33	179	209名 86%	49	154 (1)	201名 77%
2	80	141名 57%	18	67 (1)	195名 34%	34	186	217名 86%	50	135	200名 68%
3	68	135名 50%	19	92	205名 45%	35	160 (1)	209名 77%	51	157	202名 78%
4	78	153名 51%	20	57	209名 27%	36	177	209名 85%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	90 (1)	211名 43%	37	161	199名 81%	53	164	199名 82%
6	71	159名 45%	22	87	229名 38%	38	158	210名 75%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	91 (8)	183名 50%	39	168	202名 83%	55	137	197名 70%
8	85	171名 50%	24	84 (2)	214名 39%	40	129 (5)	201名 64%	56	140 (1)	205名 68%
9	67	149名 45%	25	108	220名 49%	41	92 (1)	205名 45%	57	145	199名 73%
10	78	150名 52%	26	167	223名 75%	42	109	206名 53%	58	151	198名 76%
11	66 (1)	159名 42%	27	160	201名 80%	43	111	208名 53%	59	155 (1)	210名 74%
12	59	154名 38%	28	177 (2)	217名 82%	44	118	197名 60%	60	131	199名 66%
13	77	165名 47%	29	162 (1)	215名 75%	45	133	194名 69%	61	153	201名 76%
14	60 (1)	145名 41%	30	177	212名 83%	46	131	195名 67%	62	142 (1)	203名 70%
15	58 (2)	161名 36%	31	160	217名 74%	47	121 (1)	194名 62%	63	146	199名 73%
16	62	208名 30%	32	176	224名 79%	48	139 (1)	197名 71%	64	135	200名 68%

※なお65回生以降は、全員完納会員です。

同窓会終身会費 会計報告	完納会員(3万円) 7,597(33)名	分納会員(2万円) 10(0)名	分納会員(1万円) 51(0)名
-----------------	-------------------------	---------------------	---------------------


監事の報告書

事務局より提出された令和5年度一般会計収支決算書及び令和5年度特別会計収支決算書並びに関係帳簿、事業報告書等を監査しました結果、その内容は妥当と認めます。

令和6年5月21日

同窓会監事

氏名 古澤 生敏 

氏名 矢加部 浩一 

令和5年度決算案・6年度予算案についての補足説明

●令和5年度一般会計決算

○収入の部

- ・ 創立75周年事業予算のために、名簿関連の積立200万円を一般会計雑収入に振替した（個人情報保護法により、今後紙ベースの名簿発行が出来ない為使用目的が不明確になっていた）。
- ・ 周年事業の必要経費だけでなく今後の諸物価高騰による経費増に備えるため、予算には計上していなかったが、福岡・東京両支部から各100万円・計200万円の資金を協力金として本部収入に計上させていただいた。
- ・ このため、例年の一般会計の収入規模と比較すると400万円程の増収になっている。

○支出の部

- ・ 75周年事業の募金活動協力依頼やWEB名簿の広報のために、可能な限り支部総会へ出席させていただいた。そのため旅費宿泊費が予算を超えたが、それ以外はほぼ予算内の決算ができた。

上記の特別的収入400万円は5年度支出に充てる事無く決算をすることができたので、6年度への繰越金が420万円増えて1,294万円となっている。

●令和5年度特別会計決算

- ・ 終身会費旧制度分は令和4年度には470万円と多くの入金があり、5年度は99万円だった。全

額特別会計へ振替とした。

●令和6年度予算案

- ・ 収入の部はほぼ例年通りだが、支出の部においてホームページのリニューアル初期費用として115万円、その後の管理費用として120万円を計上している。
- ・ 75周年事業活動のための予算（150万円）も来年度までは計上する必要がある。
- ・ 5年度繰越金に増額して計上した繰越金を有効活用した予算となっている。

令和6年度 一般会計収支予算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(円)

費目	令和5年度決算額	令和6年度予算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	820,000	844,000	24,000	
会費(年会費)	3,683,500	3,700,000	16,500	
終身会費新制度分	5,668,800	5,700,000	31,200	
広告料協賛金収入	7,875,000	7,200,000	△ 675,000	
支部よりの協力金	2,000,000	0	△ 2,000,000	
寄付金	105,000	0	△ 105,000	
預り金	431,200	0	△ 431,200	
雑収入	125	500	375	
雑収入(名簿発行関連積立から振替)	2,000,000	0	△ 2,000,000	
終身会費旧制度分	990,000	600,000	△ 390,000	
当期収入合計	23,573,625	18,044,500	△ 5,529,125	
〔支出の部〕				
1. 事務費				
事務消耗品	3,740	10,000	6,260	
事務備品費	0	0	0	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰出し
東京事務所費	607,200	607,200	0	
通信費	106,735	110,000	3,265	
印刷費	42,312	50,000	7,688	
事務雑費	23,100	30,000	6,900	
事務費計	1,783,087	1,807,200	24,113	
2. 事業費				
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	615,660	800,000	184,340	
正副会長会議費	29,090	100,000	70,910	
総会関連支援費	246,004	300,000	53,996	
役員活動費	120,460	100,000	△ 20,460	
支部総会関連(旅費)	601,176	600,000	△ 1,176	
(寸志)	150,000	180,000	30,000	
支部分配金	5,526,000	4,800,000	△ 726,000	広告協賛金収入(福岡・東京支部へ)
(支部活動支援費)				
回生代表世話人会議費	838,800	950,000	111,200	
新人歓迎会補助	230,000	300,000	70,000	
就職セミナー補助	0	250,000	250,000	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	407,250	450,000	42,750	文化祭・体育祭援助
部活動援助費	209,200	390,000	180,800	
卒業記念品代	392,804	420,000	27,196	
進路指導費	130,000	300,000	170,000	卒業生模擬試験経費援助
校外活動援助費	0	0	0	
(同窓会事業費)				
ホームページ更新費用		1,150,000	1,150,000	新会員管理システム・新ホームページ導入初期費用
ホームページ管理	798,600	1,200,000	401,400	新会員管理システム・新ホームページ管理費等
会報	4,812,549	5,000,000	187,451	
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	定期預金にて積立
思考廻廊預り金繰出	431,200	0	△ 431,200	
慶弔費	2,365	30,000	27,635	
事業費雑費	48,263	40,000	△ 8,263	73回生卒業アルバム・振込手数料等
事業費計	15,689,421	17,460,000	1,770,579	
3. 予備費				
3.275周年事業活動費	891,124	1,500,000	608,876	
当期支出合計	18,381,096	21,267,200	2,886,104	
当期収支差額	5,192,529	△ 3,222,700	△ 8,415,229	
4. 特別会計へ繰入(繰出)				
前年度繰越金	8,733,321	12,935,850	4,202,529	
次年度繰越金	12,935,850	9,113,150	△ 3,822,700	

久留米大学附設高等学校同窓会 令和6年・7年度役員名簿

役職名	支部名	回生	氏名
顧問			
1	福岡	8	井手和英
2	福岡	10	古賀暉人
3	福岡	13	長谷川房生
4	東京	19	高橋友作

会長			
	東京	23	吉田清隆

副会長			
1	福岡	23	古賀善彦
※2	福岡	23	江藤宏
3	福岡	25	島添隆雄
4	東京	27	中村和徳
※5	東京	35	高尾野健
6	東京	36	飯沼良介

理事			
1	山口	10	原好弘
2	中部	14	安井健三
3	中四国	16	近藤治幸
4	北海道	20	西見寿博
5	東京	21	栗木康幸
6	関西	21	甲斐田郁夫
7	福岡	22	松雪恵津男
8	東京	22	中村尚昭
9	佐賀	22	志田正典
※10	沖縄	23	清水明
※11	福岡	25	山口佳秀
12	福岡	26	実藤光二郎
13	東京	28	高木裕康
14	熊本	30	西芳寛
※15	福岡	31	竹下正敏
16	長崎	32	山縣雅義
17	福岡	34	秋本丈司
※18	東京	37	丸山剛弘
※19	東京	39	金城順之介
※20	東京	40	岡泰宏
21	校内	23	町田健次
22	校内	41	國吉房次

監事			
※1	福岡	23	田中英治
2	福岡	25	矢加部浩一

支部長			
1	山口	10	原好弘
2	中四国	16	近藤治幸
3	熊本	17	砥上幸一郎
4	大分	19	藤原公司郎
5	北海道	20	西見寿博
6	関西	21	甲斐田郁夫
7	東京	21	栗木康幸
8	佐賀	22	志田正典
※9	沖縄	23	清水明
10	福岡	26	実藤光二郎
※11	長崎	28	川口哲
※12	中部	29	守瀬善一

役職名	支部名	回生	氏名
評議員			
1	福岡	1	隈正之輔
2	福岡	3	安恒好太郎
3	福岡	8	中村晃
4	福岡	11	重永征廣
5	福岡	13	宮本祐一
6	福岡	15	平田三一郎
※7	福岡	16	深川公一
8	山口	16	小野康行
9	熊本	17	砥野幸一郎
10	福岡	17	武田由照
11	福岡	19	横山晴明
※12	東京	19	小田恵介
※13	福岡	19	天本敬吾
※14	東京	20	安部政信
15	東京	20	山下喜弘
※16	福岡	20	橋本和幸
17	福岡	21	林隆泰
※18	東京	21	小砂場浩
※19	沖縄	21	江頭重宏
20	熊本	22	片渕秀隆
21	福岡	22	山口博徳
22	関西	24	中路秀宏
23	福岡	25	宮原信孝
24	福岡	25	川口武壽
25	福岡	26	藤田幸也
26	福岡	27	執行謙二
27	福岡	27	佐々木郁夫
28	福岡	28	吉本幸治
29	中四国	28	吉本代聡
30	中部	29	荒巻卓博
31	福岡	29	森明彦
32	東京	29	日高雄三郎
33	福岡	30	尾籠博光
34	東京	30	坂本格
35	福岡	31	森田昇
36	佐賀	31	小林元太
※37	東京	33	勝連治
38	福岡	34	永田八栄
39	佐賀	34	中里栄介
40	長崎	34	松藤祐次郎
41	東京	36	諸岡健雄
42	東京	38	高井良輔
43	福岡	39	古賀篤
44	北海道	41	草場鉄周
45	福岡	41	川野武志
46	福岡	42	楠田大蔵
47	東京	43	深野章
※48	福岡	44	渡邊如心
49	福岡	45	橋本道成
50	中四国	45	関太一
51	東京	47	浅枝謙太
52	東京	47	中嶋雅宏
53	東京	50	山口雅彦
54	東京	50	大津良太
55	東京	50	福嶋智史
56	東京	57	竹下宏
57	東京	59	尾家杏奈
58	東京	60	岩崎里子
59	関西	61	佐伯洋輔
60	関西	64	廣田律

※新任役員

(敬称略)

回生代表世話人

(令和6年9月現在)

福岡支部回生代表世話人						
回生	氏名					
1						
2	石安	橋恒	義好	昭太郎	中大	幸清
3	日野	順	二治	高小	吹原	大兼
4	関野	尚保	正豊	永野	野島	正利
5	野田	英	喜明	中重	梅野	正裕
6	松本	克和	己毅	夫長	谷川	正生
7	近藤	井英	哲二	古箱	田山	浩邦
8	城戸	本	善彦	江吉	藤松	宏茂
9	橋本	里	和	梅	野	正
10	今野	一	瀬	夫	長	谷
11	松田	福	井	英	哲	二
12	中河	赤	源	務	福	山
13	赤	源	務	福	山	明
14	横橋	山本	晴和	元	明幸	武高
15	一ノ瀬	古田	善彦	江吉	藤松	宏茂
16	古賀	小	山	佳	秀	矢加
17	実藤	佐々木	頭修	秀	隆	岡
18	江猪	佐藤	田	昇	敬	安渡
19	30	森坂	田	源	一郎	永邊
20	31	秋津	福	一	宏	福
21	32	野田	平	長	憲	嗣
22	33	富田	上	行	孝	志
23	34	兼川	高	陣	内	幸
24	35	本	橋	出	熊	谷
25	36	北	森	山	丸	高
26	37	熊	植	高	貴	寛
27	38	千代	佐	藤	孝	志
28	39	橋	井	上	朝	之
29	40	岩	尾	足	達	希
30	41	山	下	二	宮	彬
31	42	二	宮	彬	村	上
32	43	二	宮	彬	村	上
33	44	二	宮	彬	村	上
34	45	二	宮	彬	村	上
35	46	二	宮	彬	村	上
36	47	二	宮	彬	村	上
37	48	二	宮	彬	村	上
38	49	二	宮	彬	村	上
39	50	二	宮	彬	村	上
40	51	二	宮	彬	村	上
41	52	二	宮	彬	村	上
42	53	二	宮	彬	村	上
43	54	二	宮	彬	村	上
44	55	二	宮	彬	村	上
45	56	二	宮	彬	村	上
46	57	二	宮	彬	村	上
47	58	二	宮	彬	村	上
48	59	二	宮	彬	村	上
49	60	二	宮	彬	村	上
50	61	二	宮	彬	村	上
51	62	二	宮	彬	村	上
52	63	二	宮	彬	村	上
53	64	二	宮	彬	村	上
54	65	二	宮	彬	村	上
55	66	二	宮	彬	村	上
56	67	二	宮	彬	村	上
57	68	二	宮	彬	村	上
58	69	二	宮	彬	村	上
59	70	二	宮	彬	村	上
60	71	二	宮	彬	村	上
61	72	二	宮	彬	村	上

東京支部回生代表世話人						
回生	氏名					
1						
2	加藤	勝文	一	郡	透	
3	柳	昌	憲			
4						
5						
6	鹿毛	剛	山ノ内	盛	光	
7	武藤	正克	之	大	石	弘
8	井	樋	之			
9	星	野	英	東	戸	澤
10	橋	本	伯	信	二	真
11	佐	柳	本	雄	章	昌
12	林	二	章			
13	柳	山	寿	夫	阿志	雄
14	久保	田	宙	生		
15						
16						
17	中藏	本	祥	一	安	永
18	國	守	俊	昭	宮	本
19	安	友	秀	世	高	橋
20	渡	部	政	信	河	島
21	中	村	尚	昭	松	村
22	吉	田	清	隆	都	合
23	橋	本	良	幸	二	又
24	田	中	浩	一	篠	原
25	古	橋	宏	明		
26	古	川	幸	稔	諸	岡
27	高	木	裕	康	古	賀
28	日	高	雄	三	大	坂
29	唐	澤	達	信	也	本
30	北	内	山	修	造	大
31	木	内	大	記	阿	高
32	工	藤	宏	郁	野	高
33	堀	山	達	也	真	榮
34	洞	幸	司	松	本	義
35	植	木	正	光	高	井
36	福	加	藤	寛	二	玉
37	白	木	淳	二	相	見
38	清	田	陽	司	章	山
39	秋	本	見	伸		
40	中	村	雄	一		
41	宮	田	知	明	伊	藤
42	浅	泉	建	太	中	嶋
43	牟	田	秀	俊	吉	岡
44	山	口	雅	彦		
45	大	津	良	太	行	時
46	喜	多	健	人		
47	梅	井	正	彦	大	神
48	田	邊	裕	貴	椿	征
49	山	本	航	平	五	十
50	光	安	麻	理	安	丸
51	石	田	大	典	宮	尾
52	廣	兼	佑	亮	中	島
53	城	戸	祐	亮	尾	家
54	畔	柳	駿	一	三	原
55	野	本	圭	一		
56	與	島	仙	太	山	本
57	西	村	匠	平	舜	介
58	川	野	秀	太	坂	口
59	富	永	勇	貴	上	田
60	入	江	啓	介	古	川
61	平	松	昂		白	地
62	石	川	惣	一	杉	原
63	下	山	拓	光	山	崎
64	坪	山	倫	関	理	一
65	崎	原	大	暉	児	島
66	合	原	崇	生	金	子
67	伊	藤	青	唯	山	之
68	杉	本	青	唯	山	之

福岡支部職域代表世話人	
福岡市役所	
31回生	秋山 仁孝
九州電力	
37回生	平野 長暁
西日本鉄道	
36回生	上野 潔
福岡県庁	
38回生	豊村 謙治
福岡銀行	
55回生	豊田 晋司

(敬称略)



2023年学生懇親会
コロナ禍で会うことが許されなかった
同窓生が集結！九州や北海道からもこの
日のため東京に来た学生もいました

大津良太 (51回生)

東京支部 副支部長

2024年新人歓迎会 兼学生懇親会

新人歓迎会は、東京支部の学生向けイベントの一つとして、永きにわたり大学1年生を歓迎対象、大学二年生と

同窓会役員などを歓迎する側として、例年6月に開催をしてきました。

コロナ禍で三年間実施ができずにおりましたが、昨年は四年ぶりに大学生全学年を参加対象とし、「学生懇親会」として実施。総勢100人を超える規模の会となり、大盛況のうちに幕を閉じました。

複数学年が集う会が好評だったこともあり、本年は新一年生（主に72回生）を歓迎する会として、在学中に関わりのあった学年（71回生、70回生）

に声をかけ、合計3学年プラス同窓会役員数名と幹事数名、合計50名で、9月29日（夏休み最終日）に銀座にて会を実施しました。

同窓会や東京支部の活動の紹介、75周年記念事業の状況報告に始まり、各学年からのプレゼンテーションや72回生の思考廻廊お披露目会で盛り上がり、最後は恒例の校歌斉唱、そして写真撮影を行い、無事終了となりました。



2024年新人歓迎会兼学生懇親会



来年以降も学生主体の会を基本としつつ、附設塾など東京支部の他のイベントとのコラボレーションなどより充実した企画を検討、実施して行きたいと考えています。

【ご連絡】

毎年実施しております、「就職支援セミナー」ですが、事務局の人材不足などが原因で、今年の実施が叶いませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。

大学生、大学院生からは個別に多くの相談が寄せられており、それぞれ旧事務局メンバーが窓口となり、OB/OG紹介や、各種相談に乗るなどの対応しております。

セミナー形式復活に向け、尽力して参りますので、引き続きご支援のほどお願いいたします。

令和5年度 進路講座感想集

番	ジャンル	氏名	回生	講演テーマ
①	教育	末次 正	34	半導体とパワーエレクトロニクス、大学教授の仕事
②	行政	野原 諭	34	行政官とは、経済・社会を治す医師である。
③	司法	江藤 靖典	34	検察官の仕事、弁護士の仕事
④	医療	中尾新太郎	40	自分の道は自分で決める
⑤	司法	寶未 隆	40	しくじり弁護士 俺みたいになるな！
⑥	企業・金融	岩波 幸治	40	人や社会を豊かにする「本当の価値」
⑦	医療	吉田 史章	40	患者さんを治すことと医学研究
⑧	司法	宮村 開人	59	若手法律家の実情について
⑨	医療	吉里 美慧	59	計画的偶発的理論 医師7年目の経験から
⑩	医療・生活	大川 孝治	27	教えよう！「医学部」学生生活と卒後人生設計のホンネ
⑪	医療	吉田 茂生	34	一眼科医として30年「大学でしか出来ない！あんなこと、こんなこと」
⑫	行政	榎下 健司	40	日本の生存を確保するための仕事
⑬	医療	古賀 龍二	40	人生は選択の繰り返し～後悔しない人生を送るためには～なせば成る
⑭	飲食業	森 弘太	40	バー“進路講座”へようこそ
⑮	企業・マスコミ	小西 陸斗	59	しくじり先輩!? 俺みたいになるな!?
⑯	企業・マスコミ	尾家 杏奈	59	9割の地味さと1割の華やかさ。広告代理店の営業という仕事
⑰	医療・自衛隊	田中久美子	59	レアキャラ「自衛隊医官」は何をしているか
⑱	医療	江頭 礼華	59	医師になる前に知りたかったこと、医師になって知ったこと

令和5年10月21日



令和5年11月11日



末次 正 先生 (34回生/福岡大学工学部電子情報工学科 教授)

① 教育

半導体とパワーエレクトロニクス、大学教授の仕事

【講義の感想】

大学教授という仕事そのものについてのお話は聞く機会がなく、とても貴重なものでした。普段、論文を英語でどのように書いているのか、論文数について、理系と文系の先生の勤務体系の違いなど、リアルなお話を聞くことができました。また、半導体について、その製造工程やTSVという先生が研究されている最新の技術についての説明はとても分かりやすかったです。お忙しい中来て頂きありがとうございました。

文責：高1D 小林 彩

この講座を受ける前は、大学教授はみんなトップレベルで頭のいい人間になるものだと思っていたが、研究や論文作成には暗記や英語力は不要であり、その分野への探求心が重要であると知り、とても驚いた。また、日本の大学のアメリカの大学よりも良いところが「食べ物おいしい点」とおっしゃっていて、日本の

大学の未来が少し心配になった。

文責：高1C 印丸 皓也



野原 諭 先生 (34回生/経済産業省商務情報政策局長)

② 行政

行政官とは、経済・社会を治す医師である。

【講義の感想】

行政官の様な方の話を聞く機会は中々無いので、聞く前から楽しみだった。ニュース等で見ると遠い世界のように日頃から思っていたモノがすごく近くに感じられて、非常に良い刺激になった。今回の講座のことはこれからも心に留めておこうと思う。

文責：高1D 坂本 陽太

熊本のTSMCの誘致など、タイムリーで身近な話が出て来て分かりやすかった上、興味深かった。また、半導体の話は僕も注目している案件であったので、裏話が聞けてとても面白かった。僕は国家と民間では考えが全然違うと思っていたが、思い切った決断力など、いわゆる「起業家精神」は官僚の大事だと知っ

た。一つのニュースが次のアクションを生む！

文責：中3B 武谷 貫汰



江藤 靖典 先生 (34回生/弁護士法人日野総合法律事務所)

③ 司法

検察官の仕事、弁護士の仕事

【講義の感想】

興味はあったものの身近ではなく、なかなか実情を知ることができなかった検察官という仕事について詳しく知ることができた。特に、法曹三者の仕事の違いやそれぞれの特色、性格による向き不向きについての話は法律家に興味を持っている人やそれを目指す人にとって非常に価値のある話だったと思う。働き方や労働環境など、現場にいた人でないと知りえなかった有

益な情報についても知ることができた。法律家がそれぞれ違う形で人々を守っているというその心強さと、法律家への憧れが増したと同時に、法律家を目指す際には、人の人生を背負うという大任を拝することへの自覚と心持ちが必要だとも感じた。将来を見据えた方向性の選択においてぜひ参考にしたいと思う。

文責：高1A 井上 紗花



中尾 新太郎 先生 (40回生/順天堂大学 医学部 眼科 主任教授)

④ 医療

自分の道は自分で決める

【講義の感想】

先生の研究内容について図表や動画とともにまとめられていてとても分かりやすく、また今習っている生物の分野にも関連の深いものであったため、とても面白く感じた。医師という職業について詳しく知ることができ、医者という進路に進む決定打になった。最後のメッセージをもとにこれからの人生をより具体的に設計していきたい。

文責：高1A 中川 敬晴



寶来 隆 先生 (40回生/弁護士 (福岡県弁護士会所属))

⑤ 司法

しくじり弁護士 俺みたいになるな!

【講義の感想】

多くの具体例とユーモアを交えた話でとても聞きやすかった。司法についての理解が深められたことに加えて、日常に潜む「落とし穴」に落ちないためにも、法律の知識は必要なものだと感じた。歳をとるにつれて自分のことがよくわかってくるので、その時々に応じて進路変更という手もある、という話には柔軟性の大切さに再度気付かされた。

文責：高1A 佐藤 航

暴力団を社会から排除しようという現在の日本において、依頼人を勝たせるという弁護士の使命をしっかりと果たすことが弁護士になる覚悟を決めるといことなのだろうと思った。また、検察官、裁判官についても強い信念が必要であると実感した。

文責：中3D 工藤 公太



岩波 幸治 先生 (40回生/住商アグリビジネス株式会社 副社長執行取締役 (住友商事株式会社 アグリサービス事業部参事))

⑥ 企業・金融

人や社会を豊かにする「本当の価値」

【講義の感想】

今回ご講演いただいた農業に関する分野は、私たちが生きていく上で不可欠であり今後さらに重要性を増してくるものだと思います。アグリビジネスという事業において、現地の方々と協力しお互いの価値観や多様性を尊重しあいながら協働することの大切さを学びました。真摯に謙虚さをもって相手や仕事に向きあうこと。このことを心に留め、日々を過ごしていきたいと思っています。このたびはお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

文責：高1D 知花 はづき



吉田 史章 先生 (40回生/久留米大学医学部生理学講座 脳・神経機能部門)

⑦ 医療

患者さんを治すことと医学研究

【講義の感想】

私はこれまで、医者になりたいという気持ちはあったが、ただ漠然とそう思っただけだった。今回、たくさんの面白いお話の中で、私が特に興味を持ったのは、「ブレインマシンインターフェース」という研究である。脳での思考がそのままコンピューターに伝わり、動作を介さずに機械などを動かせるという画期的な技術で、科学の進歩を実感し、とても感銘を受けた。これまで、留学などは考えていなかったが、今回の話を聞いて、そういった選択肢もあることを知り、新たな選択肢の幅が広がった。また、今回の話を聞いて、どういった科に進み、どういった病気の患者さんを治していきたいのか真剣に考えるようになった。この度はお忙しい中、進路講座に来ていただき、貴重な

お話をありがとうございました。さらなるご活躍をお祈りしています。

文責：高1C 松山 凜香



宮村 開人 先生 (59回生/長嶋大野常松法律事務所弁護士)

⑧ 司法

若手法律家の実情について

【講義の感想】

裁判官としての仕事ややりがいがだけでなく、私生活についても話してくださったのが、とても参考になった。また、様々な点で弁護士と比較でき、どちらも自分が思っていた以上に多様な選択肢があるんだと知ることができたのが、とても興味深かった。

文責：高1E 湊 美優

とても現実味を帯びていて、そして分かりやすい経験談を交えた法曹としての仕事の内容の説明は非常に興味深く、面白かったです。進路に悩んでいた僕にとって、新しい道をまた一つ拓くことができました。法曹の仕事の辛い面から意外な面までの全てが僕の好奇心をくすぐりました。

文責：中3D 森 暉



吉里 美慧

先生 (59回生/日本赤十字社 福岡赤十字病院 産婦人科)

⑨ 医療

計画的偶発的理論 医師 7年目の経験から

【講義の感想】

大学に入ってから、医師になるまでの具体的な流れが分かってこれから自分の進路を決めていく上での参考になりました。部活動に入った方が良いことを知りませんでした。そして医師になって医局に入ってから転勤が多く多忙であることを知りました。そして産婦人科は4つに分かれており、妊娠・出産だけの治療を行うのではなく、癌の治療や不妊治療も専門であることを知り、女性が出産される前から死ぬまでの人生全てに関係することが分かりました。自分は癌に興味があるので、特に子宮頸がんなどの治療に興味があり、産婦人科に進みたいという気持ちが強まりました。そして、女性医師の方が需要があるのではないかと思っていたのですが、意外にも男性医師の方が需要があることを知り驚きました。今回のお話のように自分

の興味のある科だけではなく、いろいろなお話を聞いて進路を決定して行きたいと思いました。

文責：高1E 武内 梓



大川 孝浩

先生 (27回生/久留米大学医療センター (前病院長) 整形外科・関節外科センター教授)

⑩ 医療・生活

教えよう!「医学部」 学生生活と卒後人生設計のホンネ

【講義の感想】

現役の医者で、かつ医療現場を指導するような方に、“現在の医師”というものについて話を伺うことができたのはとても参考になりました。また医学生生活にもスポットを当てて詳しく話していただいたことで、自分にとって進路の概形が明確になりました。この度はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

文責：高1E 高橋 悠真

大学生や医師の生活について、学生や雇われ側だけでなく、教授、管理側での視点でお話を聞いたのがとても新鮮でした。医学部に入ってから基本的な仕組みから、病院の有給制度まで、医者という職業の実態を事細かに知れた事で将来について地に足をつけて考える良いきっかけになりました。又、お金についてか

なり赤裸々に語られていたのが印象的でした。

文責：高1C 松田 華奈



吉田 茂生 先生 (34回生/久留米大学医学部眼科学講座 教授)

⑪ 医療

一眼科医として30年「大学でしか出来ない!あんなこと、こんなこと」

【講義の感想】

現在様々な技術が進歩・導入され、眼科学が大きく発展しているというお話がとても面白かった。次世代に残すことや研究などの大学の良さを初めて知り、大学で働くことに非常に興味をひかれた。今回の講座で今まで知らなかったことをたくさん得ることができた。貴重なお話を有難うございました。

文責：高1B 早田 智

自分は眼がすごく悪いので昔から眼科に興味がありました。今回は目の仕組みや眼科で学ぶ内容などをメインに生徒への質問を交えながら話して下さったのですごく分かりやすかったです。最新の機器や世界規模での交流による技術の進歩など、眼科は今急速に発展しているが、それでも疑問がまだまだあり、それを探

求する面白い学問であると知り、ますます興味が湧きました。

文責：高1E 河津 健利



榎下 健司 先生 (40回生/外務省 総合外交政策局 参事官)

⑫ 行政

日本の生存を確保するための仕事

【講義の感想】

国際的な仕事にもともと興味があったものの、実際には外交で何をしているか知らなかったため、今回その最前線で仕事をされている方の話を聞くことができ、よかったと思う。

「日本の生存」をも脅かすような国際的な課題に直面した時、危険から自国を守るために、また、自国の繁栄のために必要な国際環境を作るため、同盟を組んだり、経済制裁を行ったり、人的交流を行ったり、そして政治的な側面以外でも多くの努力がなされているということは意外であり、大変そうだと感じたのと同時にやりがいの大きさも感じられた。

私は今まで「外交」ということが何をやっていることなのか分からなかったが、今回の講座を受けて、日本の魅力を発信するということが以上に「日本の生存を

確保する」ために必要不可欠な仕事なのだと感じた。国際的な視点で問題に向き合うことの大切さが改めて感じられたと思う。

文責：高1A 王子 愛惟



古賀 龍二 先生 (40回生/慶友整形外科病院 副院長)

⑬ 医療

人生は選択の繰り返し ～後悔しない人生を送るためには～なせば成る

【講義の感想】

古賀先生がこれまで様々な選択をしてこられた時の考え方がすごく参考になりました。自分も大きな選択を迫られた時に後悔ができるだけ少ない選択を自分の

意思で行うように心がけようと思います。また、日頃から周囲への感謝、挨拶、笑顔を意識して、どんなことにも、謙虚な気持ちを持ち、楽しみたいです。貴重なお話有難うございました。 **文責：高1A 今村 海斗**



森 弘太 先生 (40回生/酒飲めフレンチbisとろタカギ/Ba CLURICAUNECLURICAUNE/咖喱の多か喜家 代表)

⑭ 飲食業

バー“進路講座”へようこそ

【講義の感想】

今までの自分の考え方を全て壊されるような講義でした。僕は今まで進路に法曹の道しか考えていなかったのですが、その考えが危険かもしれないと分かりました。又、選択というのは他の道を切り捨てる事だとうかがい、今までの選択で違う方を選んでいたら……と思い、これからの選択はもっと慎重になるべきだと考えました。今回の講座で学んだ事を忘れずに、これからの人生をがんばろうと思います。今回は本当にありがとうございました。 **文責：高1C 河野 朔斗**



小西 陸斗 先生 (59回生/朝日放送テレビ株式会社 アナウンス部)

⑮ 企業・マスコミ

しくじり先輩!? 俺みたいになるな!?

【講義の感想】

アナウンサーの仕事の幅広さやテレビを含むマスメディアの現在の立ち位置について、知らなかったことをたくさん教えて頂きました。

特に情報を発信する側としての責任の重さについてのお話には、お仕事に対する真摯な姿勢が感じられました。

また、私たちと同じ学生生活を過ごしたからこそそのアドバイスはとても響きました。

目標の大切さや今とこれからの時間の使い方や心構え、そして何より自分のことは自分で決めることの重要さなど、これから役立てようと思うことを多く聞くことができました。

内容は当然のこと、声のトーンや間の取り方など流石お話のプロだなと感じました。

何より色々なことを学べただけでなくとても楽しい講座でした。

貴重なお話をありがとうございました。

文責：高1D 福嶋 天音



尾家 杏奈 先生 (59回生/株博報堂 営業局 ペットフード/ヘアケア製品担当)

⑯ 広告・マスコミ

9割の地味さと1割の華やかさ。広告代理店の営業という仕事

【講義の感想】

お話を聴講するまでは、「営業」と聞くとセールスマンのイメージが強かったのですが、生活定点のような大衆の需要の分析を経て、言語の壁やCMを作る上での問題点などの様々な壁に当たりながら、生活者に寄り添えるようなCM、デザインを作成されていることを知って、営業の仕事にとっても興味が湧き、進路の視野が広がりました。お忙しい中、大変貴重なお話をありがとうございました。

文責：高1D 田中 結



田中 久美子 先生 (59回生/防衛医科大学校病院 耳鼻いんこう科学講座)

⑰ 医療・自衛隊

レアキャラ「自衛隊医官」は何をしているか

【講義の感想】

私の尊敬する人に元自衛官の方がいるので詳しく知ってみたいという思いでこの講座を選びました。1日のスケジュールや医師としてのウェイトが大きい仕事、自衛官としてのウェイトが大きい仕事、実際の訓練の映像など経験を交えた豊富なお話をお聞きすることができました。大変な仕事であると同時に尊敬されるべき仕事でもあると改めて感じました。今回はご講演ありがとうございました。

文責：高1A 菊池 然介

防衛医科大の詳しい話が聞けたことがうれしかった。数々のミッションをこなしていく自衛官はカッコいいと思った。色々刺激的でした。書ききれない。医師ならではの、必修の多さ、体力の必要性、仲間の親密感など、気になっていたことがほとんど聞けた。なかなか仕事内容や勤務時間はハードだなと思うがそれ

で得られることは多いのだと思う。将来どうなるかわからないから、自分の気持ちに任せてみるのもいいかなと思った。

文責：中3A 梅原 望



江頭 礼華 先生 (59回生/九州大学医学部大学院 呼吸器科)

⑱ 医療

医師になる前に知りたかったこと、医師になって知ったこと

【講義の感想】

医者になって良かったこと、楽しいことだけではなく、なかなか聞けない苦労したことも伺えて勉強になった。また、循環器内科の専門科としての仕事の話も興味深かったが、それに加えて質疑応答の際に質問した生徒それぞれの希望の専門科の特徴なども教えてもらえて、質問した生徒の一人である自分としても非常に有難かった。今回の講座はこれからの進路決めできっと役立つと思う。多忙の中貴重なお話聞かせていただきありがとうございました。

文責：高1C 前原 優月





バスケ仲間と

なか むら こう せい
中村 孔星

(中学45回生 高校67回生)

出身

福岡県柳川市

学歴

東京大学理科一類→東京大学工学部電
気電子工学科→東京大学大学院工学系
研究科電気系工学専攻

email : konami130114@gmail.com

選択の先に広がる世界

こんにちは。中学45回生、高校67回生、東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻の中村孔星です。現在は修士1年生で、大学では半導体回路設計に関する研究を行いつつ、就活を見据えてインターンを行うという日々を過ごしています。自分の専門を深め、進路を選択するという事、そしてその専門の垣根を超えて繋がることのできる附設の友人達についてお話ししたいと思います。

これまでの大学生活を振り返ると、進路選択の繰り返しでした。東京大学では学部2年の夏に進路振り分け(進振り)が行われ、3,4年で所属する学部学科を選択します。僕は工学部までは決めていて、その中で建築、機械、電気の学科で迷っていました。結局、社会を急激に変化させ得る力を持つコンピュータサイエンスに興味を持ち、電気電子工学科に進学しました。進学先では電気と情報について幅広く学び、半導体、通信、AIなど様々な方向に興味が広がっていきました。そして3年生の冬に行われる研究室振り分けで、再び選択を迫られました。この時も逡巡し、業界全体の動向や日本の立ち位置、海外就職の可能性など、進振りの際には考えもしなかった切り口や解像度で、自分の進路について深く考える必要がありました。そして最後は、自分の興味と直感を信じて半導体回路設計を行う研究室を選び、今に至ります。

大袈裟に語りましたが、僕はこのような選択を繰り返すことで、新たなことを学べる環境に身を置き続けることができました。時には自分が選ばなかった方の選択肢に対して、未練や諦めを感じることもあるのですが、だとしても、選択とは決して自分の世界を狭めてしまう行為ではないと思っています。寧ろ、世界をさらに広く、深く捉えるためのツールを提供してくれる機会ではないでしょうか？

大学では半導体回路設計に関する理系的な知識に加え、技術革新や社会需要の変化などの歴史的観点、各企業や各国の市場におけるパワーバランスなどの経済的観点、安全保障や知的財産権などの政治的、地政学的観点から半導体業界について幅広く学んでいます。逆に言えば、自分の専門分野を通して、歴史、経済、政治、さらには社会全体を見ていることになります。

このように専門と全体とは単なる包含関係にあるのではなく、相互作用的なものだと思っています。だからこそ、自身の専門を深めることは、社会全体見通すためにきっと必要であるし、同時に、社会全体について知ることまた、自分の専門を知るために必要なはず。このようなプロセスで得た自分の理解を軸に、異なる分野で活躍する友人達と議論することで新たな発見に出会うことができます。それはとても刺激的な瞬間で、そうして深まった友情は本当にかげがえのないものです。このようにして大学では、附設からの友人も含め、多くの友人達と心地の良い日々を過ごしています。

特に附設時代の友人達とは、今でも大学の体育館で定期的にバスケットをし、附設時代の昼休みのような時間を今でも共有しています。また、福岡に住んでいる友達とも、自然と連絡を取り合っ集まったり、旅行したりしています。卒業生、在校生の多くが実感していることだと思いますが、附設生活という時間と価値を共有した友人達は、本当に大切な存在です。お互いに異なる進路を歩んでいるにもかかわらず、分かり合い、支え合い、心の底から笑い合うことができる。本当に幸せなことだと思います。

現在、僕は再び就活という選択の前に立っていますが、これからも友人達や周りの方々への感謝を忘れずに、自信を持って進んでいこうと思います。最後になりますが、同窓会報に寄稿する機会を頂けたこと、皆様にここまで読んで頂けたこと、本当に感謝いたします。ありがとうございました。



附設時代からの親友たちと



社会人となった友人達と



萩原 芽衣

(中学47回生 高校69回生)

東京藝術大学美術学部デザイン学科
3年

instagram : @mei_hgwr_5043

大学生活の紹介

附設同窓会生の皆様、初めまして。69回生の萩原芽衣と申します。現在、東京藝術大学美術学部デザイン学科に在籍しております。附設生といえば医学部や法学部等で活躍される方が多い中、「美術学部」を選択するという珍しい選択をした私ですが、温かい目で読んでいただけると幸いです。

私は、中学校3年次の卒業制作で、F30号のキャンパスのアクリル絵画を制作しました(本作品は、現在、無言館という長野県にある美術館に展示していただいております)。この制作をきっかけに美術への興味が高まり、國吉先生と、当時在籍されていた江上寛二先生に、東京藝術大学を目指したい旨を打ち明けたところ、「とりあえずデッサンしてみてから決めなさい」と美術予備校の案内を頂き、体験に行きました。その体験で一瞬にしてデッサンの虜になり、東京藝術大学のデザイン学科を目指すことを決心した私は、高校3年間は、放課後に美術学院に通う日々を過ごしました。

しかし、現役での合格は叶わず、「私がサポートをするよ」と言ってくれた姉・萩原美咲(67回生)のおかげで、上京して東京の美術予備校に通うことになりました。しかし上京して間もなく、コロナによって諦めていた姉の留学が実現できることになり、私の孤独な東京浪人生活の幕開けとなったのです。1日中イゼルと向き合う日々で、1週間で買い物時のレジでしか発声できなかったこともあり、話すことを忘れてしまいそうな恐怖すら覚えました(笑)。それでも周りの生徒に追いつこうと、毎日居残りをして練習を重ね、なんとか運良く合格することができました。

東京藝術大学のメインキャンパスは、上野公園の中にあります。都会の喧騒から離れ緑に囲まれた心地よいキャンパスです。それぞれの個性を重んじる風潮で、やりたいことに挑戦できる、大変自由な雰囲気です。大学の課題は、1、2ヶ月に1回の頻度で、「川沿いを歩き、川をテーマにデザインしなさい」や「世の中に対して拳を上げるのではなくデザインを用いてチャームングに意を唱えなさい」といったような課題が与えられます。迫る提出日と課題の抽象性に苦しめられながら制作しています。夜通し制作する事もありますが、仲間から学ぶことも多く、有意義な時間を過ごしています。

学業以外の時間は、スターバックスでアルバイトをしています。スターバックスには、全国の従業員から選ばれた18名が「スタバGAHAKU」として、店内のオフリングボード(商品をおすすめするチョークアート)の見本を制作し、描き方を指導する、という制度があります。その「スタバGAHAKU11期生」の南東京エリア代表になり、バリスタ業務の傍ら黒板ボードを描いています。さらに今年は、「秋と一杯のコーヒー」をテーマに描いて応募したイラストを、スターバックスカードのデザインに採用していただき、2024年9月末から全国の店頭にて販売されました。接客業務の難しさを体感しながら、得意のデザインを生かす機会も多くいただき、良い勉強になっています。

東京には附設時代の仲間が多く、気軽に声をかけ合って一緒に食事をしたり、休日は旅行に向いたり、忙しい日々の癒しになるありがたい存在です。お世話になった方々に、何らかの形で恩返しできるよう、今後も精力的に探求し続け、引き続き学生生活を頑張っています。



デザイン科1年次の名物課題
「100枚ドローイング」にて制作した作品



よし とみ ちから
吉富力良
(中学47回生 高校69回生)

一橋大学商学部4年

1121289s@g.hit-u.ac.jp

大学での成長

初めまして。高校69回生の吉富力良(ちから)と申します。現在は一橋大学の商学部4年生として、大学生生活最後の年を過ごしております。この度、同窓会誌への寄稿という機会をいただけたことを大変光栄に感じております。今回は私が一橋大学で何を学び、この4年間でどのように変化したのかを中心に大学生生活の様子をお伝えしたいと思います。拙い文章となりますが、ぜひ最後までお付き合いください。

一橋大学の大きな特徴としては、商科大学が発展した大学であることです。一橋大学のキャッチフレーズが「captains of industry」であり、日本経済の成長を牽引するような人材育成を目的として授業などが行われています。近年では学部を新設し、数理的なデータ処理に長けた人材育成にも力を入れています。特徴としては、少人数制の授業を通じた学生と教授の密接な交流や、実務的な視点を持つ教育が挙げられます。また、国際交流や多言語教育も推進しており、グローバルな視野を持った人材の育成に力を入れています。卒業生には多くの著名な企業経営者や政策立案者がおり、社会的影響力のある人材を輩出している点でも有名です。キャンパスは落ち着いた環境にあり、学生は勉学に集中できる一方、東京の中心部にもアクセスが良く、都市の利便性も享受できるのが魅力の一つです。

私が所属する商学部では1年生の頃より全ての生徒が少人数のゼミナールに配属され、輪読を通じて学びを深めていきます。学生の中には意外にも、留学生や帰国子女が多く、ゼミナールでも様々なバックグラウンドを持った同年代の人たちと切磋琢磨してきました。時には夜遅くまで議論を重ねたこともあったくらい、一橋大学生がゼミナールに注ぐ熱量は大きいものです。

また、個人的には公認会計士の資格試験に挑戦しました。附設での6年間でも勉強面はたくさん鍛えられましたが、人生で1番勉強したと言えるほど、朝から夜まで電卓とともに勉学に励みました。「人生の夏休み」や「モラトリアム」などと謳われる大学生活において、一日中部屋の中で過ごしている自分が嫌になり、塞ぎ込むこともありましたが、附設時代の友人たちが心配してわざわざ九州から東京まで会いに来てくれるなど、附設時代の縁に救われた時期でもありました。そのおかげもあり、目標を見失わず、無事に試験には合格できました。

現在では大学に通いながら、就職先の監査法人にてインターン生という形で働かせていただいております。偶然にも、就職先でもたくさんの附設OBの方々との出会いに恵まれ、可愛がっていただいております。インターン先では財務諸表を見て企業の経済的な健康状態を把握・分析したり、異なる業界の仕組みや課題に深く触れたりすることができ、駆け出しの会計士としてとても刺激的な日々を過ごしています。大学では、主にゼミナール活動に勤しんでいます。3年生時にはビジネスコンテストに参加し、現在は卒業論文の執筆に取り掛かっています。一筋縄ではいかない研究活動ですが、優秀な仲間たちに囲まれながら学べる環境に感謝をして、残りの大学生生活を謳歌したいと思っております。

社会人になろうとしている今、朝から夜まで教材研究や大量の採点、生徒指導に部活指導などで忙しくされていた、数学科の細野先生をはじめとする中学47回生・高校69回生の学年団の先生方、心身ともに鍛えていただいた剣道部の池田先生や國吉先生の偉大さを改めて感じ、頭が上がらない思いでいっぱいです。卒業してからなかなか久留米に顔を出すことが叶っておりませんが、次に先生方に会う時には胸を張って会えるように今後も精進してまいります。



なか やま かん
中山 寛
(中学48回生 高校70回生)

熊本県熊本市出身
熊本大学医学部医学科2年

大学弓道生活



九山での部員全員の集合写真

初めまして。中学48回生、高校70回生で現在熊本大学医学部

医学科2年の中山寛です。附設での生活を振り返ると中高6年間寮生活を送り、陸上部に所属して多くの仲間に巡り合えました。楽しくまだ大学受験を意識していなかった中学時代から皆で切磋琢磨して合格を目指した高校時代にかけて様々な思い出が残っています。大学に入学した時は同学年の皆とは少し疎遠だったのですが、成人式同窓会で再会して再び長期休みで交流するようになりました。

ここからは現在の熊本大学での弓道生活を紹介させていただきます。

コロナ禍がほとんど落ち着いたことで、大学に入った当初から多くの部活動が活動を再開しており、様々な新歓に行きました。上で述べたように中高と陸上部に所属していましたが、高校1年の冬に脊椎分離症によって背骨を疲労骨折してしまいました。そのトラウマがあり大学では激しい運動はしないと決めていた中で弓道部に惹かれました。その弓道部に入部して早1年半、私は現在弓道部の主将を務めています。弓道部の同期はほとんどが初心者で当初は本当に全員苦労しましたが、現在は皆で幹部として部をまとめています。附設には弓道部がないので馴染みがありませんでしたが、実際にやってみると奥が深く、道場に足を運ぶ毎日です。2023年に第2期が放送されたツルネという弓道のアニメを見たことで弓道に興味を湧いた方もいるのではないのでしょうか。

弓道は、足踏み（立つ位置を決める）、胴造り（正しい姿勢を整える）、弓構え（弦に指をかける）、打ち起こし（弓を持ち上げる）、引分け（弓を引く）、会（狙いを定め安定させる）、離れ（矢を射る）、残心（矢を射た後の姿勢）という8つの基本動作である射法八節に沿って行います。流派によって正面打ち起こしと斜面打ち起こしがあり、熊本大学医学部弓道部は正面打ち起こしを採用しています。この射法八節を行うだけでも最初は苦労し残念（4本矢を射て一本も的に当たらないこと）が当たり前だったのが、最近では皆中（4本矢を射てすべての当たること）も偶に出来るようになり自分自身の成長を感じるようになりました。ただ今年の1月から早急に苦しんでおり、少しずつ治ってきたものの思い通りの射が出来ていない現状です。早気とは意図したタイミングより早く矢を放ってしまうことで、上の射法八節の中で会がほとんどない状態に当たります。野球で言うイップスに近いものだとよく言われます。ただ様々な対策を取っていく内に早気は精神的な原因が大きいのだと気づき、精神面を鍛えるいい機会だと前向きに捉えることにしました。

主将をしていると大会がある度に他大学との交流の機会があります。4つの大学で競い合う四大戦から西日本の全ての医学部弓道部が参加する西日本医科学生体育大会に至るまで規模は様々ですが、他大学の幹部の方たちへご挨拶する時に附設の同級生に再会することがありました。例えば現在九州大学医学部弓道部の主将は溝口友紀子さん(70回生)で、年に少なくとも3回程度は顔を合わせる機会があります。他大学の主将が同級生というのはなぜだか感慨深く、また交流が円滑に進められるため非常に有難いことだと感じています。他にも顔を拜見したら見たことがある先輩方や寮生だった時の後輩などに再会し、大会へ行く度に附設のことが思い出され懐かしさを覚えています。

このように弓道を通じて附設同窓会生の方々のご縁をありがたく感じる機会が多々ありました。またこれから先弓道以外の様々な場でも同窓会生の方々に巡り合い、人の輪が広がっていくことと思います。この繋がりを大切にしながら附設の卒業生の一員として励んでまいります。拙い文章ではございますが、最後までお読みいただき有難うございました。



西医体での個人戦2次予選

附設高等学校 大学入学試験合格状況

国公立、大学校など合格者数 (単位:人)

2023年度		2024年度	
東京	37	東京	32
九州	45	九州	33
京都	11	京都	10
熊本	13	佐賀	16
佐賀	7	熊本	12
長崎	6	東京工業	7
一橋	5	大阪	7
東京工業	4	長崎	7
防衛医科	9	防衛医科	10
その他	48	その他	47
合計	185	合計	181

※その他に、自治医科、産業医科、大学校(防衛医科除く)を含む

年全体に良い影響を与えたと考えられます。学年全体に良い影響を与えたと考えられます。学年全体に良い影響を与えたと考えられます。

現役の卒業生は、中3のスタート時に緊急事態宣言による休校期間があった世代でした。一般中学からの入学組とともに始まった高校生活も何かと行事・行動が制約された学年でした。ただ、ここ数世代とは異なり、制約がある中でも文化祭や体育祭、修学旅行などの行事が全て無事に行われた。久々の世代でもありました。生徒・担任団ともに行事・イベントに熱中するタイプの学年で、その分今までの学年と比べると受験勉強へと重心を移動する時期がやや遅れている懸念がありました。しかしイベント好きな気質のある学年はいざ勉強をスタートするとここからの勢いは目を見張るものがあり、結果的には共通テストの時点で例年と遜色ないレベルに仕上がりました。2次試験でも好結果を残してくれました。中でも東京大学には現役合わせて32名が合格し、そのうち25名が現役での合格と立派な結果を出してくれました。数学・生物オリンピックなどにおける活躍者も多く、厳しい条件の東京大学の推薦入試でも2名が合格しました。特に秀でた才能を持つ生徒が複数おり、学年全体に良い影響を与えたと考えられます。

東京大学
合格者

2024年度
32名

うち25名が
現役合格

コロナ禍の受験をふりかえって

国公立医学部医学科合格者数 (単位:人)

2023年度		2024年度	
九州	29	九州	22
熊本	10	佐賀	14
佐賀	6	熊本	9
長崎	4	長崎	6
鹿児島	4	鹿児島	4
京都	2	広島	3
広島	2	大阪	2
名古屋	1	東京	1
大阪	1	京都	1
その他	16	その他	17
合計	75	合計	79

※その他に、医科との選択のため、自治医科、産業医科を含む

影響したのとも思われため、この数字の増加に際しては、医学部以外の方面へも生徒の関心が高まっているように感じます。志望学部に関係なく、一緒に頑張るといふ雰囲気も醸成されていると感じています。

今年の国公立医学部医学科(産業医科・自治医科を除く)合格者数は現役合わせて74名。これは全国2位の数字です。そのうち現役合格者数は49名となっており、昨年に比べて6名増で、「現役合格率」でも僅差で全国2位となりました。附設を含めたトップ2校が24%台となり、以下の学校は20%未満となっており、今年も国公立医学部に関しては抜群の結果を残しています。附設はもとよりと医学部志望者が多い学校ですが、現役の卒業生は医学部志望者が例年よりさらに多い学年だったため、この数字の増加に影響したのとも思われため、この数字の増加に際しては、医学部以外の方面へも生徒の関心が高まっているように感じます。志望学部に関係なく、一緒に頑張るといふ雰囲気も醸成されていると感じています。

現役合格者数
(国公立医学部
医学科)

2024年度
49名

全国
2位

「現役合格率」「合格者数」とともに全国2位!

私立大学合格者数 (単位:人)

2023年度		2024年度	
早稲田	32(-)	早稲田	28(-)
明治	27(-)	慶應義塾	22(1)
慶應義塾	25(3)	東京理科	13(-)
中央	25(-)	中央	12(-)
同志社	18(-)	立命館	12(-)
上智	15(-)	福岡	11(6)
東京理科	13(-)	明治	9(-)
法政	10(-)	久留米	7(7)
久留米	9(9)	国際医療福祉	5(5)
その他	62(14)	その他	35(13)
合計	236(26)	合計	154(32)

※(-)の数字は医学部医学科合格者数、(-)は設置なし

分析しています。附設では私立大学の受験者は理系よりも文系の方が圧倒的に多い現状があります。昨年度までの2年間はその中でも文系を選択した生徒が多い学年であったこと、文系志望の浪人生が一定数いたことで、それに比例して私大の合格者数が増加してまいりました。ただ、もっと長いスパンで見ると、現役での進学率が増加していることに伴い浪人生の人数が減少しており、その影響もあって私大の合格者数は減少傾向にあります。次の入試から教育課程が新課程となるため、浪人を避けるために通常より私大の受験が増える可能性があるのでは、と考えていましたが、共通テストで順調に得点できた生徒が多く、国公立大に絞って強気の出願に踏み切った生徒が増えたこと分析しています。

附設では私立大学の受験者は理系よりも文系の方が圧倒的に多い現状があります。昨年度までの2年間はその中でも文系を選択した生徒が多い学年であったこと、文系志望の浪人生が一定数いたことで、それに比例して私大の合格者数が増加してまいりました。ただ、もっと長いスパンで見ると、現役での進学率が増加していることに伴い浪人生の人数が減少しており、その影響もあって私大の合格者数は減少傾向にあります。次の入試から教育課程が新課程となるため、浪人を避けるために通常より私大の受験が増える可能性があるのでは、と考えていましたが、共通テストで順調に得点できた生徒が多く、国公立大に絞って強気の出願に踏み切った生徒が増えたこと分析しています。

私立大学合格者数

2023年度
236名

↓

2024年度
159名

浪人を避ける安全志向はあまり見られず

今後に向けて

高2までは日々の学習を年間5回の定期テストで確認しますが、高3と浪人生希望者は年4回の校内模試を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模範試験で、平均点は約4割、4回平均で5割以上だと、東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学に、東大理系以外は、4割5分以上ではほぼ合格できます。問題作成と採点には、本校入試同様、ほぼ全教員が参加し、成績検討会にも出席します。直接高3の授業を担当していなくても、問題作成と採点を通じて毎年受験生と関わりを持つことになります。自分が担当する学年が高3になったときに、この校内模試に対応できる実力がついていよう、高2以下の生徒の学習指導に生かしていきます。

現役高3(72回生)は、体育科の学年主任を中心に、英数国理社の担任団

が生徒・保護者と綿密にコミュニケーションを取りながら、コロナ禍の高校生活を支えてきました。勉強に対して意欲をなくしがちな時期にコロナのピークが重なったこともあり、通常の学年と比べると受験に対するスタートが遅れている懸念がありました。しかし、学年団と生徒の距離の近さを最大限に生かし、数多くの面談や、放課後のちょっとした会話の積み重ねにより徐々に生徒の入試への意識が高まっていく様子が見え、多くの生徒を希望する大学へ導きました。一方、成績開示を見ると、あと数点足りずに不合格という生徒もおり、受験の厳しさも同時に知りました。これからは、授業と特講で真剣に学び、校内模試で現役が切磋琢磨して実力をつけてほしいと願い、全力で指導に取り組む覚悟です。

進路指導部長 行正 幸司



前田大翔 (73回生)
生徒会長



73回生の附設6年間

この文章を書いている今日、久留米市では福岡県内観測史上最高となる39.5℃を記録しました。年ごとに暑さが厳しくなりますが皆様いかがお過ごしでしょうか。私は、附設高校73回生で生徒会長を務めさせていただきました前田大翔です。私からは、我々73回生がこの6年間どのように学校生活を送ってきたかをお話させていただきます。

私たちが中学1年生の冬、突如として訪れた新型コロナウイルスの流行により学校生活は一変しました。マスクを着用し、ソーシャルディスタンスを保ちながらの授業や行事の制約は、誰もが初めて経験するものでした。初めての中学校生活に期待と不安を抱いていた私たちは、マスク越しに友人との絆を深める日々を送りました。

中学2年生になると、ウイルスの感染拡大はさらに進み、約2ヶ月間の登校停止となりました。自宅学習を強いられ、直接顔を合わせて学ぶ機会が減少し、コミュニケーションの難しさを痛感しました。それでも、私たちはオンラインでのSHRなどで画面越しに励まし合い、少しずつ新しい生活に慣れていきました。

高校になり新しく迎えた仲間たちは約60人と普通の教室には入りきれないほど多かったため離れた校舎に入ることになりました。新しい仲間との交流を深める機会が限られた中で、お互いどうやって信頼関係を築くか模索する日々が続きました。

高校2年生になると、ようやくコロナウイルスが5類に移行し、文化祭や体育祭もコロナによる制約がほとんどなくなりました。内進外進の分けも一切なくなり文化祭では72回生の先輩たちとともに、コロナ前ともコロナ禍とも違う文化祭が始まりました。自分たちで料理をして売るバザーも復活しました。そんな大きな変化に臆することなくむしろ楽しんでいるような72回生の先輩たちの姿に附設生としての気概を感じました。体育祭では、私たちが運営する立場となりみんなが自主的に運営に参加し青春の炎を燃やしました。長い間制約されていた自由が戻り、仲間と共に過ごす時間がどれほど大切かを再認識しました。特に北海道でのスキー研修では、スキーが初めてだという仲間も多く二日間で滑れるようになるのかと初めはみんな不安に思っていました。しかし、二日目の最後みんなで山の上から滑れるようになり麓で顔を見合わせたときの笑顔は一生忘れられない思い出となりました。

そして最高学年となった高校三年生。私たちが運営する最後の行事である文化祭。73回生の特徴でもある全てに全力で臨む姿勢を最大限発揮しました。激流のコロナ禍での経験は、私たちに柔軟性と忍耐力を養わせ、どんな困難にも立ち向かう力を与えてくれたと振り返ることができるようになりました。そして今、文化祭も終え私たちの持つエネルギーを受験という戦いに注いでいます。また、文化祭終了後気合い入れの為坊主（女子はショートカット）にすることは私を含め今年も30名ほどがしており、附設の伝統になりつつあるのではと感じています。

私たちは「和而不同」の精神を胸に、互いの違いを尊重しつつも調和を保ちながら、日々研鑽を積んでいます。この精神こそが、私たちを強くし、成長させる源であると感じています。卒業生の皆様が築かれた伝統と歴史を引き継ぎ、私たちはこれからも新しい時代を共に歩んでいく所存です。これからも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

**高島啓嗣** (73回生)

実行委員長

文化祭は、 価値観に重みを持たせる人生経験を 仲間と一緒に体験できる

文化祭パンフレットの巻頭言として、いくつか草稿を書いていました。そのうち1つを先日偶然見つけました。ボツになった案なのですが、せっかくなので、ここに掲載しようと思います。

さいは投げられました。

いつ、誰の手によって投げられたのか、誰も知りません。

どこへ向かって投げられたのか、誰も知りません。

決定論という考え方があります。自然界の森羅万象は全て自然法則や因果律によって説明できるとする考えで、古代ギリシアのデモクリトスに始まり、ストア派や、カルヴァン派なども、似たような世界観を主張しました。現代では、人間の行動原理は科学的な因果律に支配されているとする要素還元論の形をとって、新たな決定論が支持を得ています。

さて、決定論に従うと、自然界にあるのは因果律だけで、人間の自由意志は存在しないという結論に至りかねないと言われますが、これはどう考えるべきなのか？

たとえば文化祭の合唱コンクールで、あるクラスが努力も虚しく優勝を逃してしまったとします。クラスメイトたちは後日振り返って、練習量が足らなかったとか、選曲が悪かったとか、色々と敗因を理由づけします。「あのときこうしておけば良かった」「もしあのときこんな風に出来ていれば」とも考えます。

人間は生きている限り、どんな瞬間にも絶えず無数の選択肢のうちの一つを選び取って行動しています。しかし、結果が出てしまった後になると、そこに至るまでの絶え間ない選択の過程や、選択されなかった方の未来は影を潜め、あたかもその結果までのプロセスが一本の筋のように原因-結果の関係で結ばれているように見えてしまうのではないのでしょうか。

決定論的なものの見方とはつまり、時間の直線的な経過に対し、結果から遡ってしか物事を考えられないということだと思います。

ときとして自分の手ではどうしようもない事態に、私たちは直面します。理不尽でさえある現実を前にして、決定論的な解釈づけに逃げず、甘んじて現実を受け容れる覚悟を持ったとき、私たち高校生は大人へと成長することができるのだと思います。

「さいは投げられた」という言葉を、ネガティブに受け取るか、ポジティブに受け取るかは人によって違います。それでも多様な受け止め方の中に、通底するものを持っているのが、大人という存在なんだと思います。そして、文化祭は、そうした価値観に重みを持たせる人生経験を仲間と一緒に体験できる、後にも先にも一度きりの通過儀礼なのだ強く感じます。

…以上が幻の巻頭言でした。

第54回文化祭においては、過去最多となる来場者の方にお越しいただき、2日目のシティプラザ公演も大盛況に終わりました。

ご支援くださった同窓会の皆様、協賛企業様、先生方や保護者の皆様に心から感謝しています。ありがとうございました。

中学鉄道研究部の平成筑豊鉄道様 見学会について

坂井 利優 (75回生)

令和5年度中学鉄道研究部部長

令和5年度中学鉄道研究部部長、坂井利優(75回生)と申します。

我々中学鉄道研究部(以下、鉄研と記載します)は、昨年同窓会の皆様からのお誘いをいただき、河合賢一(37回生)様が社長を務めていらっしゃる第三セクターの平成筑豊鉄道様を見学させていただきました。

例年、鉄研の巡検は青春18きっぷという割引切符などを活用しまして、日帰りの新入生歓迎巡検をGWに、夏に3泊4日程度の夏巡検、冬に1泊2日程度の冬巡検を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため令和2～4年度は活動を自粛しておりました。

昨年度の令和5年度から、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、宿泊なしという条件のもと活動を再開し、今年度、令和6年度より例年通りの巡検を実施する予定になっております。今年度の新入生歓迎巡検ではJR貨物様の門司機関区の見学を実施し、夏巡検では中国地方の鉄道の乗車を実施を予定しております。



▲金田駅構内の車両基地です。様々な車両を見学させていただきました。(吉村 蒼空(75回生)撮影)

我々が平成筑豊鉄道様の見学をさせていただいたのは、令和5年の8月7日で、当日は博多駅で集合し、直方駅で乗り換えて平成筑豊鉄道様の本社最寄り駅の金田駅へと向かいました。金田駅では構内の車両基地で車両の動いている様子や、観光列車のここと列車などを見学させていただき、鉄研一同とても楽しませていただきました。



▲油須原駅にあったタブレット閉塞機です。色々操作の手順があって、基本的には何があっても事故が起きないような構造になっていました。(吉村 蒼空(75回生)撮影)

元の前ではお昼過ぎに源じいの森駅まで列車に乗車し、駅近くに展示されている車掌車を見学後に徒歩で油須原駅に移動し、油須原駅の明治時代から残る駅舎を見学させていただく予定でしたが、構内見学が楽しすぎて源じいの森駅見学の時間がなくなってしまったため、金田駅構内と油須原駅の見学のみさせていただきました。

金田駅から油須原駅までの移動中には河合社長ご自身から平成筑豊鉄道様の現況について、そして各地の地方鉄道が抱えているさまざまな問題や課題についてのお話をいただきました。

油須原駅に到着した後は、九州島内最古と言われる駅舎を見学させていただきました。見学中にタブレット閉塞機という列車同士の正面衝突を防止する機械や、腕器式信号機という手動の信号機など昔の鉄道の保安装置について解説をいただいたあと、それぞれの機器の実際の取り扱いを体験させていただきました。昔ながらの非常にアナログなシステムでしたが、現在の鉄道にも残る安全第一、何か問題があったらまず止めるという考え方がその機構に現れていて、大変興味深かったです。油須原駅から再び直方駅に戻って解散となりましたが、正直帰りたくないと言いたくなるほど楽しかったです。



▲現在では駅舎の改築や廃線などによってその数を減らしている木造駅舎です。河合社長から直々に解説をいただきました。(行正先生撮影)

末尾にはなりますが、お忙しい中わざわざ予定を空けてくださった河合社長、このような貴重な機会をくださった同窓会の皆様、同窓会と鉄道研究部の様々な調整をしてくださった中学教頭の藤吉先生、当日引率してくださった顧問の郡先生、行正先生、本当にありがとうございました。

令和5年度教育振興基金を財源とした 活動の報告について

附設高等学校・中学校校長 町田 健

令和5年度は西棟2階事務室前に、表彰状を飾るためのパネルを設置しました。生徒の努力により、様々な部門で輝かしい賞を受賞しています。ご来校の際はぜひ御覧ください。



入学式や卒業式などの式典の際に使用する演台カバーを作りました。

別珍の布地に校章の金糸銀糸の刺繍が施され、厳かな式典に相応しい重厚な仕上がりとなりました。



上記2点の経費について教育振興基金より支出いたしましたので、ここにご報告いたします。

生徒が安心して勉学に励み、快適な学校生活が送れる環境を整備するために、引き続きご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

在校生の活躍

在校生が本校外部の各方面で活躍しています。その一部を紹介します。

附設高校 教諭 木村 慶二

(2023年 7月) 7月3日～11日に、第34回国際生物オリンピックがアラブ首長国連邦（アルアイン）で開催されました。

日本代表（全4名）のメンバーとして本校高校3年生の井上紗綺さんが参加し、金メダルを受賞しました。また、その結果を受け、文部科学大臣より「文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。

(2023年 7月) 7月16日～25日に、第55回国際化学オリンピックがスイスのチューリッヒで開催されました。

日本代表（全4名）のメンバーとして本校高校3年生の山之内望花さんが参加し、金メダルを受賞しました。また、その結果を受け、文部科学大臣より「文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。

(2023年 7月) 中学ディベート部が8月5日（土）～8月7日（月）まで千葉大学にて行われる第28回全国ディベート選手権（ディベート甲子園）に出場しました。

中学3年 宮崎貫輔君、冷牟田宗一郎君、高橋由宇君、中学2年 原田紗彩子さん、古川琉裕君、住田ゆずほさん、以上の6人のメンバーで九州地区代表校の一つとして、出場しました。

(2023年 8月) 8月17日～20日に、日本生物学オリンピック2023本選が静岡大学で開催されました。

本校からは以下5名の生徒が出場し、全員がメダルを獲得するという快挙を達成しました。

井上紗綺さん（高3）……金メダル
大城義和君（高3）……銀メダル
徳永沙羅さん（高3）……銀メダル
福山月君（高3）……金メダル
櫻井大聖君（高2）……銅メダル

なお、井上紗綺さんは総合成績首位で静岡大学学長賞を受賞し、櫻井大聖君は来年カザフスタンで開催される国際生物学オリンピックの日本代表候補に選出されています。

(2023年 8月) 8月29日・30日に、東京都八王子市の工学院大学で開催された、「夢・化学-21」委員会及び日本化学会主催の化学グランプリ2023（二次選考、通称「化学の甲子園」）に本校から以下4名の生徒が出場し、各賞を受賞しました。

福山月君（高3）……金賞
乙部遊真君（高3）……銀賞
大城義和君（高3）……銅賞
徳永沙羅さん（高3）……銅賞

◎参考 化学グランプリは、全国の中高生に化学への興味・関心を喚起し、意欲・能力を高め、世界にも通用する若い化学者を育成することを目的に、1999年より開催しています。本年は、7月17日（月・祝日）に全国67会場で開催された一次選考（マークシート式試験）に、2,884名の中高生が参加しました。一次選考を通過した成績上位者81名が、大賞の座をかけて二次選考（実験試験）に挑みました。

(2023年12月)

第67回全国学芸サイエンスコンクール（主催旺文社）におきまして、中学3年生C組の仲井勝太郎君と同じく中学3年生C

組の川口永眞さんの卒業論文・制作の作品が、応募総数全国81,948点のなかから内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞に選ばれました。また、本校に対しても、大日本印刷学校特別奨励賞（アート分野 絵画部門）が授与されました。

【内閣総理大臣賞】

◎仲井 勝太郎 君
絵画部門 「暖かい家」

【文部科学大臣賞】

◎川口 永眞 さん
小説部門 「点晴と黎明」

(2023年12月) 第91回全国書画展覧会におきまして、中学1年生D組の井筒珠希さんの作品が、文部科学大臣賞に選ばれました。

【文部科学大臣賞】

◎井筒 珠希 さん
絵画部門 「今日をふりかえる」

(2024年 4月) 第48回全国高等学校総合文化祭（岐阜大会）小倉百人一首かるた大会福岡県予選（4月29日（土・祝）於 福岡県立福岡高等学校）にて、高校2年生A組 カブリド泉愛さんが見事に勝ち抜き、福岡県代表チームに選抜されました。全国高等学校総合文化祭（7月31日（水）～8月2日（金）於 山県市総合体育館）でも、福岡県代表として全力を尽くしてきます。

(2024年 4月) 2024年 7月 にカザフスタン共和国・アスタナで開催される第35回国際生物学オリンピックの日本代表に高校3年の櫻井大聖君が選ばれました。今後、大学教員や専門家も交えた国際生物学オリンピック日本委員会・プロジェクトチームによる特別教育を受け、7月の国際大会に臨みます。

後日、7月7日～14日に、第35回国際生物オリンピックがカザフスタン共和国（アスタナ）で開催されました。

日本代表（全4名）のメンバーとして本校高校3年生の櫻井大聖君が参加し、銀メダルを受賞しました。また、その結果を受け、文部科学大臣より「文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。

(2024年 4月) 2024年度AJC(Arts Japan Crafts)クリエイターズコンテストにおいて、新高1の大島彰真君の作品「植木鉢の真実」が、審査員特別奨励賞を受賞しました。

全国からプロを含むクリエイター数百名が応募した中で、上位21作品に選ばれ、3/26(月)～30(土)の期間、東京都美術館で展示されました。



(2024年 7月) 全国ディベート甲子園九州地区大会（7月6日（土）・7日（日）於 熊本尚綱中高校）にて、3A 平川 真太郎君・3B 住田 ゆずほさん・3B 原田 紗彩子さん・3D 古川 琉裕君 2C 吉村 俐音君・2D 黒木 翔平君が出場し、激戦を勝ち抜き、3位入賞を果たしました。このチームで全国ディベート甲子園（8月10(金)～12(月)於 千葉大学）に九州地区代表校の一員として出場します。

附設グッズのご紹介

URL<https://kurume-u-ep.jp/news/fusetu-item/>

附設グッズの売り上げの一部は教育振興基金に寄付され母校の教育環境整備のために使われますので、同窓会員の皆様にも売り上げへのご協力をお願いいたします。母校売店やインターネットにて購入できます。附設グッズはその他にもございます。上記URLよりご確認ください。なお、附設カレーは、諸般の事情により、販売を終了いたしました。



附設中高グッズ エコバッグ 各¥880 (税込)

商品番号：060
 サイズ：本体／約290×360 (持ち手含む540)mm
 持ち手／約60×180mm
 折りたたみマチ／約190mm

容 量：14L
 素 材：ポリエステル
 カラー：黒・紺・青・赤・カーキ

人気のエコバッグ「クルリトデイリーバッグ」から附設バージョンが登場。附設校正門をモチーフにしたデザインがプリントされています。クルクルと簡単にたたためてコンパクトに持ち運べるのが最大の特長です。質感や持った時の手の感触にこだわった高密度ポリエステルは、洗濯ができる上に、使ってもシワになりにくい素材で、手に持ったとき、肩にかけたときに負担になりません。



附設中高グッズ 三菱五角 (合格) 鉛筆 あすき色HB 1セット5本入り ¥550 (税込)

商品番号：054
 附設校の正門をモチーフにした校名入り。
 中学バージョンと高校バージョンがあります。



クルトガシャープペンシル 各¥400 (税込)

商品番号：053
 持ち手：黒・青・緑・ピンク
 学生所有率70%超えの大人気シャープペンシル三菱クルトガ。
 体操服などに使われている「FUSETSU」のロゴ入り。

同窓会ホームページの「ご利用の手引き」です

保存版

同窓会WEB名簿ご利用の手引き

- 皆様の登録情報の開示範囲はご自身で設定できますが、名簿がより便利に活用されるよう極力、開示をお願いします。
- 終身会費納入状況をチェックして、未納の方は納入をお願いします。同窓会ホームページ下段の「終身会費について」もご一読下さい。

IDおよび初期パスワードのお知らせ

同窓会WEB名簿にアクセスして、以下のID・パスワードでログインして下さい。ログイン後、現在登録されている情報をご確認いただき、必要な変更を行うことができます。

- 1回生～65回生の方は** ログインID：旧ログインIDと同じ
パスワード：旧初期パスワードの最初に「fst」を加えた8文字
- 66回生～の方は** 卒業時にお渡しした同窓会カードに記載されています。

※ログインID、パスワードがご不明な方は「お問い合わせ」メールフォームからご連絡ください。

- ① ホームページのWEB名簿ボタンをクリックしてください。



クリック!!

- ④ ご自身の登録情報の確認と変更開示の可否はご自身でお決めください。



編集画面

- ② 「会員ID／パスワード」を入力後、ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要になります。

- ✓ メールアドレスと生年月日を入力された後、すぐに確認メールが届きますのでご確認ください。
- ✓ ログイン後、会員ID／パスワードは自由に変更できます。
- ✓ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった場合は、登録済のメールアドレスと生年月日で即時に再発行を受けることができます。
- ✓ セキュリティはシステム管理者にて十分に守られますが、各会員におかれましても、ご自身のID／パスワードは確実に保管していただきますようお願いいたします。

- 登録情報は都度ご自身で変更してください。特に住所は同窓会報を送付するためにも大事な情報です。
- 登録情報の開示範囲は「全同窓生に公開」「同期のみに公開」「非開示」の設定ができますが、便利な名簿となるようできる限り開示をお願いします。

- ③ 会員専用サイトでは主に以下のような機能があります。

- ✓ ご自身の登録情報の確認と変更
- ✓ 同窓生の検索・閲覧 (WEB版同窓会名簿)
同窓生の情報のうち、開示されたものを検索・閲覧することができます。

- ⑤ WEB版同窓会名簿の閲覧

卒業年・期数、氏名、住所、勤務先、利用しているSNSを検索し、本人が開示した情報を閲覧できます。



メールアドレスをお持ちでない方は、FAXやお電話で代理入力しますので同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL:0942-44-2222 / FAX:0942-44-8257

2024年7月 久留米大学附設高等学校同窓会

❖❖❖❖❖❖ 『終身会費』納入のお願い ❖❖❖❖❖❖

同窓生の皆さまには日頃より同窓会活動へご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、同窓会活動の主な財源は、入会金、年会費、終身会費および広告協賛金や寄付金により成り立っております。

入会金と年会費については高校在学中に校納金(授業料など)と一緒に納入済です。**終身会費については、65回生以降は高校在学中に校納金と一緒に納入済ですが、1回生から64回生までは卒業後に納入することになっています。**

1回生から64回生について、2023年度はありがたいことに33名の納入がありました。納入率はまだ**61.8%**です。

終身会費制度は1977年(昭和52年)附設高校創立25周年記念式典当日の同窓会総会にて決議、導入されました。

終身会費(同窓会特別会計)の用途は同窓会規約会計細則に「母校の記念行事、設備資金の支援や一般会計の赤字資金充当等」と記述されており、これまで、創立50周年事業費の一部、卒業生名簿の発行、同窓会活動費用赤字補填、創立60周年事業における母校の環境整備等で、合計約8,800万円を支出してきました。

同窓会の目的は会員間の互助親睦と母校の発展を図ることにあります。

毎年の同窓会会員向け活動としては、同窓会報の発行をはじめ支部総会・懇親会、就職セミナー、附設塾、回生代表世話人会、新人歓迎会といった行事を行っております。また、母校支援も積極的に行っており、生徒会活動(男く祭、体育祭)、各クラブ活動、進路講座などへの支援や卒業生への記念品贈呈等を行っております。

特に2020年度および2021年度は、同窓会報広告協賛金や同窓会活動費から母校が運営する教育振興基金(同窓会も運営委員として参画)へまとまった寄付を行い、同基金を活用して母校の各種コロナ対策が実施されました。

趣旨をご理解いただき、1回生から64回生で終身会費未納の方は、下記手順により是非とも納入をお願いします。

今後とも同窓会の運営と活動に格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会 会長 吉田清隆(23回生)

終身会費払込の確認

ご自身の終身会費の「未納」「完納」は、同窓会HPの「WEB名簿」にログイン後、「プロフィール確認・変更」の「基礎情報」で確認できます。ログインに必要なID・PW(パスワード)がご不明な方や初めてログインされる方は、「お問い合わせ」から、ID・PWの問い合わせを行ってください。



終身会費振込方法

終身会費(30,000円)未納の方は下記の口座にお振込みください。振込手数料はご本人負担にてお願いします。お振込みにあたり振込人氏名には、最初に回生番号を入れてその後にご自身のお名前をお願いいたします。(見本:21フセツタロウ)

ゆうちょ銀行からの振込の場合

口座記号

01750-7

口座番号

0054988

名 義

久留米大学附設高等学校同窓会

銀行からゆうちょ銀行同窓会口座への振込の場合

- ①金融機関名:「ゆうちょ銀行」
- ②支店名は、「イ」と入力。支店名:「179」を選択
- ③種別は、「当座」を選択。
- ④口座番号は「54988」
- ⑤口座表示
「クルメダイガクフセツコウトウガツコウドウソウカイ
ゆうちょ銀行 一七九 当座0054988」と表示

2024年（令和6年）12月吉日

附設高校同窓会会員の皆様へ

久留米大学附設高等学校同窓会
会長 吉田清隆

教育振興基金への寄付のお願い

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。そして、この世界的な難局にご尽力されている方々に感謝申し上げます。

母校では、令和5年度において、教育振興基金を財源とした環境整備を実施しておりますが（69ページご参照）、今後も引き続き生徒の学力向上ならびに学校生活の充実を狙いとして教育環境の整備と財政基盤強化を図るべく、同窓会の皆様には、趣旨をご理解いただき、同基金への寄付をお願いする次第でございます。

1) 銀行からの振込方法

振込先：福岡銀行 久留米営業部 普通預金 1722400 / みずほ銀行 久留米支店 普通預金 1662333

口座名：久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い：お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。

2) 郵便局からの振込方法

振込先：01720-9-45035

口座名：久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い：お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。


3) インターネットからの申し込み方法

附設高校ホームページ⇒教育振興基金⇒久留米大学へのご支援をお考えの皆様へ⇒

インターネットからの申し込み（個人の方のみ）⇒寄付をする⇒寄付の種類⇒

16番「附設高等学校・中学校教育振興基金」⇒メールアドレス登録⇒寄付を開始⇒案内に従い入力。

注意事項：手続きの最後に確認事項として、寄付者の属性の質問があります。

質問3（必須）では「**附設卒業生**」を選択、質問4では「**附設高等学校**」を選択、質問5では「**高校回生番号**」を入力することで、附設同窓生による寄付であることが明確になります（右図をご参照ください）。 

3. 本学との関係につきまして、当てはまるものをご選択ください。	<input checked="" type="radio"/> 附設卒業生
4. 卒業生、在學生、在校生の方は学校名をご選択ください。	<input checked="" type="radio"/> 附設高等学校
5. 卒業生、在學生の方は学部と学類番号、附設生については入学回数または卒業回数の数字のみをご入力ください。	23

クレジットカード払い、コンビニエンスストア、銀行支払い（Pay easy）ができます。

4) 問合せ先 久留米大学附設高等学校・中学校事務室 電話 0942（44）2222

以上

●同窓会室の紹介●

1号館1階の旧事務室の後方（体育館側の入口から入って右手側）に、同窓会室と後援会室が一体になって同じ室内に設置されております。同窓会と後援会のより一層の連携・協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っております。卒業アルバム、附設50年史をはじめとした記念史、同窓会報バックナンバー、冊子で発行された過去の同窓会名簿なども資料として保管されており、閲覧が可能です（但し、一部欠落がございますので、予めご了承下さい）。1号館の解体に伴う2025年の移転の前に、事前にご連絡を頂いた上で、現・同窓会室に一度足をお運び下さい。

同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品、今年からはフォトフレーム付き電波時計 ▶



同窓会に対する各種問い合わせについて

【電話】0942-44-2222 【FAX】0942-44-8257

【問合せフォーム】<http://fusetsu-dosokai.com/contact>

【同窓会ホームページ】<http://fusetsu-dosokai.com/> 【WEB名簿】<https://pu.palsyne.net/s-fusetsu/>

【同期の回生代表世話人】P.49ご参照 回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせください。世話人の同意を条件に回答を差し上げます。

※住所変更などのご連絡は、メールの他、電話およびFAXでも受け付けしております。（本文P.72ご参照）
※ご同期などの物故者に関する情報をお持ちの方は同窓会までご連絡ください。

同窓会ZOOMについてのご案内

コロナ禍を経て、オンラインミーティングが一般的になりました。同窓会では、ZOOMのアカウントを保有しておりますが、こちらは同窓会員の皆様もご利用頂く事が可能です。ご同期との懇親会などで積極的にご活用いただければと存じます。詳しくは、同窓会ホームページの2022年8月4日付のお知らせ「同窓会ZOOM利用のご案内」をご覧ください。

過去の同窓会報を探しています！

去年の同窓会報にて、過去の同窓会報、具体的には第1号から第3号まで（尚、第4号は1980年（昭和55年）の発刊です）を捜索している事を告知させて頂きましたが、残念ながら有力な情報が得られておりません。些細な情報でも構いませんので、何らかの手掛かりをお持ちの方は、同窓会事務局までご一報頂けますと幸いです。特に、御父様・御祖父様が同窓生の方は、ご実家に帰省された際などに、ご確認頂けますと幸甚です。

◆編集後記

長らく広報委員長を務めて頂きました33回生の勝連治様の後任として本年より広報委員長を務めております35回生の高尾野健と申します。今後とも宜しく願い申し上げます。勝連様いままで長い間ありがとうございました。

前任の勝連様から完璧な引継書を頂戴したにも関わらず、同窓会報に関する原稿の依頼時点から遅れをとってしまい、皆様方には大変ご迷惑をお掛けしました。この場を借りましてお詫び申し上げます。因みに、同窓会報が12月に発刊となりましたのは、当方の作業遅れが原因ではなく、年末年始に同窓生の皆様にお手に取っていただきたいという同窓会の意向ですので念のため。

来年2025年の附設高校創立75周年記念事業を控え、様々な情報が盛りだくさんの会報となりましたが、日頃の喧騒を忘れ、母校で過ごした懐かしい時間を思い出し、母校発展に馳せる思いを抱いて頂くお供となりましたら幸いです。最後になりますが、本会報にご寄稿ご協力いただきました皆様、編集印刷にご協力を頂きました糸川印刷様（岩佐直樹様）に改めて厚く御礼申し上げます。
（広報委員会委員長 高尾野 健(35)）

久留米大学附設高等学校同窓会

広報委員会・広告募集制度委員会：高尾野 健委員長（副会長、35）、古賀善彦委員（副会長、23）、中村和徳委員（副会長、27）、栗木康幸委員（理事東京支部長、21）、実藤光二郎委員（理事福岡支部長、26）、津福 一宏委員（福岡支部幹事長、35）、宮武博史委員（東京支部幹事長、41）

協力：35回生福岡支部幹事団（薬師寺和道幹事、他）、41回生東京支部幹事団（白木淳二幹事、他）、白水孝典先生、穴井陽一附設中学校・高等学校事務室長、高橋友作顧問（19）、安部政信評議員（20）、吉田清隆会長（23）、中村昌子様（同窓会事務局）、長野佐知子様（同窓会東京支部事務局（メディア総研））